

博士論文

論文題目 ベトナム語における指示詞と
指示詞に由来する文末詞・感動詞

氏 名 安達 真弓

目次

目次	1
序文	4
略号	5
図表	6
要旨	7
第1章 はじめに	10
1. 1 本研究の考察対象	10
1. 2 研究方法とデータ	10
1. 3 ベトナム語の概略	11
1. 4 本論文の構成	12
第2章 先行研究と用語の定義	13
2. 1 ダイクシス表現	13
2. 2 指示詞	14
2. 2. 1 指示詞の統語的特徴	15
2. 2. 2 指示詞の用法	16
2. 2. 3 指示詞の系列	17
2. 3 文末詞	18
2. 4 感動詞	21
2. 4. 1 感動詞の形式・機能と分類	21
2. 4. 2 生理的な音・文末詞・談話標識と感動詞の境界	23
2. 5 指示詞・文末詞・感動詞のまとめ	24
2. 6 文法化	24
2. 6. 1 指示詞の文法化	25
2. 6. 2 指示詞から文末詞への文法化	26
2. 6. 3 指示詞から感動詞への文法化	28
2. 6. 4 指示詞から文末詞・感動詞へ文法化のまとめ	31
第3章 ベトナム語の指示詞	32
3. 1 形式	32
3. 1. 1 単独形と修飾形の区別	32
3. 1. 2 指示詞述語文	37
3. 1. 3 指示詞の複合形	38

3. 1. 4	各形式の出現頻度	40
3. 2	用法	42
3. 2. 1	直示用法	42
3. 2. 2	照応用法	49
3. 2. 3	記憶指示用法	52
3. 2. 4	曖昧指示	54
3. 2. 5	Placeholder	55
3. 2. 6	人称指示	57
3. 2. 7	時間指示	60
3. 3	ベトナム語指示詞のまとめ	63
第4章	ベトナム語指示詞由来の文末詞	65
4. 1	ベトナム語文末詞と文法化・複合パターン	65
4. 2	ベトナム語指示詞と同形の文末詞	67
4. 2. 1	データ	68
4. 2. 2	直接経験に基づく判断を表す <i>đây</i>	69
4. 2. 3	事物を列挙する <i>này</i>	72
4. 2. 4	情報共有を志向する <i>đây</i>	74
4. 2. 5	知識差を明示する <i>kia/cơ</i>	77
4. 2. 6	共有知識を確認する <i>ây/y</i>	80
4. 2. 7	ベトナム語指示詞と同形の文末詞のまとめ	88
第5章	ベトナム語指示詞由来の感動詞	92
5. 1	ベトナム語感動詞の機能・形式と分類	92
5. 2	ベトナム語指示詞と同形の感動詞	93
5. 2. 1	状況変化に対する驚きを表す <i>kia!</i>	94
5. 2. 2	話し手の状況に注意を向けさせ、聞き手の行動を制止する <i>đây!</i>	96
5. 2. 3	共通の規範と照らし合わせ、聞き手の行動・発言を制止する <i>ây!</i>	98
5. 2. 4	直後の話し手の発言に注意を向けさせる <i>này!</i>	102
5. 2. 5	話し手の先行する発言の正当性を確認する <i>đây!/đó!</i>	104
5. 2. 6	ベトナム語指示詞と同形の感動詞のまとめ	106
第6章	おわりに：ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞への文法化	108
6. 1	これまでの議論のまとめ	108
6. 1. 1	ベトナム語指示詞についてのまとめ	108
6. 1. 2	ベトナム語指示詞と同形の文末詞についてのまとめ	110

6. 1. 3 ベトナム語指示詞と同形の感動詞についてのまとめ.....	110
6. 2 ベトナム語指示詞・文末詞・感動詞と聞き手.....	111
6. 3 ベトナム語指示詞の文法化とその傾向.....	111
6. 4 残された課題と今後の展望.....	113
引用したデータ.....	115
参考文献.....	116
付録：自然談話のデータ.....	123
I. <i>cơ/kia</i>	124
II. <i>đáy</i>	132
III. <i>ý/áy</i>	150

序文

2007年、ハノイに留学した私は、留学生を対象とするベトナム語クラスにおいて、ベトナム語の指示詞 *đây*, *đấy*, *kia* はそれぞれ日本語の「これ」、「それ」、「あれ」に当たると教わりました。しかし、日常生活の中で、その一般化が当てはまらないような場面にいくつも遭遇しました。また、*đây*, *đấy*, *kia* という形式であっても、指示詞には分類しにくいような例があることも分かってきました。現時点での私の対案は、*đấy* が「あれ」、*kia* が「それ」に相当することもあれば、「こそあ」というグロスでは対応できないものもあるというものです。

本研究を進めるにあたり、丁寧かつ熱心なご指導を賜った東京大学人文社会系研究科 林徹教授、同じく総合文化研究科 生越直樹教授に深謝いたします。また、特に文末詞について多くの知識や示唆をいただいた香港理工大学人文学部 Foong Ha Yap 准教授、コンサルタントとして聞き取り調査に貴重な時間を割いてくださったハノイ国家大学ベトナム学・開発学研究所 Nguyễn Dương Liễu 講師に感謝いたします。

最後に、私がここに至るまでの道のりを支えて続けてくれた家族に心より感謝します。

2016年3月

安達 真弓

略号

CLF	類別詞	COMP	補文標識
COP	コピュラ	INTJ	感動詞
NEG	否定	PASS	受身
PFV	完了	PL	複数
POT	可能性	PROG	進行
PROH	禁止	Q	疑問
REC	相互	REL	関係詞
SFP	文末詞	SG	単数
TOP	主題		

図表

表 1 .	指示詞の系列.....	18
表 2 .	指示詞・文末詞・感動詞の相違点.....	24
表 3 .	指示詞の文法化.....	26
表 4 .	Papuan languages における clause final demonstratives.....	29
表 5 .	日本語指示詞の感動詞化.....	30
表 6 .	韓国語指示詞の感動詞化.....	31
表 7 .	ベトナム語指示詞の形態的特徴.....	32
表 8 .	ベトナム語における demonstrative reinforcers.....	39
表 9 .	ベトナム語指示詞の各形式の出現頻度.....	41
表 1 0 .	ベトナム語指示詞の照応用法と記憶指示用法.....	54
表 1 1 .	ベトナム語指示詞の系列と用法.....	64
表 1 2 .	自然談話データ中の話し手の背景情報.....	68
表 1 3 .	ベトナム語指示詞と同形の文末詞の出現数.....	69
表 1 4 .	ベトナム語指示詞と同形の文末詞と話し手・聞き手の知識の状態.....	89
表 1 5 .	ベトナム語指示詞と同形の文末詞の使い分けと聞き手.....	91
表 1 6 .	ベトナム語指示詞と同形の感動詞の機能.....	107
表 1 7 .	ベトナム語指示詞とそれと同形の文末詞・感動詞の機能.....	109
図 1 .	ベトナム語指示詞と対比.....	46
図 2 .	ベトナム語指示詞による空間分割.....	47
図 3 .	ベトナム語指示詞の指示範囲.....	47
図 4 .	ベトナム語における情報の特徴付け.....	113

要旨

ベトナム語には、主に話し手から指示対象までの距離に基づいて区別される 3 系列の指示詞があり、指示詞の基本的な形式は全て、それと同形の文末詞及び（あるいは）感動詞を持つ。本研究は、ベトナム語におけるこのような同形式の 3 要素の関連性を探ることを目的とする。指示詞に由来する文末詞・感動詞の発展は、他の言語においても報告されている。よって、本稿でも、ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞へという変化の方向性を想定する。まずは、それぞれの要素の共時的データを考察し、その機能を体系的に整理する。そして、その体系に見られる相違点と共通点を指摘する。

第 1 章では、本研究の考察対象がベトナム語（の主要 3 方言のうち、標準的であると考えられている北部方言）の指示詞とそれと同形の文末詞・感動詞であること、また、それらの用法を自然談話、戯曲、小説の台詞部分など、（指示詞・文末詞・感動詞が現れやすいと考えられる）口語ないし口語に近いデータを用い、言語コンサルタント（40 代、ベトナム人女性 1 名）の判断を仰ぎつつ分析することを確認する。そして、ベトナム語の基本的特徴（オーストロアジア語族ベト・ムオン語派、孤立語、基本語順 SVO、主要部先行型など）と、本論文の構成について述べる。

第 2 章では、本研究のキーワードとなる、ダイクシス表現、指示詞、文末詞、感動詞、文法化などの用語について、様々な言語における先行研究を概観する。指示詞は、話し手から指示対象までの距離を基準として近称・遠称（2 系列の指示詞体系の場合）あるいは、近称・中称・遠称（3 系列の指示詞体系の場合）と呼ばれることが多い。（本研究でもこのような慣習化した呼称を用いるが、以下で述べるように、ベトナム語指示詞の実際の用法を正しく反映しているわけではない。）文末詞は文末において、また、感動詞は主に文頭において、話し手の感情や認識、聞き手への働きかけを表すが、指示詞のような具体的な指示対象は持たない。感動詞は指示詞と同様に、それ自体で独立した発話になることができるが、文末詞は単独で現れることができない。ジェスチャーの付随も指示詞と感動詞の共通点であるが、文の構成要素として述語の項になったり、名詞を修飾したりできるのは指示詞のみである。一方で、指示詞・文末詞・感動詞はいずれも、その解釈を文脈に依存するダイクシス表現である。指示詞は、*place deixis*（話し手や聞き手の位置と比較して、指示対象のある位置を明示すること）にも、*discourse deixis*（同一テキスト上の、現在の発話、先行する発話、あるいは後続する発話を指示すること）にも関与する。一方、文末詞と、*phatic interjection*（コミュニケーションを円滑に進行させるために用いられる感動詞）や *discourse marker*（談話の意味を理解する手助けとなる標識）として分類される一部の感動詞は、*discourse deixis* に特化している。

次に、各言語における指示詞から文末詞・感動詞への文法化について考える。文法化とは、語彙的な要素が文法的な要素へと変化することをいう。指示詞と同形の文末詞の存在はタイ語、Malayo-Polynesian languages、Papuan languages において、また、指示詞と同形の感動

詞は英語、中国語、日本語、韓国語などにおいて報告されている。これらの文末詞や感動詞が指示詞から派生したものであると仮定すると、一つの形式が非常に多様な機能を持つことになるが、言語によっては、その機能と指示詞の距離や人称による区分の間に、関連する抽象的な意味を見出せるものがある。例えば、近称指示詞は文末詞として、話し手の直接経験を表すことがタイ語や Ambonese Malay, Malay, Javanese（以上、Malayo-Polynesian languages）、また、Bunaq, Adang, Abui（以上、Papuan languages）において観察される。

第3章では、ベトナム語の指示詞について、単独形（近称 *dây*、中称 *dây, đó*、遠称 *kia*）、修飾形（近称 *này*、中称 *ây, ý, đây, đó*、遠称 *kia*）の各形式と近称・中称・遠称の各系列の特徴を記述した後に、それらが以下の各用法においてどのように使い分けられるかを考察する。

発話の場にある目に見えている対象を指す直示用法については、距離、人称、共同注意、対比、可視性などの観点から記述し、従来の排他的な区分ではなく、新たに提案する、包含を許容する距離区分を採用する。つまり、ベトナム語の指示詞は、A. 話し手の周囲（近称・中称・遠称の3つから選択可能）、B. 前記Aより広く、対象を具体的に認識できる範囲（中称と遠称の2つから選択可能）、C. 話し手の直接認識が難しい範囲を含む広い範囲（中称のみ使用可能）という、話し手を中心に広がる小・中・大の3つの同心円の中で相対的に運用されていると考えられる。よって、話し手の周囲では近称・遠称・中称のいずれによっても指示される可能性があり、また、直接認識が可能なBの範囲においては、聞き手の位置や指示対象が談話に導入済みか否かに拘らず、中称と遠称のどちらによっても指示される可能性がある。したがって、中称の指示対象は物理的な距離について中立的で、話し手から近いと感じられず、見えていても見えていなくてもいいという、その特徴がかなり捉えにくいものであると言える。ここで、中称が最も遠い場所を表すと結論付けるに当たり、中距離を連想させる「中称」という呼称との間に齟齬が生じる。しかしながら、系列名に変更を加えると先行研究を参照しにくくなるため、本稿ではその定義に変更を加えるに留める。

中称は非直示的用法においても広く使用される。先行詞を持つ照応用法において中称は、特定された対象だけでなく、不特定の対象や連動的解釈を持つ対象も指示できる。近称については言語的テキストとして提示された先行詞を指示する *textual deixis* の用法がある。遠称は照応用法では使用できないが、過去の知識を先行詞なしで直接指示する記憶指示用法においては使用可能なことがある。この用法においては、中称の方が広く使用される。また中称は、疑問詞に後置され、「どこか」や「誰か」などの曖昧な対象を指示する用法や、ある単語が思い出せない時に使われる *placeholder* としての用法も持つ。但し、曖昧指示に用いられるのは *dây* あるいは *đó* であり、*placeholder* として用いられるのは *ây* のみである。指示詞が親族名称に後置され三人称を表示する時、中称の *ây* は中立的な意味を持ち、遠称の *kia* はネガティブな意味を持つ。時間を指示する場合、近称は発話時を、遠称は発話時から過去あるいは未来に向かって離れた時間を表し、中称は照応的に時を示す。以上のように、直示用法においても非直示用法においても、近称と遠称は確定した指示対象を指すことが多い

が、中称は未確定の指示対象も指すことができる。

第4章では、ベトナム語文末詞の概略を述べた後、ベトナム語指示詞と同形の文末詞の使い分けを、自然談話（ある家族の夕食時の会話）のデータを用いて例示する。指示詞は話し手と指示対象の間の距離を表すが、それと同形の文末詞は情報の質についての話し手の主観的判断や、聞き手への情報の提示の仕方に関わる。具体的には、*đây* は直接経験に基づく判断（話し手の行動の開始、切迫感、不安、主観的評価）、*này* は事物（名詞句や節）の列挙、*đây* は情報共有の志向（聞き手に対する新情報の提示、あるいは聞き手の有する新情報への関心）、*kia* 及び縮約形 *co* は知識差（話し手による聞き手の想定 of 修正、あるいは想定を覆す情報を受けての話し手の驚き）、*áy* 及びその縮約形 *y* は共有知識の確認（聞き手にとって既知であるはずの情報を思い起こさせる、あるいは話し手にとって既知であるはずだが一時的に思い出せなくなっている情報を思い出そうとする）を表す。よって、話し手はその情報が聞き手にとって新情報であるか、既に共有された情報であるかを把握していなければ、指示詞と同形の文末詞を適切に選択することはできない。

第5章では、ベトナム語における感動詞を概観した後、指示詞に由来する感動詞をその機能に基づいて分類する。指示詞由来の感動詞は、感情の表出（状況変化に対する話し手の驚きを表す *kia*）や、聞き手の行動を制止する対人的機能（話し手の状況に注意を向けさせる *đây*、共有の規範に注意を向けさせる *áy*）、談話構造や発話交替に関わる機能（質問に答えるために話し手が長いターンを取ることを前もって知らせる *áy*、直後の話し手の発言に注意を向けさせる *này*、先行する文脈における話し手の発言の正当性を確認する *đây, đó*）などを持つ。ことばに詰まった時に使う日本語の「あの一」のような用法（interjective hesitator）は、ベトナム語の指示詞由来の感動詞にはない。

第6章では、同形のベトナム語指示詞・文末詞・感動詞の機能的差異について、これまでの議論をまとめた上で、それらの使い分けに聞き手の存在がどのように関わっているか、また、各系列はどのように関連し合っているかについて、現時点での結論を述べる。ベトナム語指示詞は聞き手を物理的位置の目印として系列の使い分けの基準に組み込んではいないが、指示詞と同形の文末詞・感動詞は認知する主体としての聞き手の存在を使い分けの前提としている。また、指し示すという対人的な機能を元々持っていたベトナム語指示詞は、文末詞や感動詞へと変化する際に、一つの談話のまとまりを超えて話し手や聞き手が持っている体験・情報と発話の場をつなぐという語用論的機能が強化されている。その時、近称は話し手のコントロール下にある情報を、遠称は話し手から離れているものの明確に認識される情報を、中称は聞き手と共有された、あるいは共有されるべき情報を示す傾向がある。このような情報の特徴付けも、第4章で提示した、包含を許容する同心円状に配置できる。本稿は、*place deixis* を端緒とする *discourse deixis* への通時的変化の道筋を具体的に提示するまでには至らなかった。今後、その過程を実証するためには、歴史的資料を活用するとともに、方言（変種）差を比較することも有用であると考えられる。

第1章 はじめに

1. 1 本研究の考察対象

“It appears that all languages have one or more demonstratives.”と Dixon (2003: 61) が述べているように、指示詞は言語の基本的な要素である。それにも拘らず、その使い分けの基準は言語ごとに様々であり、記述は容易ではない。それは指示詞がダイクティックな性質を持つもの (“those linguistic elements whose interpretation in simple sentences makes essential reference to properties of the extralinguistic context of the utterance in which they occur”) であることに起因する (Anderson and Keenan 1985: 259)。ベトナム語指示詞の記述もその例外ではない。

加えて、ベトナム語の基本的な指示詞の形式は全て、それと同形の文末詞及び(あるいは)感動詞を持つ。例えば、以下の例 (1) の中の3つの *đây* という形式はそれぞれ異なる日本語のグロスが相当し、*đây*^①は感動詞、*đây*^②は指示詞、*đây*^③は文末詞として分類でき、共起可能である。

(1) 作例

Đây^①! *Đây*^② là sự thật *đây*^③.
 ほら それ COP 事実 よ
 「ほら (見たことか) ! **それは事実だよ!**」

Diessel (1999: 115) は、“Cross-linguistically, demonstratives provide a common historical source for a wide variety of grammatical items such as definite articles, relative and third person pronouns, copulas, sentence connectives, complementizers, number markers, and possessives.”と指摘している。通言語的に指示詞からその他の要素へ変化する傾向が見られるのであれば、(1) の場合も、指示詞から文末詞・感動詞へという方向性が想定できる。そこで、ベトナム語における同形の指示詞、文末詞、感動詞はどのように関連し合っているのかを判断しようとするれば、個々の特徴を詳しく把握した上で比較・考察することが必要となる。よって、本研究ではベトナム語の共時的なデータに基づいてそれぞれの用法を記述した後、指示詞・文末詞・感動詞の共通点と相違点について考察する。

1. 2 研究方法とデータ

指示詞・文末詞・感動詞は、文語よりも口語において頻繁に用いられる傾向がある。よって、その分析のためには自然談話をデータとして用いることが理想的である。そこで、本稿第4章では、自然談話をを用いて文末詞について考察する。しかしながら、自然談話は

対話者や話題など様々な要因に左右されやすく、ターゲットとする形式の典型的な用法を抽出することが難しいという方法論上の短所がある。よって、4章以外の章は、口語に近いと思われる、戯曲や小説の（ト書きや地の文ではなく）台詞の部分データをとして使用する。これらを用いることによって、それぞれの用例を広く収集することができ、場面情報も把握しやすくなるからである。また、言語コンサルタントへのエリシテーション調査によって得られた情報や、辞書・インターネット上の用例も補助的情報として用いる。コンサルタントは1968年ハノイ生まれ、ハノイ在住の女性である。

1.3 ベトナム語の概略

ベトナム語は、ベトナム社会主義共和国（人口約9,250万人）の主要な言語である（外務省 2015）。富田健次（2000:4）によれば、ベトナム語はオーストロアジア語族のベト・ムオン語派に分類され、ベトナムと国境を接するカンボジアの主要言語であるカンボジア語（クメール語）を含む、いわゆるモン・クメール諸語と系統関係にあると見られている。ベトナム語は孤立語であり、活用や屈折といった語形変化はない。基本語順はSVO、主要部先行型である。主に音声的な特徴の違いによって、北部方言・中部方言・南部方言の3方言に大別される（富田 2000:17-20）。本稿では、1.2において言及したコンサルタントの出身地であるハノイ市を中心として話されており、標準的と考えられている北部方言について主に取り扱う。

本稿では、ベトナム語の例は正書法に従って表記する。綴り字と発音は以下のように対応する（春日淳 2004:65-66）。なお、ベトナム語の表記はほぼ音素表記と言える。

母音 : i/y [i], ê [e], e [ɛ], u [u], ơ [ɔ], â [ã], a, [a], ă [ã], u [u], ô [o], o [ɔ]

頭子音 : p [p], t [t], th [tʰ], ch/tr [tʃ], c/k/q [k], b [b], đ [d], m [m], n [n], nh [ɲ],
ng/ngh [ŋ], ph [f], x/s [s], kh [x], h [h], v [v], d/gi/r [z], g/gh [ʒ], l [l]

末子音 : p [p̚], t [t̚], ch [ç̚], k [k̚], m [m̚], n [n̚], nh [ɲ̚], ng [ŋ̚], i/y [i̚], o [o̚], u [u̚]

また、北部方言は次の6つの声調を区別する（レー・バン・クー 1995:115、春日 2004:67）。

1. **中平** (*ma* おばけ) 2. **降一昇** (*mả* 墓) 3. **高昇** (*má* 類)
4. **低降** (*mà* ~なのに) 5. **高昇+咽頭化** (*mã* 外見) 6. **低降+咽頭化** (*mạ* 苗)

1. 4 本論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。まず、本研究はベトナム語における同形の指示詞、文末詞、感動詞を研究対象とし、自然談話、戯曲、小説など、口語あるいは口語に近いデータを用いて、その用法を言語コンサルタントの判断を仰ぎつつ共時的に分析することを、本章において述べた。次章では、ダイクシス表現、指示詞、文末詞、感動詞、そして指示詞から文末詞や感動詞への文法化について、ベトナム語以外の言語についての文献を概観する。第3章では、ベトナム語指示詞の形式と用法について記述する。特に、中称と遠称の違いについて検討する。第4章では、ベトナム語文末詞の基本的な情報を確認した後、自然談話の例を用いて、ベトナム語指示詞と同形の文末詞の語用論的な用法を例示する。第5章ではベトナム語指示詞に由来する感動詞の機能を分類する。第6章ではそれぞれの語類の使用基準に、聞き手の知識がどのように関与しているのか、そして各系列はどのように関連し合っているのかについて検討し、本研究の議論をまとめる。

第2章 先行研究と用語の定義

第2章では、本研究で扱う、ダイクシス表現、指示詞、文末詞、感動詞という用語の定義と分類、及び指示詞の文法化、特に文末詞や感動詞への変化について、ベトナム語以外の言語を対象とする先行研究を概観する。

2.1 ダイクシス表現

ダイクシス表現 (deictic expressions) は、1.1 においても言及したが、“those linguistic elements whose interpretation in simple sentences makes essential reference to properties of the extralinguistic context of the utterance in which they occur” と定義される (Anderson and Keenan 1985: 259)。Marmaridou (2010) によれば、ダイクシス表現は、以下の5つに分類できる。いずれも、話し手が基準点 (deictic centre) となる。

- **Person deixis** is primarily concerned with the identification of participant roles in the speech event, i.e. the speaker, as the deictic centre, and the addressee. [...] Person deixis is typically expressed by first and second person pronouns in the singular and/or in the plural in many, but not all, languages (p.102).

- **Place deixis** prototypically concerns the specification of the location of objects relative to the participants in a speech event, i.e. the speaker and/or the addressee. Place deixis is expressed by adverbs such as *here* and *there*, [...] to indicate a region including the speaker, or proximate to the speaker, and a region distal from, or excluding, the speaker, respectively. A parallel distinction seems to hold for the demonstratives *this* and *that* (p.104).

- **Time deixis** makes reference to temporal points and spans relative to the speaker's utterance time. [...] Time deixis is commonly grammaticalized in deictic adverbs of time, such as *now*, *then*, *today*, and *yesterday*, in demonstrative expressions combining *this* and *that* with the time spans (e.g. *this Monday*, *that year*, *this summer*), or in combinations of the adjectives *last* and *next* with these time spans (e.g. *last month*, *next year*, etc.)” [...] Time deixis is also expressed through tense marking on the verbs of utterances, [...] (p.103).

- **Discourse deixis** concerns the use of linguistic expressions to point to the current, preceding or following utterance(s) in the same text. A text, whether in its written or oral realization, is closely related to the concepts of space or time. Consequently, discourse deixis is expressed with

terms that are primarily used in encoding space or time deixis as in ‘Listen to this joke’ and ‘In the next chapter more will be said about dinosaurs’ (p.104).

- **Social deixis** concerns the marking of the social status of the speaker in respect of the addressee, an entity referred to in the discourse, a third party, or the relationship of the speaker to the setting of the speech event. Referent honorifics are linguistic forms that encode the speaker’s respect towards a referent which can also be the addressee (e.g. titles of address). [...] Typical of speaker-setting social deixis are cases of diglossic variants with distinct morphology and vocabulary for formal, literary, and everyday styles of speech and writing (p.105).

よって、Marmaridou (2010) が place deixis や time deixis、discourse deixis の例として挙げているように、指示詞はダイクシス表現の一つとして位置付けられる。

2. 2 指示詞

Dixon (2003: 61) は、指示詞 (demonstratives) を “a grammatical word (or, occasionally, a clitic or affix) which can have pointing (or deictic) reference” と定義している。また、Diessel (1999: 2) は指示詞を以下のように特徴付けている。

- First, they are deictic expressions serving specific syntactic functions such as English *this* and *that*, which are used as independent pronouns or noun modifiers, in addition, *here* and *there* used as locational adverbs.

- Second, demonstratives are primarily used to focus the hearer’s attention on objects or locations in the speech situation (often in combination with a pointing gesture).

- Finally, all languages have at least two demonstratives that are deictically contrastive: a proximal demonstrative referring to an entity near the deictic center and a distal demonstrative denoting a referent that is located at some distance to the deictic center.

以下では、指示詞の統語的な特徴、用法、系列について見ていく。

2. 2. 1 指示詞の統語的特徴

Diessel (1999: 4-6, 79, 89) は、出現しうる統語的環境に基づいて、指示詞を以下のように分類している。

- **Pronominal demonstratives** “are used as independent pronouns in argument positions of verbs and adpositions.”

e.g. French *celui, celle, ceux* and *celles*

- **Adnominal demonstratives** “may occur together with a noun in a noun phrase.”

e.g. French *ce, cette* and *ces*

- **Adverbial demonstratives** “may function as locational adverbs modifying a cooccurring verb.” e.g. English *there*

- **Identificational demonstratives**¹ “are used in copular and non-verbal clauses” to “focus the hearer’s attention to identify a referent in the speech situation.”

e.g. French *C’est Pascal*. ‘It/this is Pascal.’

加えて、Dixon (2003: 62) は verbal demonstratives の存在も指摘している。以下の分類における nominal demonstratives は、Diessel (1999) の pronominal demonstratives と adnominal demonstratives を包含する用語であり、local adverbial demonstratives は Diessel (1999) の言う adverbial demonstratives に相当する。Nominal demonstratives と local adverbial demonstratives はほぼ全ての言語においてみられるが、verbal demonstratives を持つ言語は比較的稀である。

a. **Nominal** — can occur in an NP with a noun or pronoun (e.g. “[this stone] is hot”) or, in most languages, can make up a complete NP (e.g. “[this] is hot”).

¹ Diessel (1999: 79) は、French *voilà*, Latin *ecce*, Russian *vot* のような Fillmore (1982: 47) が sentential demonstratives と呼ぶものと、自らが demonstrative identifier (Diessel (1999) は、指示詞の distribution について言及する時は identificational demonstratives と呼び、categorical status について言及する時は demonstrative identifiers と呼ぶ (p.3-4)) の類似点と相違点について、以下のような説明を試みている。

Both demonstrative identifiers and sentential demonstratives are commonly used to introduce new discourse topics, but they have different syntactic properties. Demonstrative identifiers are embedded in a specific grammatical construction, a copular or nonverbal clause, while sentential demonstratives are syntactically more independent. Although they might occur in sentences that are functionally equivalent to copular and nonverbal clauses (e.g. *Voilà un taxi*. ‘Here is a taxi.’), they are more commonly used as one word utterances, which may be loosely adjoined to a neighboring constituent. I assume therefore that demonstrative identifiers are distinguished from sentential demonstratives, but the distinction is not clear-cut [...].

b. **Local adverbial** — occur either alone (e.g. “put it here”) or with a noun taking local marking (e.g. “put it (on the table) there”)

c. **Verbal** “do it like this”, with an accompanying mimicking action — can occur as the only verb in a predicate, or together with lexical verb².

e.g. Boumaa Fijian verb *'ene(ii)* “do like this” (p.72)

Dyirbal transitive *yalama-l*, intransitive *yalama-y* “do like this” (p.101–103)

2. 2. 2 指示詞の用法

Himmelman (1996: 240) は、指示詞の談話機能に基づいて、基本的な用法を以下のように分類している。引用した例は、*The Pear Stories* (Chafe 1980) を用いた英語による語りである（一部アノテーション省略）。

- **Situational use**, which involves the notion of relative distance to some deictic center and serves to establish a referent in the universe of discourse.

(2) *And he's heading .. you see a scene where he's .. coming on his bicycle **this way**.* (p.222)

- **Discourse deictic use**, which involves pointing to an adjacent discourse segment and serves in establishing in a proposition or an event (or a sequence of these) as a referent in the universe of discourse.

(3) *then he goes off, .. and that's the end of **that story**, but then .. it goes back to the farmer.* (p.224)

- **Tracking use**, which involves reference to entities (usually major participants) already established in the universe of discourse during the preceding interaction and serves to help the hearer in keeping track of what is happening to him.

(4) *Something that I noticed about the movie particularly unique was that the colors .. were, just, very strange. Like, the green was a, inordinately bright green, for the pears, .. and **these colors** just seemed a little, kind of bold, almost to the point of, being artificial. tsk A —nd* (p.227)

² Kobayashi (2012: 84) によれば、ドラヴィダ語族の Malto には *a:n-e* ‘to say, think or do so’や *i:n-e* ‘to say, think or do this way’といったダイクティックな意味を含む動詞が存在する。これらも verbal demonstratives として分類できる可能性がある。

- **Recognitional use**, which involves reference to entities assumed by the speaker to be established in the universe of discourse and serves to signal the hearer that the speaker is referring to specific, but presumably shared, knowledge. It invites the hearer to signal the need for further clarification regarding the intended referent or to acknowledge that he or she, in fact, knows what the speaker is talking about.

(5) *it was filmed in California, those dusty kind of hills that they have out here by Stockton and all, .. so ..* (p.230)

よって、指示詞は、2.1 においても言及したが、**place deixis** だけでなく、**discourse deixis** を表すためにも使われていることが分かる。また、以下は金水・岡崎・曹 (2002) による日本語指示詞に基づく分類である。これらは概括的には、Himmelman (1996) の分類における **situational use, tracking use, recognitional use** にそれぞれ対応する。**Discourse deictic use** は、照応用法の下位分類として見なされている (p.224-225)。本稿第3章のベトナム語指示詞の分析においては、金水・岡崎・曹 (2002) の定義する用語を使用し、日本語指示詞の分析を援用する。

- **直示用法**： 外界において知覚できるもの、典型的には見えているものを直接指し示す用法 (p.218)
- **照応用法**： 言語テキストによって導入された先行詞と同一指示関係を持つ用法 (p.220)
- **記憶指示用法**： 過去の直接体験に基づいた話し手の知識の中の対象を指示する用法 (p.221)

2. 2. 3 指示詞の系列

Anderson and Keenan (1985: 277-295) によれば、**spatial deixis** (2.1 で取り上げた Marmaridou (2010) の分類における **place deixis** に相当) における指示対象の特徴付けによって、指示詞は以下のような系列に区分できる (表 1)。大多数の言語は 2 系列、あるいは 3 系列の指示詞を持つ (Diessel 2006: 431)。

表1. 指示詞の系列

系列	區別	例
One-term systems	no distance distinction	French <i>ce (cette/cet)</i>
Two-term systems	near to <i>Sp</i> , far from <i>Sp</i>	English <i>this</i> vs. <i>that</i>
Three-term systems	Distance oriented	close to <i>Sp</i> , rather farther away, quite far Spanish <i>este, ese, aquel</i>
	Person oriented	near <i>Sp</i> , near <i>Adr</i> , far from both <i>Sp</i> and <i>Adr</i> Japanese <i>kore, sore, are</i>
	Other	near <i>Sp</i> , neutral, contrastive Nama Hottentot
Systems with more than three terms	new information, previously mentioned	Hausa
	visible, invisible	Kwakwa'la
	above <i>Sp</i> , below <i>Sp</i> . the same level as <i>Sp</i> .	Daga
	upwards, downwards	Abkhaz

2.3 文末詞

2.2において述べたように、指示詞は典型的には話し手と指示対象の空間的・談話的距離を表すために、単独で、あるいは名詞と共に用いられる。一方、文末詞 (final particles; FP) の特徴について、Hancil, Post and Haselow (2015: 5) は以下のように述べている。

FPs are usually monomorphemic units that are prosodically integrated into a host unit and cannot occur in isolation, they are unaccented, have no propositional content and do not effect the truth conditions of the unit they accompany. The meaning of FPs is relatively elusive, due to the fact that they often change their function depending on the illocutionary type of the utterance to which they are attached and on the sequential context in which this utterance is situated. However, what all FPs have in common is that they convey different types of metapragmatic information (e.g. emotive, epistemic) and information on the rhetorical relation to a prior discourse unit, situating an utterance in a specific communicative context. FPs thus serve an utterance-integrative function in ongoing discourse.

2.1 で述べた *discourse deixis* が周囲のテキストとの関係を示す表現と定義されるなら、上記のような発話と文脈とを結ぶ文末詞も広い意味でのダイクシス表現であると言えるだろう。

文末詞は、東アジアや東南アジアの諸言語において、その存在が多く報告されている (Japanese (Taylor 2015)、Korean (Rhee 2012)、広東語 (飯田真紀 2005)、Mal/Thin (Deepadung and Ratanakul 1997)、Thai (Iwasaki and Ingkaphirom 2005)、Lao (Crisfield 1974)、チノ語 (林範彦 2007)、Singapore English (Gupta 1992, Wong 2004) など)。具体例として、Li and Thompson (1981: 238) の記述する Mandarin Chinese における 6 つの文末詞を挙げる。

- *le*: Currently Relevant State; CRS

- (6) *tā chū - qù mǎi dōngxi le*
 3sg exit - go buy thing CRS
 ‘She’s gone shopping.’ (p.240)

- *ne*: Response to Expectation; REx

- (7) (in response to a person’s observation that a friend does not appear to be too disturbed by an accident)
tā hěn kāixīn ne
 3sg very happy REx
 ‘S/He is very happy.’ (p.304)

- *ba*: Solicit Agreement; SA

- (8) *tā hěn hǎo - kàn ba*
 3sg very good - look SA
 ‘S/He is very good looking, don’t you agree?’ (p.310)

- *ou*: Friendly Warning; FW

- (9) *xiǎoxīn ou*
 careful FW
 ‘Be careful, OK?’ (p.311)

- *a/ya*: Reduce Forcefulness; RF

- (10) *chī* - *fan* *a/ya*
 eat - food RF
 ‘Eat, OK?!’ (p.315)

- *ma*: Question; Q

- (11) *nǐ* *hǎo* *ma?*
 you well Q
 ‘How are you?’ (Literally, Are you well?) (p.521)

このうち、*le* のみが他の文末詞 *a, ou, ma* と共起できる³。その場合、*le* は *a, ou, ma* の前に置かれる (p.238)。

- (12) *tā* *mǎi* *fángzi* *le* *ma?*
 3sg buy house CRS Q
 ‘Did s/he buy a house?’ (p.239)

また、Matthews and Yip (1994) によれば、Cantoneseにはおよそ30の文末詞があり(p.389)、*ge* (affirmative: ‘this is the case’), *la* (current relevance: advice), *wo* (informative (noteworthiness))のように、文末において3つ以上 ((13)の場合、adverbial particle *tīm* ‘too’ を加えると4つ) 組み合わせることもある (p.395)。

- (13) 佢 攞咗 第 一 名 添 嘅 喇 啲
Kéuih *ló-jó* *daih* *yāt* *mihng* *tīm* *ge* *la* *wo*.
 s/he take-PFV number one place too SFP SFP SFP
 ‘And she got first place too, you know⁴.’

³ 木村英樹氏 (私信) によれば、*le* (了) に限らず、*ne* (呢) も *ma* (吗) と共起可能であるので、Li and Thompson (1981) のこの記述は再検討の余地がある。以下は小説の例である。

你	证件	都	带着	呢	吗?
<i>nǐ</i>	<i>zhengjian</i>	<i>dou</i>	<i>dai-zhe</i>	<i>ne</i>	<i>ma</i>
あなた	証明書	すべて	携帯する-持続アспект	<i>ne</i>	<i>ma</i>
「あなたは、証明書はすべて身につけていますか？」					[石康 2007]

なお、中国語の語気詞 (文末詞) の語序については、朱德熙 (1982: 209–213) やその訳書である朱德熙 (杉村博文・木村英樹 訳) (1995: 282–284) に詳しい。

⁴ Matthews and Yip (1994) の和訳であるマシューズ・イップ (千島英一・片岡新 訳) (2000: 454) では、(13) の例文は「彼女が一位をとってしまったんだよ！」と訳されている。

文末詞の中には、語彙的な要素に由来するものがある。例えば、Paillard (2015) によれば、Khmerの動詞 *tiv* ‘go’, *mɔək* ‘come’, *coh* ‘go down’ は文末において、命令や主張、質問などを表す文末詞として用いられる。以下は*tiv*が主張を表す文末詞として使われている例である (p.314)。

- (14) *bae* *ʔaɛŋ* *rɔwɔəl* *yeɛŋ* *cuəp* *knie* *tɲay* *kraoy* *tiv*
 if 2SG busy 1PL meet RCP day after tiv
 ‘If you are busy, we’ll meet some other day.’

2. 4 感動詞

2. 4. 1 感動詞の形式・機能と分類

Ameka (2006: 743) は、感動詞 (interjections) を、“words that conventionally constitute utterances by themselves and express a speaker’s current mental state or reaction toward an element in the linguistic or extralinguistic context”と定義している。感動詞にはジェスチャーが付随することが多いことから、Wilkins (1992: 134–135) は指示詞との近接性を指摘している。また、感動詞自体を音声的身振りともみならず研究者もいる (田窪行則 2010: 197)。このように、感動詞の使用は言語外の文脈と密接に関連しているので、指示詞や文末詞と同様に、感動詞もダイクシス表現の一つと見なせる。

以下では、感動詞の形式と機能による分類を示す。まず、感動詞は形式の面から次のように整理できる (Ameka 2006: 744)。感動詞も文末詞と同様、語彙的な要素に由来するものがある。Norrick (2009: 886–887) は話題の転換に関わる英語の *I tell you* の例を挙げ、*phrasal interjections* を *secondary interjections* の下位分類として捉えている。*Complex interjections* も *secondary interjections* の下位分類だとみなせるだろう。

- **Primary interjections** “are little words, or ‘non-words’, which [...] do not normally enter into construction with other word classes.”

e.g. English *Gee!*, *Oops!*

- **Secondary interjections** “are those words that have an independent semantic value.”

e.g. English *Help!*, *Fire!*

- **Complex interjections** “are multimorphemic ones.”

e.g. English *Goddammit!*, French *Oh là là!*

- **Phrasal interjections** “are multiword expressions.”

e.g. English *Bloody hell!*, *Dear me!*, *Thank God!*

また、感動詞は話し手の心的状態や心的活動の特徴に基づいて、以下のように分類できる (Wierzbicka 1992:165)。

- **Emotive interjections** (those which have in their meaning the component ‘I feel something’);
e.g. the English *yuk!* ‘revulsion’ (p.166)
- **Volitive interjections** (those which have in their meaning the component ‘I want something’ and which do not have the component ‘I feel something’; e.g. the English *Sh!*, the Polish *Sza!* ‘be quiet’)
- **Cognitive interjections** (those which have in their meaning the component ‘I think something’ or ‘I know something’ and which have neither the emotive component ‘I feel something’) nor the volitive component ‘I want something’; e.g. the English *Aha!* ‘I understand’).

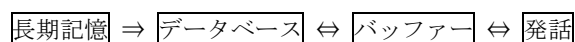
Ameka (2006: 744) は上記の emotive interjections と cognitive interjections を **expressive interjections** として一つにまとめている。また、volitive interjections のような聞き手に向けられたものを **conative interjections** と呼んでいる。さらに、下記のようなコミュニケーションを円滑にするものを **phatic interjections** と呼んでいる。

Phatic interjections are used in the establishment and maintenance of communicative contact [...]. A variety of conventional vocalizations that express a speaker’s mental attitude toward the ongoing discourse, [...], may be classified as phatic (English *mhm, uh-huh, yeah*). Included in this class also are interjections used in the performance of various interactional routines, such as greeting and leave-taking, and in the organization of discourse (e.g., English *OK*).

さらに、田窪・金水 (1997) は、日本語の応答詞・感動詞を話し手の心内にある記憶データベース⁵への情報処理の入出力の制御を表すものと、場つなぎ的な語 (filler) としての言い淀み系に分類している。

⁵ 田窪・金水 (1997) は、言語運用の基本的なモデルとして、次のようなモデルを考えている。以下は、259頁からの引用である。

まず、対話の際対話参加者は長期知識の一部を活性化させ、対話者や対話の目的に特化したデータベースを作成すると考える。このデータベースは、複数のデータファイルからなる。対話に際しては、発話の入力や推論によってデータベースの内容が刻々と更新されていく。また発話とこのデータベースの間にはさらに入出力用の複数の作業領域 (バッファー) が必要であろう。(図参照)



入出力制御系

応答1 (承認) : ああ、はい、はあ、ええ、うん、ふん (下降イントネーション)

応答2 (否定) : いいえ、いえ、いいや、いや、いやいや

意外・驚き1 (問返し) : は、はあ、え、ええ、へえ、ふん (上昇イントネーション)、
えっ、はっ、ふんっ

意外・驚き2 (非対話的) : あれ、あら、おや

意外・驚き3 (予測を越える) : おお、わあ、おっ、わっ

発見・思い出し : あ、あっ、はっ

気付かせ・思い出させ : ほら、そら、それ

評価中 : ふうん、へえ、ほお (緩やかな上昇または高平調)

迷い : ううん (平坦または緩やかな下降)

嘆息 : あ (／は) あ、お (／ほ) お、う (／ふ) うん (緩やかな下降)

言い淀み系

非語彙的形式 : ええ、ええ、単語末母音の長音化

語彙的形式 : 内容計算 : ええ (っ) と、ううんと

形式検索 : あの (ー)、その (ー)、この (ー)

評価 : ま (あ)、なんとというか、なんか、やっぱり

2. 4. 2 生理的な音・文末詞・談話標識と感動詞の境界

2.4.1 で提示したような分類を個別の言語において行う際には、感動詞と近接した機能を持つ用語との境界を判別することが必要となる。以下では感動詞と関連する生理的な音、文末詞、談話標識の違いを検討する。

まず、くしゃみやいびき、しゃっくりのような生理的な音 (physiological sounds) と言語的な感動詞の違いは、その慣習性 (conventionality) の程度である (Schröder 2003)。つまり、生理的な音の発生は言語によらず普遍的な事象であるが、その音声に関しては個人差が大きい。一方、感動詞は言語や文化に強く依存しており、個人差が比較的少ない。

また、Ameka (2006: 745) は、文末詞のような particle と感動詞の違いは統語的独立性にあるとし、以下のように説明している。

[Interjections] differ from particles in their relative syntactic independence. That is, whereas particles are fully integrated into the syntax of utterances and cannot constitute independent nonelliptical utterances by themselves, interjections can be utterances by themselves and they are always separated by a pause from the other utterances with which they may co-occur. Interjections always constitute an intonation unit by themselves. They are only loosely integrated into the grammar of the clause.

談話標識 (discourse marker) とは、副詞 *well*、接続表現 *so*、挿入句 *I mean* など、会話 (談話) の意味を理解する手助けとなる標識のことである (高田・椎名・小野寺 2011: 28-29)。Fischer and Drescher (1996: 855-856) は、感動詞や談話標識、modal particle は discourse particle の下位分類であり、重複する部分があると指摘している。一般的に、primary interjections と secondary interjections は話し手の感情の表出を担う一方で、談話標識は談話を分割し、発話交替の構造に関わる。また、modal particle は命題に対する話し手の態度を表す。一方、Schiffrin (1987: 73-101) は、伝統的に感動詞としてみなされてきた *oh* も談話の理解に関わるとして談話標識に含めている。

2. 5 指示詞・文末詞・感動詞のまとめ

以上で述べた指示詞・文末詞・感動詞の特徴について表2にまとめる。述語の項になったり、名詞を修飾したりできるのは指示詞のみである。しかし、指示詞と感動詞には単独で発話になることができ、ジェスチャーを伴うことが多いという類似点がある。一方、文末詞は単独の発話になることができず、ジェスチャーも付随しない。加えて、指示詞・文末詞・感動詞に共通する特徴は、その解釈を文脈に依存するダイクシス表現であることである。指示詞は place deixis にも discourse deixis にも関連するが、文末詞と、phatic interjections や談話標識に分類される一部の感動詞は、discourse deixis に特化している。

表2. 指示詞・文末詞・感動詞の相違点

	述語の項になる、 名詞を修飾する	単独の発話になる	ジェスチャーを伴う
指示詞	○	○	○
文末詞	×	×	×
感動詞	×	○	○

2. 6 文法化

文法化 (grammaticalization) とは、一般的には、語彙項目が文法的項目に変化することを指す。Hopper and Traugott (1993: xv) は次のように定義している。

We defined grammaticalization as the process whereby lexical items and constructions come in certain linguistic contexts to serve grammatical functions, and, once grammaticalized, continue to develop new grammatical functions.

研究者の中には、文法化の過程における形式の縮小が重要であるとみなす立場もあるが、Traugott (福本広二訳) (2010: 60-61) は、以下のような例を挙げて、確かに文法化においては構造と形式の縮小が起こりやすいものの、機能の面では拡張が起こることを指摘している。

[縮小]

- **形式の縮小** : ラテン語 *dare habes* <あなたは与えることを持つ> 「*dare*<与える> : 不定形、*habes*<持つ> : 二人称単数現在 → 7世紀ロマンス語 *daras* <あなたは与えるであろう>。動詞「持つ」が「与える」という動詞の語幹と融合し、2つの動詞の形態境界が再分析されることによってロマンス語では、未来を表すようになった。

[拡張]

- **コロケーション的拡張** : *be going to* (目的を伴う運動を表す動詞、「～するために行く」) が (未来を表す) 助動詞になったとき、後続する動詞の種類が増加した。
- **形態統語的拡張** : 指示詞が定冠詞になる場合、最初に主語と目的語の位置で起こるのが一般的で、空間・時間を表す句にまで拡張されるのは後になってからのことである。
- **意味・語用論的拡張** : これは少なくとも最初は、新しい多義的な意味の発達に後続して起こる。実際、文法化された表現は、時間がたつと、多くの機能を獲得し多機能的になることが多い。例えば、助動詞 *can* は、古英語 *cunn* <知っている、心得ている>に由来するが、今では能力・許可・可能性を表す表現として機能している。

よって、Traugott (2010) は、文法化について研究する時、形式の変化だけでなく、意味変化やそれが生じるコンテキスト、語用論的变化などにも着目すべきであると述べている。

2. 6. 1 指示詞の文法化

Diessel (1999) は、指示詞の文法化について、“the path-of-evolution that a demonstrative takes is largely determined by the syntactic context in which it undergoes grammaticalization (p.154).”と述べ、次の表3を挙げている (p.155)。また、感動詞も指示詞から生じることがあると補足的に述べられている (p.154)。

表3. 指示詞の文法化

Source	Target
Pronominal demonstratives:	third person pronouns relative pronouns complementizers sentence connectives possesives adnominal determinatives verbal number markers expletives (linkers)
Adnominal demonstratives:	nominal number markers definite articles/noun class markers linkers boundary markers of attributes specific indefinite articles (relative pronouns)
Adverbial demonstratives:	directional preverbs temporal adverbs expletives
Identificational demonstratives:	nonverbal copulas focus markers expletives

2. 6. 2 指示詞から文末詞への文法化

いくつかの言語において指示詞は、様々な語用論的機能を持つ文末詞になることがある。Iwasaki and Ingkaphirom (2005: 203) によれば、Thai の近称代名詞 *nii* に由来する pragmatic particle (PP) *nii* あるいは *nii* は、文末において用いられ、聞き手の予想に反する話し手の発見を表す。

- (15) *kin mây dâay lá nîi*
 eat NEG POT PP [conclusion] PP
 ‘You can’t eat it. (e.g. The food is spoiled.)’

また、Cleary-Kemp (2007: 336–337) は、Malayo-Polynesian languages において、Ambonese Malay の deictic determiner である *ni* (proximal) と *tu* (distal)、また、Kambera の deictic root *nu* (distal) について、“These particles [...] modify whole clauses or sentences, and indicate metaphorical proximity rather than (or as well as) spatial proximity. [...] [T]hey present the state-of-affairs as an indisputable, given fact from the point of view of the speaker.” と報告している。(16) は Ambonese Malay の proximal (DEI 1) *ni* の例である。

- (16) *Mama, kat’ong su ada ni.*
 mother 1PL PHA⁶ be DEI1
 ‘Mother, here we are!’
 (It is spoken by characters in a story who have just been reunited with their mother.)

同じく Malayo-Polynesian languages において、(17)(a)(b) のように、Malay の指示詞 *itu* ‘that’ と *ini* ‘this’ は first-person assertive stance⁷ markers としても用いられる (Yap, Wang and Sakurai 2010)。(18)(a)(b) に示すように、Javanese の *kuwi* ‘that’ と *iki* ‘this’ においてもほぼ同様の変化が起こっている。これらの Malay や Javanese の指示詞が stance markers として用いられる時は、*tu*, *’ni*, *’wi*, *’ki* のような縮約形になる⁸。この時、遠称は知覚的な証拠を、近称は直接経験を表すと考えられる。

(17) (a) Malay *itu* ‘that’

- Budak ’ni macam baru tiba ’tu.*
 child this like newly arrive STANCE
 ‘It looks like this child just arrived.’

(b) Malay *ini* ‘this’

- Dah nak pergi dah ’ni.*
 already want go already STANCE
 ‘Look! (We/I) are about to go (now).’

⁶ PHA は phrasal aspect marker の略である。

⁷ Iwasaki and Yap (2015: 1) は、stance について、“something speakers take toward various objects, people, concepts, ideas and so forth based on their knowledge state, personal belief, identity, sociocultural norms, among various other factors” と説明している。

⁸ Yap, Wang and Sakurai (2010) は、“Reduced forms may appear in both referential and non-referential contexts.” と注釈している。

(18) (a) Javanese *kuwi* ‘that’

<i>Bocah</i>	<i>iki</i>	<i>koyoke</i>	<i>wis</i>	<i>teko</i>	'ki.
child	this	like	already	arrive	STANCE

‘It looks like this child has arrived.’

(b) Javanese *iki* ‘this’

<i>Wis</i>	<i>arep</i>	<i>lunga</i>	'ki.
already	want	go	STANCE

‘Look! (We/I) are about to go (now).’

Abui, Bunaq, Adang などの Papuan languages においても、指示詞は文末（あるいは節末⁹）において、時制や認識性（情報源や驚き、確信といった知識に関連する特徴）を表す (Kratochvíl 2007, 2011; Schapper and San Roque 2011)。次頁の表4は Schapper and San Roque (2011) による *clause final demonstratives* の記述を基に、筆者が作成したものである。表中の各言語においては、指示詞の系列と節末における意味との間に関連が見い出せる。非近称は過去の出来事や聞き手との共有知識の活性化などの多様な意味を表すが、近称は先に述べた Thai や Malayo-Polynesian languages の例と同様、話し手の直接経験を表す文末詞として使われている。

2. 6. 3 指示詞から感動詞への文法化

Diessel (1999: 154) が指摘するように (2.6.1 参照)、感動詞の中には指示詞由来のものがあある。Wilkins (1992: 133) は English “**There!**” ‘See, I told you so’, ‘Just as I expected’ の例を挙げている。

また、陆鏡光 (2005: 95) は、“Many Chinese dialects have one or two words which are like interjections but are used with clear deictic functions.” と報告し、それらを *demonstrative interjections* と呼んでいる。Luke (2002) は Cantonese “呢” *ne^{55(25)}/le⁵⁵⁽²⁵⁾}* 及び “嗱” *na^{21}/la²¹}* の例を挙げて、その機能を “to point the hearer’s attention to some person, object, thing or state of affairs in the immediate speech situation” と説明している。

⁹ Schapper and San Roque (2011) が Papuan languages において指摘しているのと同様に、ベトナム語でもいわゆる文末詞と呼ばれるものは文末に限らず、節末に現れることが多々ある。しかしながら、節末詞 (*clause-final particles*) という用語は一般的ではないため、本稿においては節末に出現するものも含めて文末詞 (*sentence-final particles*) と呼ぶこととする。

表4. Papuan languages における clause final demonstratives

言語	形式		グロス	節末における意味
Bunaq	生物	無生物	THIS	present, apparent, verifiable, speaker's direct experience 'as can be seen', 'it's true'
	<i>bare</i>	<i>bari</i>		
	<i>baʔa</i>	<i>baʔi</i>	THAT	past, established 'I did', 'of course'
	<i>doe</i>	<i>doi</i>	THE ONE (in particular)	knowledge should be available to both speaker and addressee, 'as we all knew it would', 'as we all know to be so'
Adang	<i>hɔʔɔ</i>		THIS.SPEAKER (near me)	assertive, surprise 'it's true, and I hadn't noticed!'
	<i>ho</i>		THIS.ADDRESSEE (near you)	direct addressee's attention 'don't you see?'
	<i>hemɔ</i>		THE. ACROSS (located level with speech situation)	visible 'we can see'
	<i>hetɔ</i>		THE. UP (located above speech situation)	
	<i>hepɔ</i>		THE. DOWN (located below speech situation)	
Abui	<i>do</i>		THIS.SPEAKER (near me)	present, direct experience 'I really feel it'
	<i>o</i>		THAT. SPEAKER (distal from me)	past, unrealized, invitation 'Please come!', 'Let's go!'
	<i>to</i>		THIS.ADDRESSEE (near you)	present, appeal to addressee's knowledge 'as you know'
	<i>yo</i>		THAT. ADDRESSEE (distal from you)	past, appeal to addressee's knowledge 'as you should know'

Hayashi and Yoon (2010: 43) は、“In a number of languages, some forms of demonstratives are used interjectively as signals of hesitation, in much the same way that *uh* and *um* are used in English.”と指摘している。このような *interjective hesitators* の具体例として、日本語の遠称連体形「あの¹⁰」、韓国語の中称連体形 *ku*、遠称連体形 *ce*、遠称の場所を表す代名詞 *ceki*、中国語の近称 *zhe-ge* (あるいはその異形の *zhei-ge*)、遠称 *na-ge* (あるいはその異形の *nei-ge*) などが挙げられる。(19) は日本語の例である (p.34、原文はローマ字表記、一部アノテーション省略)。

(19) **あの**一、えーとね、わりと**あの**、なんてゆうんですか、音楽番組とか。

Kitagawa (2006) によれば、「あの」以外の日本語の指示詞も感動詞としての用法を持つ。このような感動詞は指示詞の人称区分から拡張された意味を持つ (表5)。

しかしながら、深津周太 (2010) は日本語の感動詞「あれ」は感動詞「あら」あるいは「あな」に端を発するものであり、結果的に指示詞と同形であっても、歴史的には指示詞に由来しないと主張する。歴史的資料に基づけば、「あら」から「あれ」が生じた後で、類推により「これ」から「こら」が、また、「それ」から「そら」が生じたことが示唆される。一方、呼びかけに用いられる感動詞「これ」は指示詞を含む構文「これ ϕ +見よ」から (深津 2009)、動作を促す感動詞「それ」は「それ+行為指示」から変化したものであるとする (深津 2013)。

表5. 日本語指示詞の感動詞化

	近称 話し手に近い → the speaker's authority	中称 聞き手に近い → outside the speaker's domain	遠称 どちらからも遠い → the same perspective → affective
代名詞	これ → warning 'hey!'	それ → outward projection 'hey!, now!'	あれ → surprise 'what!'
連体形	この → disapproval 'damn it!'	その → hesitancy 'ahh...'	あの → hesitancy 'you know, ahh...'

¹⁰ 2.4.1において引用した田窪・金水 (1997: 274) は、「あの (一)」を形式検索のためのフィラーだとしている。この標識は、聞き手に対して「有意義な発話にはもうしばらくかかるのでそれまで待機してくれ」との指示として利用することができる。

韓国語は日本語と同様、物理的距離を人称により区分する3系列の指示詞を持つが、そのうち連体形が単独で用いられると、表6のように、望ましくない事態に対する心理的距離を表す感動詞となる（金善美 2006）。

表6. 韓国語指示詞の感動詞化

	近称 <i>i</i> 話し手に近い → 自分に関わること	中称 <i>ku</i> 聞き手に近い → 聞き手のこと	遠称 <i>ce</i> どちらからも遠い → 第三者的な立場
連体形	<i>ilen</i> こんな → 「これは！」	<i>kukes cham</i> それ まったく → 「よくもそんな！」	<i>celen</i> あんな → 「あら、まあ！」

表5と表6から、日本語だけでなく、韓国語の指示詞と同形の感動詞も、指示詞の人称区分によって特徴付けられる意味を持つことが分かる。よって、深津 (2010) の指摘するような、体系の一部が指示詞以外の要素に影響されることがあったとしても、感動詞の形成過程において、形式的に類似する指示詞の系列が持つ意味との関連付けを志向することは、通言語的なものである可能性がある。

2. 6. 4 指示詞から文末詞・感動詞への文法化のまとめ

指示詞・文末詞・感動詞は、一般的に機能的な類似点を持つだけでなく (2.5 参照)、アジアの言語を含む様々な言語において、2.6.2 や 2.6.3 においてみたように、形式的にも類似しているものがある。同形の文末詞・感動詞を指示詞からの派生だと考えると、その結果獲得した機能は、情報源の表示 (証拠性) や聞き手の注意喚起、ターンの保持、感情の表出など、非常に多岐に渡る。このような語用論的拡張は文法化の一般的な傾向として、2.6 において引用した Traugott (2010: 61) も指摘するところである。中には、Papuan languages の文末詞や、日本語や韓国語の感動詞のように、指示詞の距離や人称による区分と関連する抽象的な意味を見出せるものもある。よって、このような形式の類似は偶然の産物であるとは考えにくい。次章からは、ベトナム語における同様の現象について検討する。

第3章 ベトナム語の指示詞

ベトナム語は近称・中称・遠称の3系列の指示詞を持ち、各系列に単独形と修飾形がある。3.1では、まず、それらの形式が名詞句内と文中において占める位置について確認する。続いて、発話の場における実体の存在・出現を表す指示詞述語文と、指示対象の焦点化に用いられる指示詞の複合形について説明した後、戯曲データにおける指示詞の各形式の出現頻度を示す。続く3.2では、指示詞の各用法について考察する。ベトナム語の指示詞は、基本的には話し手と指示対象との距離に基づいて使い分けられる。しかし、発話の場に存在するものを指し示す直示用法において、中称と遠称は交換可能であることが多い。本稿では、戯曲や小説の例などを用いて文脈情報を示しながら、中称と遠称が交換不可能な例について検討し、中称は遠称より指示範囲が広いことを示す。また、先行詞と同一指示関係を持つ照応用法、話し手の過去の知識の中の対象を指示する記憶指示用法、「誰か」や「どこか」などの曖昧な対象を指示する用法や、話し手が特定の語を思い出せない時に使う *placeholder* などの非直示用法においても、中称は広く使用される。時間指示や人称指示においても、中称は照応的に用いられる。3.3において、ベトナム語指示詞についての考察結果をまとめる。

3.1 形式

3.1.1 単独形と修飾形の区別

ベトナム語は、表7に示すように、近称の *đây*、中称の *đấy*、遠称の *kia* を代表形とする、3系列の基本的な指示詞を持つ。これらはさらに単独形と修飾形に分類できるが、遠称 *kia* の単独形と修飾形は同形である¹¹。修飾形は名詞に後置される。

表7. ベトナム語指示詞の形態的特徴

系列	代表形	単独形	修飾形
近称	<i>đây</i>	<i>đây</i> ここ；これ	NP + <i>này</i> ¹² この NP
中称 ¹³	<i>đấy</i>	<i>đấy/đó</i> そこ；それ	NP + <i>ấy /ý /đấy /đó</i> その NP
遠称	<i>kia</i>	<i>kia</i> あそこ；あれ	NP + <i>kia</i> あの NP

¹¹ 単独形と同形の修飾形を持たないのは、近称のみである。

¹² 近称修飾形には中部方言や南部方言において用いられる *này* や *ni*、南部方言において用いられる *nè* などの自由変異形（方言形）があるが（Phạm Văn Hào 2009: 302, 324, 303）、本稿では北部方言において多用される *này* を主に扱う。

¹³ ベトナム語指示詞には中称のみ、様態を表す指示副詞 *thế, vậy* 「そのような」がある。一般に、*vậy* は南部方言において多用されると言われている。また、*thế* は単独で用いられるだけでなく、指示詞修飾形に前置することができるが（*thế này* 「このような」、*thế ấy (ý /đấy /đó)* 「そのような」、*thế kia* 「あのような」）、*vậy* は単独でしか用いられないという違いもある。照応用法における *thế, vậy* については、3.2.2 注 29 を参照のこと。なお、*thế* と *thế này, thế kia* の使い分けについては、Nguyen Thi Ha Thuy (2015) に詳しい。

まず、中称指示詞の各形式の違いについて考える。単独形の *đáy, đó*、及び修飾形の *áy, ý* (*áy* の音声的縮約形)、*đáy, đó* は、多くの場合交換可能である。Thompson (1965: 143–148) は、*đó* は南部方言においてよく用いられると指摘している。しかしながら、筆者の観察によれば北部方言においても使用される。*Áy* の縮約形 *ý* は口語的な表現であり、規範的な表記とは見なされない。また、言語コンサルタント¹⁴によれば、修飾形の *áy, ý, đáy, đó* は多くの場合交換可能であるものの、*áy, ý* の指示対象は、*đáy, đó* よりも抽象的であると感じられるという。例えば、*người áy/người ý* (人+その)「その人」は話し手にとってあまり馴染みのない人であるという含みがあるが、*người đó* (人+その)「その人」は具体的に知っているであると感じるという。*Người đáy* (人+その)「その人」は *người đó* と同程度か、あるいはやや親しい人を指す。しかしながら、この差はかなり微妙なものであり、具体的な指示対象に *áy, ý* を用いたり、抽象的な指示対象に *đáy, đó* を用いたりしても、非文法的とまでは言えない。

次に、名詞句内の語順について確認する。指示詞の修飾形は、数詞、類別詞、主名詞、形容詞、関係節に続いて、名詞句の末尾に近い所に置かれる。所有表現は、指示詞の前後に置かれる。(20) に例を示す。

(20) 名詞句の語順

数詞	類別詞	主名詞	形容詞	関係節 ¹⁵	所有表現	指示詞	所有表現
(a) <i>năm</i>	<i>chiếc</i>	<i>áo dài</i>	<i>xanh</i>	<i>mới</i>	<i>may</i>	<i>của tôi</i>	<i>này</i>
5	CLF [衣類]	アオザイ	青い	ばかり	縫う	の私	この
「この私の縫ったばかりの青い5着のアオザイ」							
(b) <i>năm</i>	<i>chiếc</i>	<i>áo dài</i>	<i>xanh</i>	<i>mới</i>	<i>may</i>		<i>này của tôi</i>
5	CLF [衣類]	アオザイ	青い	ばかり	縫う		このの私
「私のこの縫ったばかりの青い5着のアオザイ」							

(Nguyễn Đình-Hòa (1997: 181) の例を筆者が一部改編)

¹⁴ コンサルタントについての詳細は、1.2 を参照のこと。

¹⁵ 関係節の主語を明示する場合は、以下のように表される。この時、関係詞 *mà* は省略されることが多い。

áo dài (mà) tôi mới may
アオザイ REL 私 ばかり 縫う
「私が縫ったばかりのアオザイ」

コンサルタントによれば、(20)(a)(b) の例では、所有表現の中に既に *tôi* 「私」という語が含まれており、関係節の主語の位置に *tôi* を挿入することは、比較的長い名詞句がさらに複雑になるため好まれない。

上記のように、指示詞は名詞句の末尾に置かれることが多いため、その位置は名詞句の境界を判別する手掛かりとなりうる¹⁶。例えば、(21)(a)のような“名詞+形容詞+指示詞”という語順であれば、指示詞が最後尾となるため全体として名詞句であると判断されるが、(21)(b)のような“名詞+指示詞+形容詞”という語順であると、指示詞の右にある形容詞を述語とする文であると判断される。

(21) 作例

(a) 名詞 形容詞 指示詞 → 名詞句

thuốc đắt này

薬 高い この

「この高い薬」

(b) 名詞 指示詞 形容詞 → 文

Thuốc này đắt.

薬 この 高い

「この薬は高い。」

続いて、単独形と修飾形の文中の出現位置の違いについてまとめる。単独形は (a) コピュラ文の主語、(b) 前置詞の補部、(c) 場所を表す副詞、(d) 指示詞述語 (3.1.2 参照) として使われるが、(e) 形容詞文の主語や (f) 動詞文の主語、(g) 動詞文の目的語としては使えない。一方、修飾形は名詞の後に置かれ、(e) 形容詞文の主語や (f) 動詞文の主語、あるいは (g) 動詞文の目的語としても使うことができる。しかしながら、修飾形のみでは文の構成要素になることはできない。(22)(a)(b)(c) の例は、“名詞+修飾形”の形を使っても表現できる。しかしながら、(d) の指示詞述語の例は単独形しか使えない。以上のことから、単独形は (a) において事物を指示対象とするにも拘わらず、(e)(f)(g) においては事物を指示することができないことが分かる。

木村英樹 (2012: 17) によれば、遠近 2 系列を区別する中国語指示詞の近称の“这 (*zhè*)”と遠称の“那 (*nà*)”は、判断詞“是”[～である]を用いたコピュラ文や形容詞述語文の主語になることができるが、動詞述語文の主語や目的語にはなれない。この这/那は事物を表

¹⁶ 議論の先取りとなるが、以下の例に示すように、文末に指示詞と同形の文末詞が現れる場合は、指示詞と文末詞の判別が必要となる。なお、*này* の文末詞としての用法 (事物の列举) の詳細は、4.2.3 を参照のこと。

作例

<i>Thuốc</i>	<i>này</i>	<i>đắt</i>	<i>này.</i>	<i>đắng</i>	<i>này.</i>
薬	この	高い	SFP [この]	苦い	SFP [この]

<i>có</i>	<i>tác dụng</i>	<i>phụ</i>	<i>này.</i>
ある	作用	付け加える	SFP [この]

「この薬は高く、苦くて、副作用がある。」

す指示代名詞ではなく、それ自身何らの範疇概念も担わず、専ら指示概念のみを担う語であると考えられる。这／那は談話に新規に導入する情報を単に指差すことはできるが、発話現場やコンテキストの中に既に確立されている実体について表し示すことはできない。ベトナム語指示詞の単独形は (22)(e) において提示するように形容詞述語文の主語になれないものの、中国語の这／那と同様に考えられるだろう。単独形は (a) から (d) において指示対象を新規に導入することはできるが、確立した実体を表すことはできない。よって、ベトナム語の単独形は Diessel (1999) のいう、動詞を修飾し、場所を指示する *adverbial demonstratives* としては分類できるものの、動詞や前置詞の項の位置において独立した代名詞になるという *pronominal demonstratives* の定義には完全には合致しない (2.2.1 参照)。

(22) 作例

(a) コピュラ文の主語

{ *Đây / Áo này / *Này* } là áo dài Việt Nam.
 これ 服 この *この COP アオザイ ベトナム
 「{これ／この服／*この} はベトナムのアオザイです。」

(b) 前置詞の補部

*Phim này hay là vì { đây / điều này / *này }.*
 映画 この 面白い COP ため これ こと この *この
 「この映画が面白いのは {これ／このこと／*この} による。」

(c) 場所を表す副詞

*Tôi ngồi { đây / chỗ này / *này } được không?*
 私 座る ここ 場所 この *この できる Q
 「{ここ／この場所／*この} に座ってもいいですか？」

(d) 指示詞述語

(風呂に入ろうとしている人に向かって、着替えを差し出しながら)

*Quần áo của anh¹⁷ { đây / *chỗ này / *này¹⁸ }.*
 服 の あなた [兄] ここ 場所 *この *この
 「あなたの服 (着替え) は {ここ／*この場所／*この} です。」

¹⁷ ベトナム語では、親族名称を人称代名詞のように用いることがある。本稿では、グロスの角括弧の中に親族名称としての意味を示す。詳しくは 3.2.6 を参照のこと。

¹⁸ 全体として「このあなたの服」という意味を表す名詞句として捉えるのであれば、修飾形 *này* を選択することができる。

(e) 形容詞文の主語

{ *Đây / Ở này / *Này } cay quá!
 *これ 唐辛子 この *この 辛い SFP [～過ぎる]
 「{*これ/この唐辛子/*この} はとても辛いなあ！」

(f) 動詞文の主語

{ *Đây / Xe này / *Này } chạy rất nhanh.
 *これ 車 この *この 走る とても 速い
 「{*これ/この車/*この} はとても速く走る。」

(g) 動詞文の目的語

Em cầm { *đây / ô này / *này }
 あなた [弟/妹] 掴む *これ 傘 この *この
 đi.
 SFP [促し]
 「{*これ/この傘/*この} を持っていきなさい。」

上記の (22) の (a) から (g) 全ての例において、修飾形は単独では使用できない。しかしながら、近称修飾形 *này* はコピュラ文の主語として単独形のように扱われることがある。この用法は詩や歌詞などに使用範囲が限られる。また、例 (23) 中の *này* は単独形の *đây* に置き換えることができるが、その際意味に違いが生じる。*Này* は指示対象である手紙やちまき、セーターが発話の場にある場合でも、発話の場には存在しない対象を思い浮かべている場合でも使用することができる。一方、単独形の *đây* は発話の場にある対象を談話に新規導入する際にしか用いられない。

(23) 歌謡曲の歌詞

{ <i>Này</i> / <i>Đây</i> }	<i>là</i>	<i>cánh</i>	<i>thư</i>	<i>nghiêng nghiêng</i>	
この これ COP	CLF [翼]	手紙	少し傾いた		
<i>nét chữ</i> <i>cô em</i>	<i>học trò</i>				
筆跡 若い女性	学生				
{ <i>Này</i> / <i>Đây</i> }	<i>là</i>	<i>bánh chưng</i>	<i>mẹ</i>	<i>gia</i>	<i>tự</i>
この これ COP	ちまき	母	年を取った	自分で	
<i>tay</i> <i>gói</i> <i>gởi</i>	<i>cho</i> <i>con</i>				
手 包む 送る	ために 私 [子ども]				
{ <i>Này</i> / <i>Đây</i> }	<i>là</i>	<i>áo len</i>	<i>bao nhiêu</i>	<i>đêm</i>	
この これ COP	セーター	いくつもの	夜		

thâu em ngồi em đan
 ずっと あなた [妹] 座る あなた [妹] 編む

「これは女子学生の（書いた）字が少し傾いた（正月の）手紙
 これは年老いた母が自らの手で包んで私に送ってくれた（正月の）ちまき
 これは幾夜も夜通しで君が座って編んだセーター」

[Trình Lâm Ngân 1969]

一方、以下の例 (24) では、中称修飾形の *áy* が単独形として扱われている。この例においては、*áy* は単独形の *đáy* あるいは *đó* と交換が可能であるが、縮約形の *y* とは交換不可能である。この用法も、日常会話ではほとんど使われない。

(24) 辞書の例

{ *Áy* / *Đáy* / *Đó* / **Ý* } là những ngày khó khăn nhất
 その それ それ *その COP PL 日 困難な 最も
đối với dân tộc ta.
 対する と 民族 我々の

「それは、我々の民族にとって最も困難な日々であった。」

(川本邦衛 2013: 26)

3. 1. 2 指示詞述語文

3.1.1 で述べたように、ベトナム語指示詞の単独形はコピュラ文の主語や前置詞の補部、場所を表す副詞として用いられるだけでなく、“名詞句+単独形”という形式で、主語である名詞句に対しての述語にもなる。Emeneau (1951: 141) によれば、この形式は “the subject is in the place indicated by the demonstrative pronoun” という意味を表す。より詳しく述べれば、この形式は、ある実体が発話の場に新たに出現した場合、あるいは、その実体が元々存在していたが聞き手がまだ気付いていない場合に、その実体の存在を聞き手に知らせるために用いられる。例えば、電話の話し始めにおいて、話し手が聞き手に向かって名を名乗る時は (25) のように言う。この時、述語の中の唯一の動詞として現れることから、ベトナム語の述語としての指示詞単独形は、(Emeneau (1951) は demonstrative pronoun であると述べているが) Dixon (2003: 62) の言う verbal demonstratives¹⁹ として分類できる可能性がある (2.2.1 参照)。なお、(22)(d) において言及したように、修飾形はこの用法に使えない。

¹⁹ Dixon (2003: 62) は、verbal demonstratives として、様態を表す ‘do like this’ の例を挙げているが、Lionnet (2013) は、(Northern Khoisan として知られる) Jul’hoan の存在を表す verbal demonstrative *hè* ‘be.here/this’ 及び *tò’á* ‘be.there/that’ の 2 例を追加している。

(25) 作例

Aló, *Adachi* { *đây* / **chỗ này* } *a.*
 もしもし 安達 ここ 場所 *この SFP [丁寧]
 「もしもし、{ **こちら** / *この場所 } は安達です。」
 (直訳：もしもし、安達は { **ここ** / *この場所 } です。)

また、行商の売り文句の中でも、単独形が述語として用いられることがある。

(26) *Bánh bao* *đây!*
 肉まん ここ
 「肉まん (は**ここ**) だよ！」

下の例 (27) は、話し手と聞き手が共に寺を目指して歩いている場面である。目的地である寺が遠くに見えたので、話し手は聞き手にそのことを知らせている。

(27) 作例

(寺を指差しながら)
Chùa *kia* *rồi*²⁰.
 寺 あそこ もう
 「寺はもう **あそこ**です。」

3. 1. 3 指示詞の複合形

ベトナム語指示詞には、3.1.1 において言及した単独形と修飾形だけではなく、同系列の2つの指示詞が組み合わさった複合形がある。しかしながら、同系列であればあらゆる組み

²⁰ *Rồi* は述部の末尾に置かれ、完了のアスペクトを表す。よって、(27) において *kia* が *rồi* に前置されていることも、*kia* を述部とみなす根拠となる。しかしながら、指示詞述語は否定文において使えないなど、典型的な動詞から逸脱する点もある。また、ベトナム語には指示詞述語以外にも、新規導入を表すコピュラ文 (3.1.1 参照) や存在動詞 *có* 「ある、存在する」、所在を表す動詞 *ở* 「～にある」及び同形の前置詞 *ở* 「～に」などの存在に関する表現があるため、それらの表す意味と比較しながらさらに分析を進める必要がある。

例えば、(25) は *Đây là Adachi.* (ここ+COP+安達) 「こちらは安達です。」と言い換えることができるが、**Adachi ở đây.* (安達+にいる+ここ) 「*安達はここにいます。」や **Có Adachi ở đây.* (いる+安達+に+ここ) 「*安達はここにいます。」とは言い換えることができない。

(26) は **Đây là bánh bao.* (ここ+COP+肉まん) 「*これは肉まんです。」とも、**Bánh bao ở đây.* (肉まん+にある+ここ) 「*肉まんはここにあります。」とも、**Có bánh bao ở đây.* (ある+肉まん+に+ここ) 「*肉まんはここにあります。」とも言うことができない。

(27) は *Kia là chùa rồi.* (あそこ+COP+寺+もう) 「あれはもう寺です。」、あるいは *Chùa ở kia rồi.* (寺+にある+あそこ+もう) 「寺はもうあそこにあります。」と言えるが、**Có chùa ở kia rồi.* (ある+寺+に+あそこ+もう) 「*寺はもうあそこにあります。」は使用不可能である。

合わせが可能と言うわけではなく、特定の組み合わせのみ許容される。また、複合形は主語の位置に現れることができない。表8は Nguyen Tuong Hung (2004: 129) からの引用である（筆者が一部改編）。この表において、複合形の前部要素は指示詞、後部要素は locative に由来する demonstrative reinforcer として分析されている。なお、Nguyen (2004) は挙げていないが、本研究のデータ中では *đây này* という形式も散見されたので、表8に追加する。

表8. ベトナム語における demonstrative reinforcers

Distance	Demonstratives	Reinforcers
	<i>này</i> ‘this/these’	<i>đây/này</i> ‘here’
Proximal	<i>này</i> ²¹ ‘this/these’	<i>đây/này</i> ‘here’
	<i>đây</i> ‘this/these’	<i>này</i> ‘here’
Medial	<i>đó</i> ‘that/those’	<i>đó</i> ‘there’
	<i>đấy</i> ‘that/those’	<i>đấy</i> ‘there’
	<i>ấy</i> ‘that/those’	<i>ấy</i> ‘there’
Distal	<i>kia</i> ‘that/those’	<i>kia</i> ²² ‘over there’

Nguyen (2004) は、“The locatives [...] serve only to reinforce the deictic meaning of the demonstratives, making the deixis more explicit (often with some pointing gesture) (p.129)”と指摘し、reinforcer の存在は名詞句の基本的な意味を変えないと述べている。また、(28) の例を挙げ、“[T]he reinforcer is used when the hearer fails to grasp the referent under discussion.”と説明している (p.130)。

- (28) (A) Question: *Anh nói con nào?*
 you say CL which
 ‘Which one do you mean?’
- (B) Answer: *Con kia kia!*
 CL that over there
 ‘That one over there!’ (pointing to the referent)

²¹ *Này* は、3.1.1 の注 12 において言及したように、*này* の自由変異形（方言形）である。

²² *Kia* は遠称の *kia* よりも遠いものを指すとされるが（竹内与之助 1986: 334、Thompson 1965: 253）、指示詞として発話の場にあるものを指し示すことはなく、時間表現（3.2.7 参照）、あるいは感動詞として用いられる（5.2.1 参照）。

(29) は戯曲から抽出した例である。話し手は聞き手を恫喝するために、近称の複合形 *này* を用いて聞き手の眼前に振りかざしたこぶしに焦点を当てている。

(29) 戯曲

(トゥアンは聞き手であるハイの顔に向かってこぶしを振り上げる。)

トゥアン:	<i>Văn hóa của</i>	<i>bọn</i>	<i>tao</i>	<i>là</i>	<i>cái</i>	<i>này</i>
	文化	の	一団	俺	COP	CLF [物]
	<i>này,</i>	<i>hiểu</i>	<i>chưa?</i>	<i>Hãy</i>		<i>coi chừng!</i>
	この	分かる	まだ	[命令]		気を付ける

トゥアン:「俺たちの文化は(他でもなく) **これ** (=こぶしに象徴される腕力) だ、分かったか? 気を付けろ！」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

3. 1. 4 各形式の出現頻度

このセクションでは、戯曲のデータを用いて、ベトナム語指示詞の各形式の出現頻度と分布を示す。今回使用したのは、1980年代にハノイで上演された Nguyễn Sỹ Hanh 作の3篇の戯曲である。表をまとめる際、3.1.3 において言及した複合形については、前部要素の形式に基づいて振り分け、複合形全体が単独形として用いられているか、あるいは修飾形として用いられているかによって分類した。また、3.1.3 の注 22 でふれた *kia* という形式の使用回数についても計上した。さらに、議論の先取りとなるが、それぞれの形式が文末詞や感動詞として使用されている回数も併記した(文末詞については第4章、感動詞については第5章を参照のこと)。

表 9 に示した各系列と品詞の割合をみると、近称単独形の *đây* と修飾形の *này* は指示詞としての使用が多いことが分かる。一方、中称単独形の *đây* は文末詞として使われることが多く、中称修飾形の *áy* は指示詞として用いられることが多い。また、*áy* の縮約形の *y* という表記は、規範的ではなく口語的とみなされるためか(3.1.1 参照)、戯曲のデータにおいては現れなかった。一般的に、*đây* は単独形としてだけでなく、修飾形としても用いられるが、この戯曲においては修飾形としての使用例はなかった。中称の *đó* は指示詞の単独形としても修飾形としても用いられている。文末詞としての使用は1例しかなかった。これは方言差による可能性がある(3.1.1 参照)。遠称の *kia* は近称や中称よりも、全体的に使用頻度が少ない。*Kia* は指示詞の単独形、修飾形、文末詞としては用いられるが、感動詞としては用いられない。*Kia* より遠いものを表すとされる *kia* は感動詞としてのみ現れている。よって、文末詞や感動詞の用法は決してこれらの形式の周辺的な用法ではないことが分かる。

次節以降で指示詞の用法を説明するが、表9の戯曲の例だけではデータとして不十分であるため、戯曲以外の小説の用例や作例なども併用する²³。

表9. ベトナム語指示詞の各形式の出現頻度

系列	形式	品詞	機能	数 (うち、複合形)	割合
近称 481	<i>đây</i> 214	指示詞	単独形	182 (<i>đây này</i> : 11)	85%
			修飾形	0	
		文末詞		32	15%
		感動詞		0	0%
	<i>này</i> 267	指示詞	単独形	0	95%
			修飾形	254 (<i>này này</i> : 3) (<i>này đây</i> : 4)	
		文末詞		3	1%
		感動詞		10	4%
中称 499	<i>đây</i> 213	指示詞	単独形	33	15%
			修飾形	0	
		文末詞		180	85%
		感動詞		0	0%
	<i>ây</i> 213	指示詞	単独形	0	0%
			修飾形	183	
		文末詞		16	8%
		間投詞		14	7%
	<i>đó</i> 73	指示詞	単独形	26	99%
			修飾形	46	
文末詞		1	1%		
感動詞		0	0%		
遠称 56	<i>kia</i> 56	指示詞	単独形	3 (<i>kia kia</i> : 1)	39%
			修飾形	19 (<i>kia kia</i> : 3)	
		文末詞		34	61%
		感動詞		0	0%
さらに遠い 15	<i>kia</i> 15	指示詞	単独形	0	0%
			修飾形	0	0%
		文末詞		0	0%
		感動詞		15	100%

(小数点以下四捨五入)

²³ 戯曲のデータにおいては、作者の規範意識が働いているためか、*ây*の縮約形 *y* (4.2.6 参照) や *kia*の縮約形 *co* (4.2.5 参照) が使われないなど、出現した文末詞のバリエーションが少なかった。使用するデータの違いと、文語や口語などのスタイルの違いの関係についての詳しい調査は、今後の課題としたい。

3. 2 用法

3.1 においては指示詞の形式的特徴について見たが、3.2 では指示詞の各用法を整理する。具体的には、発話の場にある対象を指示する直示用法、談話の中の先行詞を指示する照応用法、過去の知識の中の対象を直接指示する記憶指示用法、曖昧指示や *placeholder* など不確定な対象を指示する用法、人称指示、時間指示において、近称・中称・遠称がどのように使い分けられているかについて考察する。

3. 2. 1 直示用法

直示用法とは「外界において知覚できるもの、典型的には見えているものを直接指し示す用法」のことである（金水・岡崎・曹 2002: 218）。(30) に示すように、直示用法におけるベトナム語の指示詞は、基本的には話し手と指示対象の空間的な距離によって使い分けられる。この時、近称は話し手に近い対象を、中称と遠称は話し手から遠い対象を指示する。

(30) 作例

<i>Em bé</i>	<i>đang</i>	<i>ngồi</i>	{ <i>đây</i>	/ <i>đấy</i>	/ <i>đó</i>	/ <i>kia</i> }.
赤ちゃん	PROG	座る	ここ	そこ	そこ	あそこ

「赤ちゃんが {**ここ**/**そこ**/**そこ**/**あそこ**} に座っている。」

ベトナム語指示詞の中称と遠称は直示用法において交換可能なことが多く、その使い分けの基準については諸説ある。以下では、ベトナム語の指示詞に関する先行研究を距離区分説、人称区分説、共同注意説、対比説に分け、それぞれの説について検討する。

まず、『距離区分説』について考える。Nguyễn Đình-Hòa (1997: 134) は、*đây* に ‘this place, here’、*đấy, đó* に ‘that place, there’、*kia* に ‘that place over there, farther, yonder’ というグロスを当てている。一方、Bui Linh Thuy (2014: 44) は、“[T]he referent expressed by *kia* [...] is presumably located at the shortest distance from the speaker while the distance expressed by *đấy* [...] is probably greater.” と述べている。このように、距離区分に関して、中称と遠称のどちらがより遠い場所を指すのかについて、意見の相違が見られる。

一方、中称は聞き手に近い場所を指示するという『人称区分説』を唱える研究者もいる。富田健次 (2000: 85) は、近称の *đây* は空間的・時間的に話し手に近いもの（時間）を指し、中称の *đấy, đó* は話し手からは遠く聞き手に近いもの、遠称の *kia* は話し手からも聞き手からも遠いものを表すとしている。その一方で、中称と遠称は相対的なものであり、その区別はあまり明確なものとはいえないとも述べている。Nguyễn Phú Phong (2002: 110–111) は距離と人称の両方を考慮に入れ、話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている場合には、近

称の *đây* は双方にとって近いものを、中称の *đây, đó* は双方から遠いものを、遠称の *kia* は中称の *đây, đó* よりさらに遠いものを表すが、話し手と聞き手が向かい合っている場合は、話し手に近いものは *đây* で、聞き手に近いものは *đây, đó* で、双方から遠いものは *kia* で表すとしている。

しかしながら、聞き手に近い場所は常に中称で表されるわけではない。例えば、「話し手の近くにいる聞き手の手の中にある対象」を指示する時、ベトナム語では話し手がその指示対象のことを近いと思えば、(31) のように近称が使える。また、遠いと感じられれば中称や遠称が選択される。聞き手が手にしているものを指示する場合、日本語であればソ系の指示詞が用いられる。よって、ベトナム語の近称の使用には、聞き手の位置よりも話し手が対象を近いと感じているかどうかが重要であると考えられる。引用例において選択されている指示詞を太字にして示す。加えて、波括弧内に言語コンサルタントの判断を併記する。

(31) 小説

(話し手である女性の先輩ガンさんは、聞き手である少年クイーの手の中の煙草を見た。)

<i>Cái</i>	{ <i>này</i> / <i>ấy</i> / <i>y</i> / <i>đây</i> / <i>đó</i> / <i>kia</i> }	<i>để</i>	<i>làm</i>
CLF	この その その その その あの	ため	する
<i>gì</i>	<i>vậy</i> ²⁴ ?		
何	SFP [疑問]		

「**それ**は何をするため (に使う) の？」

[Nguyễn Nhật Ánh 2005]

さらに、聞き手に対面する位置から、遠くにいる聞き手が手にしているものを指し示す場合、中称だけでなく遠称も使える。次の例 (32) において、クイーは手品に使うためにシーツを背中に隠して部屋から持ち出そうとしていた所、お婆さんに何かと怪しまれてしまった。そこで、クイーは「汚れた服を洗濯しに行こうとしている」と言い訳をするが、さらに不審に思われてしまう。このような場面で、お婆さんは (32) の台詞を言う。引用した小説においては中称の *đây* が用いられているが、コンサルタントによれば遠称の *kia* も使用可能であるという。この例も、ベトナム語指示詞の使い分けの基準として聞き手の位置は確固としたものではないことを示している。

²⁴ 注 13 において言及した、指示副詞 *vậy* の疑問文における文末詞としての用法について詳しくは、4.2.4 注 48 を参照のこと。

(32) 小説

Nhung { **đây* / *đấy* / *đó* / *kia* } *không phải là*
 しかし *これ それ それ あれ NEG 正しい COP
chiếc áo!
 CLF [衣類] 服

「でも**それは**服じゃない！」

[Nguyễn Nhật Ánh 2005]

続いて、2人が横並びで部屋の窓から外を眺めている場合について考えてみる。以下の例(33)においては、遠くに位置する同一の対象（この場合はホテル）が遠称の *kia* と中称の *đó* の両方で指示されている。この時、中称の *đó* は遠称の *kia* よりも近いものを指し示しているわけではなく、また、聞き手に近い対象を指示しているわけでもない。

(33) 小説

“*Cái nhà đằng { *này / ấy / ý / đấy / đó / kia }*
 CLF 家 方 *この その その その その あの
là gì thế²⁵?”
 COP 何 SFP [疑問]
 (中略)
 “*Cái { *này / ấy / ý / đấy / đó / kia }*
 CLF [物] *この その その その その あの
*hà, cái { *này / ấy / ý / đấy / đó / kia }*
 SFP [疑問] CLF *この その その その その あの
là khách sạn đấy²⁶.”
 COP ホテル SFP [情報共有の志向]

「**あちら**側の建物は何なの？」

(地の文：私は言った。山のふもとに、てっぺんがまだ少しむき出しの鉄骨になっている大きな建物が見えて、気になっていたのだ。それは闇に沈む町並の中でも目立っていた。)

「**あれ？ あれ**は、ホテルだよ。」

[Yoshimoto 2007]

²⁵ 注13において言及した、指示副詞 *thế* の疑問文における文末詞としての用法について詳しくは、4.2.4注48を参照のこと。

²⁶ 例文(33)中の文末の *đấy* は、中称の指示詞ではなく、文末詞として分類される。詳しくは4.2.4を参照のこと。

次に、話し手と聞き手が指示対象に気付いているかどうかに着目する『共同注意説』について考えてみる。Thompson (1965: 142, 253) は聞き手の知識と距離の両方を考慮し、近称 *đây, này* は “close to speaker or newly identified”、中称 *đấy* は “remote or already identified”、また、遠称 *kia* は “more remote than *đấy*” という性質を持つ対象を指示すると述べている。*Kia* と聞き手の知識の関係には触れられていない。また、Bui (2014: 47) は、先に述べた距離説を以下のような共同注意説に修正している。

When the speaker is aware that the intended referent has been noticed by the hearer before the reference is uttered, *đây/đó* is selected over *kia*. When the intended referent is assumed to be newly-introduced to the hearer, *kia* is employed instead.

一方、五味政信 (2015: 370) によれば中称の使用には聞き手の位置も意識も考慮され、話し手からは遠く聞き手に近いものだけではなく、話し手と聞き手の間で共通の認識があるものを指す。以上のような共同注意説に従えば、上記の例 (33) では、遠称の *kia* を用いて新規導入された指示対象を 2 回目以降に指す時は、談話に既に導入されていると対象とみなされ中称の *đó* で示していると説明できる。しかしながら、コンサルタントは遠称と中称のどちらも使用可能であると判断している。

チュルク諸語の指示詞の中には、指示対象が新規導入されるのか、談話に導入済みであるのかが使用の決定的な基準となるものがある。林徹 (2008) によれば、トルコ語では聞き手が既に対象に気付いていると話し手が見なす場合は中称の *şu* を使うことができず (p.211)、*şu* によって指示された対象を再び *şu* で指示することはできない (p.216)。また、カザフ語には近称の *bul* や遠称 *ol* といった談話へ導入済みの要素を指示する指示詞があり (西岡いずみ 2004: 31)、キルギス語にも先行文脈を必要とする近称の *ušul* や遠称の *ošol* がある (ボロタクーノワ ヌルザット 2014: 54)。一方、コンサルタントによれば、ベトナム語の例 (32) と (33) においては、中称だけでなく、遠称も使用可能だという。よって、ベトナム語の指示詞の使い分けにおいて、聞き手の注意の有無はチュルク諸語ほど厳格な規則とはならないようである。例えば、(これは筆者の実体験に基づく記述であるが、) レストランで店員が客を席に案内する際、(34) のように、中称を使ってふいに客の背後の席を指すことができる。この時、聞き手である客が自分の背後に既に注意を向けているとは考えにくい。よって、遠称と同様に、中称も何の前置きもなく使うことができ、共同注意説ではこの現象を説明しにくい。

(34) 作例 (聞き手の背後にある離れた席を指差して)

Mời	<i>chị</i>	<i>ngồi</i>	{ * <i>đây</i> / <i>đấy</i> / <i>đó</i> / <i>kia</i> }.
招く	あなた [姉]	座る	*ここ そこ そこ あそこ

「あちらに座ってください。」

続いて、『対比説』について見る。遠称の *kia* は近称の *này* と対になって、「もう一方の」という対比の意味を表すことがある。(35) において、同一人物の瓶を持った手ともう一方の手の距離が遠いとは考えにくい、近称の *này* は使えず、中称の *đây, ấy, ý, đó* も用いられない。

(35)	(<i>Tay này</i>)	<i>giữ</i>	<i>cái</i>	<i>chai, tay</i>	{ * <i>này</i> / * <i>ấy</i>
	手 この	持つ	CLF	瓶 手	*この *その
	/ * <i>ý</i> / * <i>đây</i>	/ * <i>đó</i>	/ <i>kia</i>	<i>mở nút chai.</i>	
	*その *その	*その	あの	開ける 蓋	瓶

「(こちらの手で) 瓶を持って、**もう一方**の手で瓶の蓋を開ける。」

(Hò, Chu and Cao 2007: 1726)

Nguyen Thi Ha Thuy (2014: 189) は以下の図 1 を示し、b, c, d のように二項対立の場合は、話し手が指示対象を近いと判断すれば近称 *đây* が、遠いと判断すれば遠称 *kia* が用いられ、中称の *đây, đó* は使えないと述べている。この例においては、話し手と聞き手は横並びで同じ方向を向いており、2m の距離にある本①、4m の距離にある本②、6m の距離にある本③を、それぞれ指示詞を使って指し示している。

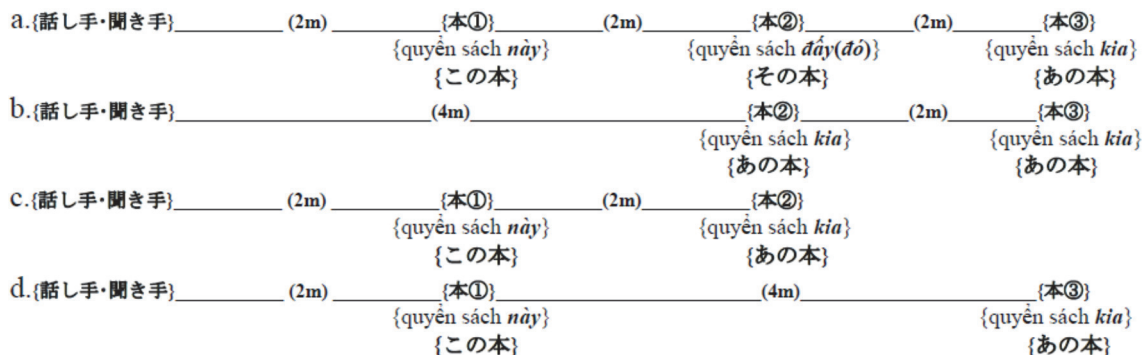


図 1. ベトナム語指示詞と対比

しかしながら、対比するものがあるかどうか、決定的な基準とはならないようである。以下の図 2 は、筆者が図 1 を精密化し、*quyển sách* (類別詞+本) と共にどの指示詞が使用可能か、コンサルタントに確認した結果である。図 2 で用いられている 2m、4m、6m という区分は調査上の便宜的な数字であるものの、この図からベトナム語話者が空間を 3 つに分割する場合の認識がどのようなものなのかを垣間見ることができる。コンサルタントはこの図の中で、指示対象が二項対立であるかどうかに関わらず中称を使用可能だと判断している。

図2を詳しく見ると、(a)(c)(d)の①のように、話し手が対象を近いと判断すれば近称 *này* が選択されるが、(a)(c)(d)②のように、近いと判断される対象よりも遠い場所にある対象を指示する場合に *này* は用いられず、中称の *ấy, ý, đấy, đó* あるいは遠称の *kia* が選択される。また、(a)(b)(d)③のように、*kia* で指示したものよりもさらに遠いものを指す時は中称が選択される。言い換えれば、(d)①の場合を除いて、遠称 *kia* は中称よりも指示範囲が狭い。一方で、中称 *ấy, ý, đấy, đó* は3つの区分の広範囲に使用可能である。以上のことから考えれば、ベトナム語指示詞が表しているのは、排他的な距離区分ではなく、図3のような同心円が重なった包含を許す区分である。

- (a) {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (2m) _____ {本②} _____ (2m) _____ {本③}
- ① *quyển sách* { *này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / *kia* }
- ② *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / *kia* }
- ③ *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / **kia* }
- (b) {話し手・聞き手} _____ (4m) _____ {本②} _____ (2m) _____ {本③}
- ② *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / *kia* }
- ③ *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / **kia* }
- (c) {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (2m) _____ {本②}
- ① *quyển sách* { *này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / *kia* }
- ② *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / *kia* }
- (d) {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (4m) _____ {本③}
- ① *quyển sách* { *này* / **ấy* / **ý* / **đấy* / **đó* / *kia* }
- ③ *quyển sách* { **này* / *ấy* / *ý* / *đấy* / *đó* / **kia* }

図2. ベトナム語指示詞による空間分割

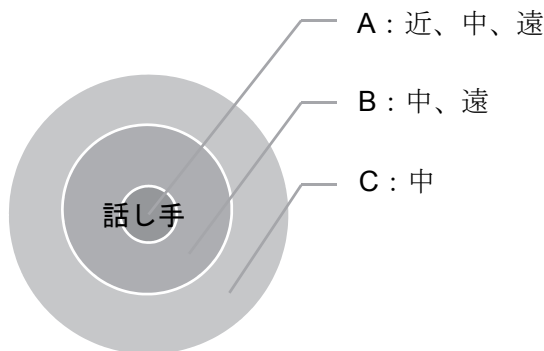


図3. ベトナム語指示詞の指示範囲

また、コンサルタントによれば、遠称の *kia* は話し手から離れた位置にある可視的な指示対象を示すために用いられることが多いが、中称の *áy, ý, đáy, đó* の指示対象は常に目に見えるものであるわけではないという直観が働くという。現時点では図 2(d)①において中称が使用できない理由は定かではないが、本①を指示対象とした場合、話し手以外の参照点となる本③との距離が大きく離れているため、直接認識できる範囲とその外にある範囲という区別が優先されるという仮説が立てられる。

以上のことから、ベトナム語の指示詞は直示用法において A. 話し手に近い範囲（近称・中称・遠称の3つから選択可能²⁷⁾）、B. 対象を具体的に認識できる範囲（中称と遠称の2つが使用可能）、C. 話し手の直接認識が難しい範囲を含む広い範囲（中称のみ使用可能）という話し手を中心とする小・中・大の3つの同心円の中で相対的に運用されていると考えられる。よって、B の直接認識が可能な範囲は、聞き手の位置や指示対象が談話に導入済みか否かに拘らず、中称と遠称のどちらによっても指示される可能性がある。したがって、中称の指示対象は物理的な距離について中立的で、話し手から近いと感じられず、見えていても見えていなくてもいいという、その特徴がかなり捉えにくいものであると言える²⁸⁾。Anderson and Keenan (1985) の分類に当てはめるならば (2.2.3 参照)、ベトナム語は基本的には距離志向であるが、それに可視性（直接認識可能性）の基準も加わった3系列の指示詞を持つと言える。

上記の区分を採用すれば、このセクションで提示したいくつかの問題が解消する。まず、中称と遠称のどちらがより遠い場所を指すのかについて、指示対象が図3のAあるいはBの範囲に位置する場合、中称の方が遠いこともあれば、遠称の方が遠いこともあり、また、同一の距離を指すこともありうる。一方、Cの範囲では中称しか使えない。次に、(31)に挙げたような、聞き手が手にしている指示対象を近称でも指示できる例を人称区分説では説明しにくいだが、指示対象が図3のAの範囲にあると考えると、近称・中称・遠称のいずれも使用可能であると言える。(32)の話し手からは遠く聞き手に近い指示対象に遠称が使え

²⁷⁾ 指示対象が物理的に話し手に近い位置にあっても、中称が選ばれることがある。下の例において、近称 *này* の代わりに中称の *áy* や *đó* が用いられると、指示対象は話し手がよく知らないものだ判断される。よって、この例においては、認識可能性の基準が距離の基準より優先されていると考えられる。

作例

(話し手は聞き手の隣に座っている。聞き手は何かとても臭いものを食べている。話し手は我慢
 ならず尋ねる。)

<i>Món</i>	{ <i>này</i>	/ <i>áy</i>	/ <i>ý</i>	/ <i>đáy</i>	/ <i>đó</i>	/ * <i>kia</i> }	<i>là</i>	何
CLF [食べ物]	この	その	その	その	その	*あの	COP	<i>gi?</i>
<i>Mùi</i>	{ <i>này</i>	/ <i>áy</i>	/ <i>ý</i>	/ <i>đáy</i>	/ <i>đó</i>	/ * <i>kia</i> }	<i>thối</i>	<i>nhi?</i>
におい	この	その	その	その	その	*あの	臭い	SFP [同意の要求]

{この/その/その/その/その/*あの} 食べ物は何?
 {この/その/その/その/その/*あの} におい臭いよね?」

²⁸⁾ Nguyen (2014: 189) も中称に距離区分がないことを指摘しているが、「指示対象が三つあって、中距離にあるものを指す場合（本稿 46 頁、図 1 参照）」と「聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）対象を指す場合」に中称が選ばれると説明している。

る例、また、(33) の話し手からも聞き手からも遠い指示対象に中称が使える例も、指示対象が図3のBの範囲に位置付けられていると考えれば、中称と遠称の両方が使えることになる。(34) の聞き手がまだ注意を向けていない遠い場所を指示する例も、対象がBの範囲にあるため中称と遠称の両方が使えると考えられる。但し、(35) の両手で瓶の蓋を開ける例は、物理的にはAの範囲に位置付けられると考えられるが、この場合は対比の基準が優先されるようである。最後に、図1の話し手は本①はA、本②と本③はBの範囲にあると考えており、図2の話し手は本①はA、本②はB、本③はCの範囲にあると捉えていると説明できる。

ここで、中称が最も遠い場所を表すと結論付けるに当たり、一つ問題が生じる。それは、近称・中称・遠称の呼称と、実際の指示範囲に齟齬が生じることである。ベトナム語指示詞研究の端緒において、距離によって指示詞を3分割したのは Emeneau (1951) と Thompson (1965) である。その区分を近称 (proximal) ・中称 (medial) ・遠称 (distal) と名付けたのは、富田 (2000) や Nguyễn (1992, 2002) である。その後、Nguyen (2004, 2005) や、安達真弓 (2008, 2009, 2010, 2012)、Adachi (2008, 2011a, 2011b, 2012, 2013a, 2013b)、Nguyen (2014)、Bui (2014) などにおいてもそれぞれの形式は同じ名称を用いて言及されている。よって、ここで系列名に変更を加えると以上のような先行研究を参照しにくくなるため、改変は行わないこととする。代わりにこれ以降、近称は話し手に近い範囲を、遠称は話し手から遠い範囲を、また、中称は中距離ではなく距離に「中立的 (neutral)」な範囲を表すという定義を採用し、「中称」と表記する。

3. 2. 2 照応用法

3.2.2 ではベトナム語指示詞の直示用法について記述したが、ここからは非直示用法について検討する。金水・岡崎・曹 (2002: 220) によれば、「言語テキストによって導入された先行詞と同一指示関係を持つ用法」は照応用法と呼ばれる。ベトナム語の照応用法においては「中称」指示詞²⁹が選択される。例 (36) における「中称」単独形の *đó* 「そこ」は、前の文の中の先行詞である *Sài-gòn* 「サイゴン」を指し示している。引用元の例では *đó* のみが挙

²⁹ 3.1.1 の注13において述べたように、ベトナム語指示詞には様態を表す「中称」指示副詞 *thế* と *vậy* がある。以下の例のように、これらは主に照応用法において用いられる。

- A: *Tôi nghĩ là anh ấy sẽ không đến.*
私 考える COMP 兄 その [未来] NEG 来る
A: 「私は彼は来ないと思う。」
- B: *Tôi cũng thế (/ vậy).*
私 も そう そう
(= *Tôi cũng “nghĩ là anh ấy sẽ không đến”.*)
私 も 考える COMP 兄 その [未来] NEG 来る
B: 「私もそうだ。」
(=私も「彼は来ないと思う。」)
(Lê Thị Minh Hằng 2010: 68)

げられているが、コンサルタントによれば *đây* も使用できる。しかし、この例においては近称と遠称を照応的に使用することはできない。近称の *đây* は、サイゴンではない発話の場を直示的に指す場合のみ使用可能となる。

- (36) *Lúc trước tôi ở Sài-gòn lâu năm.*
 時 前 私 に住む サイゴン 長年
*Ở { *đây / đây / đó / *kia } thì vui lắm.*
 に住む *ここ そこ そこ *あそこ TOP 楽しい とても
 「以前私はサイゴンに長年住んでいた。そこに住むのはとても楽しかった。」
 (Thompson 1965: 143)

ベトナム語指示詞の‘中称’は、(37)のような不特定の対象や、(38)(a)(b)のような先行詞によって連動的な解釈を持つ対象を指し示す先行詞を承けることができる。このように言語的な先行詞に依存して指示対象が決まる場合は、近称や遠称を用いることができない。

(37) 不特定の対象

- Nếu kịp tàu siêu tốc thì chúng ta đi*
 もし 間に合う 列車 特急 なら 私たち 乗る
*tàu { *này / ấy / ý / đây / đó / *kia } nhé.*
 列車 *この その その その その *あの SFP [勧誘]
 「もし特急に間に合えば、**それ**に乗っていこう。」

(38) 連動的解釈

- (a) *Sinh viên nào đến hội trường, xin đưa giấy tờ này*
 学生 どの 来る 会場 請う 渡す 書類 この
*cho sinh viên { *này / ấy / ý / đây / đó / *kia }.*
 に 学生 *この その その その その *あの
 「会場にどの学生が来ても、この書類を**その**学生に渡してください。」

- (b) *55% công ty đã sa thải luật sư cố vấn ở*
 55% 会社 既に 解雇する 弁護士 顧問 にいる
*{ *đây / đây / đó / *kia }*
 *ここ そこ そこ *あそこ
 「55%の会社が**その**顧問弁護士を解雇した。」

((37), (38)(a)(b)の日本語の例は金水・岡崎・曹 (2002: 220) より引用)

また、*náy*「それ、その」という連動的解釈専用の指示詞もある。疑問詞を含む文に *náy* のような‘中称’指示詞を含む文を並置すると、「～であろうとも」という条件の意味合いが出る。*Náy* は (39)(a) のように単独形としても、(39)(b) のように修飾形としても用いられ、それぞれ‘中称’単独形 *đáy, đó*、あるいは‘中称’修飾形 *áy, ý, đáy, đó* と交換可能である。なお、(39)(a) においては、修飾形の *áy* が単独形のように用いられても文法的となる。

(39) 連動的解釈 *náy*

(a) 単独形

<i>Anh</i>	<i>ăn</i>	<i>gì,</i>	<i>tôi</i>	<i>ăn</i>	{ <i>*đáy</i> / <i>náy</i> / <i>áy</i>
あなた [兄]	食べる	何	私	食べる	*これ それ それ
/ <i>đáy</i> / <i>đó</i> / <i>*kia</i> }.					
それ	それ	*あれ			

「あなたが何を食べようとも、私は**それ**を食べる。」

(Đoàn, Nguyễn and Phạm 2005: 117)

(b) 修飾形

<i>Người</i>	<i>nào</i>	<i>làm,</i>	<i>người</i>	{ <i>*này</i> / <i>náy</i> / <i>áy</i> / <i>ý</i> / <i>đáy</i>
人	どの	する	人	*この その その その その
/ <i>đó</i> / <i>*kia</i> } <i>chịu</i> .				
その	*あの	被る		

「どの人がしようとも、**その**人が（報いを）被る。」

(Nguyễn Tài Cẩn 2004: 242)

近称は、不確定な指示対象や先行詞との連動的な解釈を持つ対象を承けることはできないが、(40)(a) に示すように、文脈に現れる記号、句、文などの対象を‘中称’と共に直接指し示すことができ、textual deixis として用いることができる。Lyons (1977: 667) は、textual deixis について、“Demonstrative pronouns and other deictic expressions may be used to refer to linguistic entities of various kinds (forms, parts of forms, lexemes, expressions, text-sentences, and so on) in the co-text of the utterance.”と述べている。このような用法は直示用法と照応用法の中間的な用法だと言えるであろう。また、(40)(b) に示すように、指示対象は指示詞表現の後方にあってもよい。(40)(a)(b) においては、‘中称’も使用可能である。

(40) Textual deixis

(a) 前方照応

“\$” { *đây* / *đấy* / *đó* / **kia* } là ký hiệu tiền của
 \$ これ それ それ *あれ COP 記号 お金 の
Mỹ.
 アメリカ

「“\$” { **これ** / それ / それ / *あれ } はアメリカの通貨記号です。」

(b) 後方照応

{ *Đây* / *Đấy* / *Đó* / **Kia* } là ký hiệu tiền của *Mỹ*:
 これ それ それ *あれ COP 記号 お金 の アメリカ
 “\$”.
 \$

「{ **これ** / それ / それ / *あれ } はアメリカの通貨記号です。“\$”」

((40)(a)(b) の日本語の例は金水・岡崎・曹 (2002: 225) より引用)

3. 2. 3 記憶指示用法

金水・岡崎・曹 (2002: 221) の定義によれば、指示詞の記憶指示用法とは「過去の直接体験に基づいた話し手の知識の中の対象を指示すること」である。3.2.1 において述べたように、ベトナム語の遠称 *kia* は、先行詞を伴う照応用法においては用いられない。しかしながら、先行詞なしで過去の知識を直接指し示す記憶指示用法の場合は *kia* も用いることができる。一方、記憶指示用法には言語的な先行詞が存在しないため、近称 *đây*, *này* は使うことができない。‘中称’ *ây*, *y*, *đấy*, *đó* は照応用法においても記憶指示用法においても使用可能である。次の例 (41) において話し手は、記憶の中の「あの話」について尋ねている。この時、‘中称’の各形式も使用可能である。

(41) 作例

Chuyện { **này* / *ây* / *y* / *đấy* / *đó* / *kia* } *thế nào rồi?*
 話 *この その その その その あの どう てしまう
 「(ところで) あの話、どうなった？」

Nguyen (2014: 191) はこのような例を、3.2.1において言及した遠称 *kia* の持つ対比の機能を用いて、「今の話題 (この話題)」と対になる「関連している別の話題 (あの話題)」への転換だと説明している。この話題の転換は、話し手と聞き手の共有知識を先行詞なしで直接導入するという本稿の説明と矛盾しない。また、Pham Duy Tai (2014: 10) は、記憶指示用法

における遠称の *kia* について、一旦話し手と聞き手の二人ともが指示対象が何なのか認識してしまうと途端に *kia* が使えなくなり、その後は同じ指示対象を繰り返し指す場合は *đáy* が用いられることが多いと述べている。これは言い換えると、記憶指示の *kia* が使用可能なのは指示対象を先行詞なしで談話に新規導入する時の1回限りであり、指示対象が先行詞と共に談話に導入済みとなった後は‘中称’のみが使われると言える。しかし、(42) のように異なる対象を一つ一つ思い出す時は、連続して *kia* が使える。この例は、話し手には完全に女性に見えていた人物が実は男性であったことが判明し、驚きと共にこれまでの出来事を反芻する場面である。発話の場にその人物はいない。なお、小説中では遠称の *kia* が選択されているが、‘中称’の *áy, ý, đáy, đó* も使用可能である。

(42) 小説

<i>Những ngón tay thon thả</i>	{ * <i>này</i> / <i>áy</i> / <i>ý</i> / <i>đáy</i> / <i>đó</i>
PL 指 手 細い	*この その その その その
/ <i>kia</i> }, <i>những cử chỉ</i>	{ * <i>này</i> / <i>áy</i> / <i>ý</i> / <i>đáy</i> / <i>đó</i> / <i>kia</i> },
あの PL しぐさ	*この その その その その あの
<i>và rồi cả cái điều bộ</i>	{ * <i>này</i>
そして それから 全て CLF [物] 身のこなし	*この
/ <i>áy</i> / <i>ý</i> / <i>đáy</i> / <i>đó</i> / <i>kia</i> } <i>nữa, mà là</i>	
その その その その あの さらに しかし COP	
<i>đàn ông ư?</i>	
男性 SFP [疑問]	

「あの細い指、あのしぐさ、あの身のこなし、なのに、男性なの？」

[Yoshimoto 2007]

照応用法と記憶指示用法におけるベトナム語指示詞の使い分けを表10にまとめる。近称は先の談話においてテキストとして提示された先行詞を確定的に指示する。一方、‘中称’は先行詞の有無にかかわらず広範囲に使える。遠称は先行詞を伴わない記憶指示用法においてしか使われない。その時、指示対象は過去に話し手が直接認識した事物である。

表10. ベトナム語指示詞の照応用法と記憶指示用法

系列／特徴	先行詞の有無	指示対象の確定性	用法
近称 <i>đây</i>	+	+	Textual deixis
‘中称’ <i>đây</i>	+	+	照応
	+	-	(不特定の対象、連動的解釈)
	-	+	記憶指示
遠称 <i>kia</i>	-	+	記憶指示

3. 2. 4 曖昧指示

‘中称’修飾形 *đó* 及び *đây* は、*ai* 「誰」、*đâu* 「どこ」、*gì* 「何」といった疑問詞に後置され、*ai đó/ai đây* 「誰か」、*đâu đó/đâu đây* 「どこか」、*gì đó/gì đây* 「何か」など、不定で曖昧な対象を指示する。この時、近称の *này* と遠称の *kia*、また‘中称’修飾形の *áy* やその縮約形の *y* は使用できない。以下の (43)(a)～(d) は Đoàn, Nguyễn and Phạm (2005: 140) から抜粋した例である。これらの例においては *đó* が代表形として用いられており、本稿では *đó* のみ太字にしてあるが、コンサルタントによれば、*đây* も使用可能だという。日本語の場合、ソ系列の指示詞が曖昧領域を指示することができるが、その場合は (43)(c) の「その辺」のような場所表現に限られる（金水・岡崎・曹 2002: 219）。

- (43)(a) *Trước khi đi ngủ, em ấy³⁰ thường*
 前 時 行く 眠る 弟/妹 その いつも
bắt mẹ kể một câu chuyện nào
 せがむ 母 話 1 話 どの
 { **này* / **áy* / **y* / *đây* / ***đó*** / **kia* }.
 *この *その *その その その *あの

「寝る前に、彼（彼女）はいつも母親に**何か**一つ話をするようせがむ。」

- (b) *Chiều nay có ai { **này* / **áy* / **y* / *đây* / ***đó****
 午後 この いる 誰 *この その その その その
 / **kia* } *đến tìm anh đây.*
 *あの 来る 見つける あなた [兄] SFP [情報共有の志向]
 「今日の午後、**誰か**があなたに会いに来たよ。」

³⁰ “親族名称＋‘中称’修飾形 *áy*” という形式は、三人称代名詞として扱われる。詳しくは 3.2.6 を参照のこと。

- (c) *Cậu có rồi không? Đi đâu*
 あなた [叔父] Q 暇な Q 行く どこ
 { **này* / **ấy* / **y* / *đây* / *đó* / **kia* } *cho mát đi.*
 *この *その *その その その *あの ため 涼しい SFP [促し]
 「暇ですか？ **どこかその辺**に涼みに行こうよ。」

- (d) *Chiều nay mẹ nấu món gì*
 午後 この 私 [母] 料理する CLF [料理] 何
 { **này* / **ấy* / **y* / *đây* / *đó* / **kia* }
 *この *その *その その その *あの
thật ngon nhé.
 実に 美味しい SFP [宣言]
 「今晚お母さんが**何か**とても美味しい料理を作ってあげるね。」

また、近称も不定の場所を表すことがある。Trần Thị Nhân (2009: 12-13) は以下の例を挙げ、*đây* の前後に *đi* 「行く」や *ra* 「出る」といった移動動詞、あるいは *một tí* 「少し」や *một chút* 「ちょっと」といった時間を限定する表現が必要となると言及している。よって、近称による曖昧指示は先に述べた‘中称’の例よりも使用範囲が狭い。(44) において話し手は発話時にいる場所（例えば、家）から離れてそう遠くない別の場所に移動することを聞き手に対して宣言しているが、その目的地は明示されていない。この時、単独形 *đây* だけでなく、修飾形を用いた *chỗ này* 「この場所」という表現も使うことができる。

- (44) *Ông làm ơn trông nhà giúp để*
 あなた [祖父] する 恩 見張る 家 助ける ため
tôi đi { đây / chỗ này } một chút nhé!
 私 行く ここ 場所 この ちょっと SFP [依頼]
 「ちょっと { **そこ** / **その辺** } まで行ってくるから、家を見ておいてね。」

3. 2. 5 Placeholder

Hayashi and Yoon (2010: 37) は、placeholder を以下のように定義している。

- (i) it is a referential expression that is used as a substitute for a specific lexical item that has momentarily eluded the speaker (and which is often specified subsequently as a result of word search), and ...

(ii) it occupies a syntactic slot that would have been occupied by the target word, and thus constitutes a part of the syntactic structure under construction.

英語では *what-do-you-call-it* (あるいは *whatchamacallit*) などの表現が *placeholder* として用いられるが、日本語では遠称の「あそこ」や「あれ」、韓国語では遠称の *ce-ke* (あの+もの)「あれ」や中称の *ku-ke* (その+もの)「それ」、また、北京語では近称の *zhe-ge* (この+類別詞)「これ」や遠称 *na-ge* (あの+類別詞)「あれ」といった指示詞が用いられる (Hayashi and Yoon 2010: 36–43)。

ベトナム語においても、話し手が特定の単語 (名詞、形容詞、動詞など) をすぐには思い出せない時や、社会的にデリケートなことを第三者に分からないように敢えて遠回しにほのめかす時などに、‘中称’指示詞の修飾形 *áy* が *placeholder* として用いられる。この時、*áy* は単独形のように扱われる。また、*áy* の縮約形 *y* とは置き換えることができない。*Áy* によって置き換えられた語は先行する談話の中に現れておらず、話し手の過去の知識を指し示しているという点でこの用法は記憶指示用法と類似しているが、遠称の *kia* は *placeholder* として用いることはできない。また、*áy* 以外の‘中称’の各形式 *y*, *đáy*, *đó* も用いることができない。以下の (45)(a)(b)(c) はコンサルタントによる作例である。これらの例における *placeholder* の日本語訳には指示詞「あれ」が当てはまる。

(45) (a) 名詞との置き換え

<i>Em</i>		<i>có</i>	<i>mua</i>	{ <i>*này</i> / <i>áy</i>	/ <i>*y</i>	/ <i>*đáy</i>
あなた [弟/妹]		Q	買う	*この	その	*その
/ <i>*đó</i> / <i>*kia</i> }	(= <i>sôcôla</i>)		<i>cho</i>	<i>tôi</i>	<i>không?</i>	
*その	*あの	(=チョコレート)	に	私	Q	
「あれ (=チョコレート) 買ってくれた？」						

(b) 形容詞との置き換え

<i>Bác</i>	<i>áy</i>	{ <i>*này</i> / <i>áy</i>	/ <i>*y</i>	/ <i>*đáy</i>	/ <i>*đó</i>	/ <i>*kia</i> }
伯父	その	*この	その	*その	*その	*あの
(= <i>béo</i>)		<i>nhĩ.</i>				
(=太っている) SFP [同意の要求]						
「彼はあれだ (=太っている) ね。」						

(c) 動詞との置き換え

- A: *Cô* *đang* *làm* *gì* *đấy?*
 あなた [叔母] PROG する 何 SFP [情報共有の志向]
 「何をしていますか?」
- B: *Tôi* *đang* { **này* / *ấy* / **ý* / **đấy* / **đó* / **kia* }
 私 PROG *この その *その *その *その *あの
 (= *rửa*) *bát*.
 洗う 茶碗
 「私は茶碗を**あれ**して (=洗って) います。」

3. 2. 6 人称指示

ベトナム語ではしばしば、*anh*「兄」、*cô*「叔母」、*ông*「祖父」といった親族名称が一人称あるいは二人称代名詞のように扱われる。親族体系の外において誰にどの親族名称を使うかは、性別や年齢、親疎、社会的関係などによって決まる。例えば、恋人や夫婦の場合、互いを *anh*「兄」と *em*「妹」で呼び合う。以下の (46) は恋人同士の会話例である。

(46) 戯曲

- 女: *Nếu* *em* *không* *lấy* *được* *anh* *thì*
 もし 私 [妹] NEG 取る できる あなた [兄] なら
em *chết...*
 私 [妹] 死ぬ
- 男: *Anh* *mà* *không* *lấy* *được* *em*,
 私 [兄] もし NEG 取る できる あなた [妹]
anh *cũng* *chết...*
 私 [兄] も 死ぬ

女:「もし**私**、**あなた**と結婚できなかつたら、**私**死んでしまう…」

男:「もし**僕**が**君**と結婚できなかつたら、**僕**も死んでしまう…」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

次に、三人称について考える。まず、指示対象である人が発話の場にはいないが、先行する談話において言及されている照応用法の場合、“親族名称+‘中称’修飾形 *ấy* あるいは *ý*” が三人称代名詞の役割を果たす。この時、近称や遠称は用いられず、他の‘中称’の形式 *đấy* や *đó* もあまり使用されない。

(47) 戯曲

マイ :	<i>Chông</i>	<i>chị</i>		<i>làm</i>		<i>gì?</i>			
	夫	あなた [姉]		する		何			
トゥーフオン :	<i>Đạ,</i>	<i>anh</i>	{ * <i>này</i>	/ <i>ấy</i>	/ <i>y</i>	/ [?] <i>đấy</i>	/ [?] <i>đó</i>	/ [*] <i>kia</i> }	
	はい	兄	*この	その	その	[?] その	[?] その	*あの	
	<i>làm</i>	<i>bộ đội.</i>							
	する	軍隊							

マイ : 「あなたの夫は何をしていますか？」

トゥーフオン : 「はい、**彼**は軍隊で働いています。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

また、指示対象である人が発話の場におらず、談話の中に先行詞として導入されてもいないが、話し手と聞き手の過去の知識の中にはその対象が存在している場合、つまり記憶指示用法の場合も、親族名称の後に‘中称’修飾形 *ấy, y* が置かれる。(48) において、最初の *anh* は聞き手であるハオのことを指し、続く *anh ấy* 「彼」は発話の場にはいないギエムのことを指している。この時、近称は使えず、‘中称’修飾形の *đấy, đó* もあまり使用されない。一方、遠称の *kia* は、オアインがギエムに対して好ましくない印象を抱いている場合のみ選択される。この場面では、オアインはギエムを擁護しようとしているため、遠称の使用はふさわしくない。対照的に、‘中称’を用いた *anh ấy* は中立的、あるいは丁寧な表現であり、広く使用される。

(48) 戯曲

(ギエムが立ち去った後、オアインはハオに向かって言う。)

オアイン :	<i>Anh</i>		<i>chưa</i>		<i>hiểu</i>	<i>gì</i>		<i>về</i>	
	あなた [兄]		まだ～ない		分かる	何		について	
	<i>anh</i>	{ * <i>này</i>	/ <i>ấy</i>	/ <i>y</i>	/ [?] <i>đấy</i>	/ [?] <i>đó</i>	/ [*] <i>kia</i> }	<i>đâu.</i>	
	兄	*この	その	その	[?] その	[?] その	*あの	全く	
ハオ :	<i>Xin</i>	<i>lỗi...</i>							
	請う	間違い							

オアイン : 「あなたはまだ**あの**人について全然何も分かっていない。」

ハオ : 「すまない…。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

発話の場に指示対象が存在する直示用法において親族名称に後続する指示詞は、話し手と指示対象である人との距離によって使い分けられる。(49) では指示対象であるお爺さんが話し手の近くにいるので、近称が選ばれている。

(49) 戯曲

(話し手の近くにいるお爺さんの顔を覗き込んで指差し、側にいる警官に対して言う。)

お婆さん：

Ông { *này* / **áy* / **y* / **đáy* / **đó* / **kia* }

祖父 この *その *その *その *その *あの

buồn *cuời* *nhĩ,* *đế* *cho*

したくてたまらない 笑う SFP [同意の要求] 強いる させる

người *ta* *suy nghĩ* *trả lời* *mình* *đã.*

人 私たちの 考える 答える 自分 先に

お婆さん：「**この人**可笑しいよね、人に考えさせておいて、自分が先に答える。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

(50) に示すように、指示対象となる人が話し手から離れた場所にいる場合は‘中称’及び遠称の使用が可能となる。その時、(47) の照応用法や (48) の記憶指示用法の場合とは異なり、*áy, y*に加えて *đáy, đó* も用いられる。3.1.1において述べた *áy, y*の指示対象は抽象的で、*đáy, đó*の指示対象は具体的であるというコンサルタントの意識は、照応用法あるいは記憶指示用法において用いられやすいか、それとも直示用法において用いられやすいかという違いを反映していると考えられる。一方、*kia*の使用は、(48)の記憶指示の場合と同様、話し手がその人に対して抱いているネガティブなイメージを際立たせる。先行研究において *kia*は、話し手の指示対象に対する「否定的な感情」(Bui 2014:110)や「疎遠感」(Nguyen 2014: 192)を表すと指摘されているが、そのような好ましくないイメージは人稱を指示する場合に顕著となる。

(50) 作例

(話し手から離れた場所にいる人を見ながら)

Sao *anh* { **này* / **áy* / **y* / **đáy* / **đó* / **kia* } *lại*

なぜ 兄 { *この その その その その あの } また

nhìn *mình* *khó* *chịu* *như* *vậy?*

見る 私 [自分] 難しい 耐える ように そのよう

「なぜあの人はまたあのよう嫌な目で私のことを見るのか。」

近称単独形 *đây* と‘中称’単独形 *đấy* も人称代名詞として用いられることがあり、それぞれ話し手と聞き手のことを表す。この時、遠称は用いられない。Nguyễn (1992: 133, 2002: 139) は以下の例 (51) を挙げている。

(51) 民謡の歌詞

{ * <i>Đây</i> / <i>Đấy</i> / [?] <i>Đó</i> ³¹ / * <i>Kia</i> }	<i>vàng</i> ,	
*こちら そちら [?] そちら *あちら	金	
{ <i>đây</i> / * <i>đấy</i> / * <i>đó</i> / * <i>kia</i> }	<i>cũng</i>	<i>đồng</i> <i>đen</i> .
こちら *そちら *そちら *あちら も	青銅	
{ * <i>Đây</i> / <i>Đấy</i> / [?] <i>Đó</i> / * <i>Kia</i> }	<i>hoa</i>	<i>Thiên lý</i> ,
*こちら そちら [?] そちら *あちら	花	千里
{ <i>đây</i> / * <i>đấy</i> / * <i>đó</i> / * <i>kia</i> }	<i>sen</i>	<i>Tây hồ</i> .
こちら *そちら *そちら *あちら	蓮	西湖

「**あなた**が金ならば、**私**は青銅
あなたが千里香ならば、**私**は西湖の蓮」

Trần (2009: 16–17) によれば、このような用法は、文学作品などにおいて登場人物の社会方言的あるいは地方の文化的特徴を描写するために用いられる。一方、Hagège (1993: 216) は、上記の用法に日本語の例を追加し³²、人称代名詞としての指示詞の機能を以下のように説明している。

[There are] languages which use spatial adverbs with the meaning of personal pronouns: Japanese *kotira* ‘here’ often refers to the speaker, Vietnamese *đây* ‘here’ and *đấy* (or *đó* ‘there’) are used with the meanings ‘I’ and ‘you’ respectively when one wants to avoid the hierarchical or affective connotations linked to the use of personal pronouns.

3. 2. 7 時間指示

指示詞が時間を表す場合は、主に近称の *đây*, *ngày* と遠称 *kia* が使われ、それぞれ発話時から近い時と、発話時から（主に過去³³の方向へ）離れた時を指示する。‘中称’ *ấy*, *đấy*, *đó* も時間を指示できるが、(52) に示すように、照応的な表現に限られる。

³¹ *Đấy* と同様に、*đó* も聞き手のことを指せるが、*đấy* は *đây* と韻を踏むことができるので、民謡の歌詞の例 (51) においては *đó* よりも *đấy* の方が好まれる。

³² Cooke (1968: 24–25) は、Thai における類似例について、“/nī/ a demonstrative form meaning ‘this, this one’, used by certain young women [...] in speaking to male nonintimate equals.”と報告している。

³³ *một ngày kia* (1+日+あの)「(不特定の) ある日」及び次頁で挙げる *ngày kia* 「明後日」は未来の時を表す。

(52) 戯曲

お爺さん：

<i>Đến</i>	<u><i>tuổi</i></u>	<i>nghĩa vụ.</i>	<i>bà</i>	<i>dâng</i>	<i>cả</i>	<i>hai</i>	
来る	歳	(兵役) 義務	祖母	捧げる	とも	2	
<i>đưa</i>		<i>cho</i>	<i>đời.</i>	<i>Hồi</i>	<i>đó,</i>	<i>tôi</i>	<i>đang</i>
CLF [子ども]	ため	世間	頃	その	私	PROG	
<i>ở</i>	<i>B3,</i>	<i>nhận</i>	<i>được</i>	<i>lá</i>		<i>thư</i>	
に	B3	受け取る	できる	CLF [葉]		手紙	
<i>bà</i>	<i>gửi,</i>	<i>thú thật</i>	<i>tôi</i>	<i>không</i>	<i>cầm</i>	<i>nói</i>	<i>nước mắt.</i>
祖母	送る	実は	私	NEG	抑える	できる	涙

お爺さん：「兵役の歳になって、お婆さんは子どもを二人とも世間様に捧げた。

その頃私は B3 (陣営) にいて、お婆さんが送ってくれた手紙を受け取って、実を言うと私は涙を抑えきれなかった。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

ベトナム語には、下の例に示すように、発話時を含む近傍の時を表す *nay* と、発話時に近接する過去を表す *nãy* という 2 つの時間専用指示詞がある (Nguyễn 1996: 241-242, Nguyễn 1997: 133)。

- NP + *nay* 「今～」

<i>ngày</i>	<i>nay</i>	「 ^{こんにち} 今日、現在」	<i>thời</i>	<i>nay</i>	「現代、この頃」
日	今		時代	今	

- NP + *nãy* 「たった今」

<i>lúc</i>	<i>nãy</i>	「さっき」	<i>khi</i>	<i>nãy</i>	「さっき」
時	今しがた		時	今しがた	

専ら発話時に近い時間を表す *nay* と一般的な近称修飾形 *này* は時間表現の中で以下のよう
に使い分けられる。そのうち、*sáng nay* 「今朝」は *sáng hôm nay* 「今日の朝」から *hôm* 「日」
が省略された語であると考えられ、*trưa nay* 「今日の昼」、*tối nay* 「今夜」などについても同
様のことが言える (五味 2015: 662)。

- NP + *nay* 「今～」

<i>hôm nay</i>	「今日」	<i>sáng nay</i>	「今朝」
日 今		朝 今	
<i>trưa nay</i>	「今日の昼」	<i>chiều nay</i>	「今日の午後、夕方」
昼 今		夕方 今	
<i>tối nay</i>	「今夜」	<i>đêm nay</i>	「今日の深夜」
夜 今		深夜 今	
<i>năm nay</i>	「今年」		
年 今			

- NP + *này* 「この～」

<i>tuần này</i>	「今週」	<i>tháng này</i>	「今月」
-----------------	------	------------------	------

遠称の *kia* と声調の異なる *kia* (3.1.3 注 22 参照) は、直示用法においては用いられないが、いくつかの語彙化された時間表現の中では *kia* よりも発話時から遠い時を表す。以下の例は、日にちと年に関する表現を過去から未来へと並べたものである。太字で表した部分が、指示詞を用いた表現である。

- 日にち³⁴

<i>hôm kia</i>	「一昨々日」
日	さらに遠い
<i>hôm kia</i>	「一昨日」
日	あの
<i>hôm qua</i>	「昨日」
日	過ぎる
<i>hôm nay</i>	「今日」
日	今
<i>ngày mai</i>	「明日」
日	明け方
<i>ngày kia</i>	「明後日」
日	あの
<i>ngày kia</i>	「明々後日」
日	さらに遠い

³⁴ 元来 *hôm* は「夕方、夜」を表し、*ngày* は「朝」を意味した。夜と朝の対立が過去と未来の対立へと拡張されたと考えられる (Nguyễn 2002: 127)。なお、*hôm* も *ngày* も、上記の定型表現の中だけでなく、*hôm ấy* (日+その)「その日」や *hai ngày* (2+日)「2日間」のように、「日」という一般的な意味を表す際にも使用される。但し、*ngày 16 tháng 8* (日+16+月+8) のように、日付の場合は *ngày* が選択される。

- 年	<i>năm</i>	<i>kia</i>	「一昨年」			
年		あの				
	<i>năm</i>	<i>ngoái</i>	「昨年」	<i>năm</i>	<i>trước</i>	「昨年」
年		振り返る		年	前	
	<i>năm</i>	<i>nay</i>	「今年」			
年		今				
	<i>sang</i>	<i>năm</i>	「来年」	<i>năm</i>	<i>sau</i>	「来年」
渡る		年		年	後	
	<i>năm</i>	<i>tới</i>	「来年」			
年		至る				
	<i>năm</i>	<i>sau</i>	<i>nữa</i>	「再来年」		
年		後	さらに			
	<i>năm</i>	<i>tới</i>	<i>nữa</i>	「再来年」		
年		至る	さらに			

以下のような、位置を表す前置詞の後に指示詞が置かれる時間表現においても、遠称は過去を、近称は発話時を表している。

<i>trước</i>	<i>kia</i>	「昔」	<i>trước</i>	<i>đây</i>	「以前」
前	あそこ		前	ここ	
<i>gần</i>	<i>đây</i>	「最近」	<i>từ</i>	<i>đây</i>	「これから」
近く	ここ		から	ここ	
<i>sau</i>	<i>đây</i>	「今後」			
後	ここ				

3.3 ベトナム語指示詞のまとめ

以上で述べたベトナム語指示詞の系列と用法の対応は表 11 のように整理できる。直示用法において近称は話し手の周囲を、遠称は近称より広い可視的な範囲を、‘中称’は距離に中立的であり広い範囲において用いられる。この範囲は話し手と指示対象の物理的な距離をそのまま反映しているわけではなく、話し手の主観により伸縮する (§3.2.1)。先行詞を持つ照応用法においては‘中称’が使われ、不特定の対象や連動的解釈を持つ対象も指示できる。近称については言語的テキストとして提示された先行詞を指示する *textual deixis* の用法がある (§3.2.2)。遠称は照応用法では使用できないが、過去の知識を先行詞なしで直接指示する記憶指示用法においては使用可能なことがある。この時、‘中称’も使用できる (§3.2.3)。

また、‘中称’は「どこか」や「誰か」などの曖昧な対象を指示する用法や (§3.2.4)、ある単語が思い出せない時に一時的に代用する表現としての用法も持つ (§3.2.5)。指示詞が親族名称に後置され、三人称を表示する時は、‘中称’の *áy* は中立的な意味を持ち、遠称の *kia* はネガティブな意味を持つ (§3.2.6)。時間を指示する場合、近称は発話時を、遠称は発話時から離れた時間を表し、‘中称’は照応的に時を示す (§3.2.7)。以上のように、直示用法においても非直示用法においても、近称と遠称は確定した指示対象を指すことが多いが、‘中称’は確定していない指示対象も指すことができ、広範囲に使用される。

表 1 1. ベトナム語指示詞の系列と用法

系列／用法	直示用法	非直示用法
近称 <i>đây</i>	話し手の周囲	Textual deixis (前方、後方) 曖昧領域指示 文学作品での一人称 発話時
遠称 <i>kia</i>	直接認識できる範囲	対比 記憶指示 (好ましくないイメージを持つ三人称) 発話時から離れた時間
‘中称’ <i>đây</i>	広範囲	前方・後方照応 (不定の対象、連動的解釈、中立的な三人称、時間) 記憶指示 (中立的な三人称) 曖昧指示 (疑問詞 + <i>đây/đó</i>) placeholder (<i>áy</i> のみ) 文学作品における二人称 (<i>đây, đó</i> のみ)

第4章 ベトナム語指示詞由来の文末詞³⁵

ベトナム語には多くの文末詞があるが、その中には指示詞の単独形や修飾形と同形のものがある。本章では、指示詞と同形の文末詞は、話し手の知識の質や量、及び聞き手の知識との比較に基づいて使い分けられていることを示す。

4.1 ベトナム語文末詞と文法化・複合パターン

ベトナム語の日常会話の中で用いられる文末詞は、Cantonese (Matthews and Yip 1994) と同様、30以上ある。Khmer (Paillard 2015)と同じく、その中には文末詞以外の語彙的・文法的要素と同形で、文法化の過程を経ていると考えられるものがある。この時、形式の縮小は生じていない。また、ベトナム語の文末詞は、Mandarin Chinese (Li and Thompson 1981) や Cantonese (Matthews and Yip 1994) の文末詞と同様に、複合形になることがある（以上の引用文献について、詳しくは2.3参照）。Phan (1985) は下記の1~6のような複合パターンに基づき、ベトナム語の文末詞を (a) 複合形の先頭に位置するもの、(b) 複合形の末尾に位置するもの、(c) 前記(b)の前に位置し、(a)の後に位置するもの、という3つのグループに分類している。以下はPhan (1985) が挙げる文末詞の例の一部に、筆者が基本的意味、及び同形の要素を書き加えたものである。そのうち、指示詞と同形の文末詞を太字で表す。

	文末詞	基本的意味	同形の要素
(a)	áy	共有知識の確認	‘中称’指示詞修飾形
	<i>thé</i> ³⁶	直接経験、疑問	指示副詞「そのような」
	<i>vói</i>	懇願	前置詞「～と一緒に」
(b)	<i>a</i>	丁寧	なし
	<i>nhĩ</i>	同意の要求	なし
	<i>nhé (nhá, nhờ)</i>	同意の期待、軽い命令	なし
	<i>à (ư)</i>	軽い驚き、疑問	なし
	<i>hả (hử, hỡ)</i>	疑問、驚き	なし
	<i>hẳn</i>	確信度の高い推測	なし

³⁵ 本章の議論は、2014年10月18日にUniversity of California, Los Angelesにおいて開催された、The 2nd Conference of American Pragmatics Association において筆者が行った口頭発表“Demonstratives as sentence-final particles in Vietnamese”に基づく。

³⁶ 3.1.1の注13及び3.2.2の注29において言及したように、ベトナム語には‘中称’にのみ、様態を表す指示副詞 *thé*, *vậy* がある。これらの指示副詞の文末詞としての用法については4.2.2の注43及び4.2.4の注48において詳しく述べる。*Thé*, *vậy* には、感動詞としての用法はない。

<i>chắc</i>	推測	副詞「おそらく」
<i>chăng</i>	諾否疑問	なし
<i>nào</i>	申し出、促し	疑問詞「どの」
<i>mà</i>	反駁	逆接の接続詞；関係詞

(c)	<i>đây</i>	直接経験	近称指示詞単独形
	<i>đấy</i>	情報共有の志向	‘中称’指示詞単独形
			・修飾形
	<i>kia</i>	知識差の明示	遠称指示詞単独・修飾形
	<i>chứ</i>	確信	否定詞「～ではなく（…だ）」
	<i>đâu</i>	強い否定	疑問詞「どこ」
	<i>thôi</i>	命令「～するしかない」	副詞「～だけ」
	<i>đi</i>	命令、促し	動詞「行く」
	<i>đã</i>	命令「先に～しなさい」	完了を表すアスペクト辞

複合パターン	例 ³⁷	意味
1. (a)+(b)	<i>áy mà</i>	共有知識の確認＋反駁
	<i>với nhé</i>	懇願＋同意の期待
2. (a)+(c)	<i>áy chứ</i>	共有知識の確認＋確信
	<i>với đã</i>	懇願＋「先に～しなさい」
3. (c)+(b)	<i>chứ mà</i>	確信＋反駁
	<i>đã nhé</i>	「先に～しなさい」＋同意の期待
4. (c)+(c)	<i>đâu chứ</i>	強い否定＋確信
	<i>đã thôi</i>	「先に～しなさい」＋「～するしかない」
5. 語順が不確定なもの	<i>thôi chứ</i>	「～するしかない」＋確信
	<i>chứ thôi</i>	確信＋「～するしかない」
	<i>đã đi</i>	「先に～しなさい」＋促し
	<i>đi đã</i>	促し＋「先に～しなさい」
	<i>thôi chứ ạ</i>	「～するしかない」＋確信＋丁寧
6. (c)+(c)+(b)	<i>đi đấy nhé</i>	促し＋情報共有の志向＋同意の期待

³⁷ コンサルタントによれば、Phan (1985) が挙げる例のうち、4. *đã thôi*、5. *chứ thôi*、*đã đi* の3つの組み合わせは使われないとのことである。

4.2 ベトナム語指示詞と同形の文末詞

Le Giang Ha (2015) は4.1に挙げたようなベトナム語文末詞を、テレビドラマや辞書の例に基づいて、疑問 (*à, ư, chãng*)、否定 (*đâu*)、命令 (*đi*) などの機能によって分類している。指示詞と同形の文末詞は、その分類の一つ、*deictic particles* としてまとめられ、以下のような多様な意味を表すとされている。しかしながら、指示詞との関係性については明示されていない。

近称単独形	<i>đây</i>	reality, immediacy, reluctance (p.56)
‘中称’単独形・修飾形	<i>đây/đó</i>	a reminder to confirm the speaker’s commitment to the proposition’s truth, to emphasize the existence of something, sarcasm (p.59)
‘中称’修飾形	<i>ây/y</i>	exclamative (p.61)
遠称単独形・修飾形	<i>kia/co</i> ³⁸	to strengthen the force of negation, discontent and declarative, obligation (p.55)

一方、Bui Linh Thuy (2014) は、Kamio (1994) による「情報のなわ張り理論」を援用し、ベトナム語の *demonstrative particles* の機能を、以下のように話し手と聞き手の領域に位置付けようと試みている。用いられたデータは小説の台詞部分である。

The speaker’s territory of knowledge

近称単独形	<i>đây</i>	direct experience (p.165)
近称修飾形	<i>này</i>	to concentrate the hearer’s attention to the given situation or to the speaker’s wish (p.165) ³⁹

Either more into the speaker’s, more into the hearer’s or equally close to both sides

‘中称’単独形・修飾形	<i>đây/đó</i>	various emotive attitudinal senses (affirmative, factuality, warning/advice, request/command, soften the tone of questions) (p.176)
-------------	---------------	---

³⁸ Le (2015) が言及しているように、文末詞 *kia* は縮約形の *co* と交換可能である。富田 (1988: 241) も、「*kia* は軽く発音されて *co* に変わることがある。特に女性にこの傾向が強い。」と指摘している。*Co* という形式は、指示詞の単独形としても、修飾形としても用いることはできない。

³⁹ Bui (2014) による *demonstrative particle này* の定義は、本稿における 3.1.3 指示詞複合形の後部要素 *này*、及び、5.2.4 感動詞 *này* が文末に出現した場合に相当する。

遠称単独形・修飾形	<i>kia</i>	contrast (p.176, 180)
さらに遠い	<i>kia</i>	to call the hearer's attention to a situation that both of them are experiencing, but of which the hearer is not yet fully aware (p.181) ⁴⁰
‘中称’修飾形	<i>áy/i</i>	shared knowledge (p.182, 184)

Hancil, Post and Haselow (2015: 5) が指摘するように、文末詞の意味は文脈によって変化するため、その把握は容易ではない (2.3 参照)。以下では、ベトナム語指示詞と同形の文末詞の使い分けと指示詞との関係性を探るために、書かれただけデータではなく自然談話の例も用いて、文末詞を含む発話とその前後の文脈情報を同時に分析する。

4. 2. 1 データ

本章で用いるデータは、ある家族の夕食時の会話を約8時間、録音収集したものである。この会話の録音は2014年8月18, 20, 22, 29日と、9月1, 4, 5日にハノイにおいて行った。表12はその家族の構成員についての背景情報を示している。彼らは全員、ハノイ生まれ、ハノイ育ちのベトナム語母語話者である。この家族に調査を依頼したのは、父・母・娘の3人ともが筆者と顔見知りであり、筆者が録音のため同席していても自然な会話が持続すると判断したことによる。録音を行った7日間のうち9月1日のみ、母方の2人の姪がこの家族の自宅を訪れた。データ中の人名は全て仮名である。頻出した話題は家庭や学校、職場での出来事であった。筆者はベトナム語の母語話者ではないため、その発話は分析対象から除外した。なお、指示詞と同形の文末詞を含む発話を書き起こしたものを巻末に付録として掲載する。

表12. 自然談話データ中の話し手の背景情報

続柄 (略号)	年齢	職業
父 (F)	56	卸売
母 (M)	46	教員
娘 (D)	14	中学生
姪 1 (N1)	20	大学生
姪 2 (N2)	15	高校生

(年齢は調査時点でのものである。)

⁴⁰ Bui (2014) による demonstrative particle *kia* の定義は、本稿における 3.1.3 指示詞複合形の後部要素 *này*、及び、5.2.1 感動詞 *kia* が文末に出現した場合に相当する。

表13は家族の夕食の会話における指示詞と同形の文末詞の話し手別の使用回数を示している。母親の文末詞の使用回数が多いことは、発話数の多さと関連していると思われる。このデータにおいて特徴的なことは、近称の *đây* が出現せず、*này* も2例のみであったことである。4.2.2において後述するように、これらの文末詞は対話ではなく、独り言において用いられる可能性がある。また、‘中称’の *đây, ý* は *đó, ấy* よりも多く使われている。一般的に、*đó* の使用は指示詞の場合と同じく、南部方言の特徴である(3.1.1参照)。会話の中で *đó* が用いられていないのは、話し手が北部方言話者であるからという可能性がある。上記のように、文末詞としての *đó, ấy, kia* については用例数が少ないため、本章では補足的に言及するのみとする。以下では、*đây* と *này* について主に作例を用いて記述した後、*đây, cơ, ý* について自然会話のデータを用いて、より詳細に議論する。最後に、聞き手と文末詞の使用傾向の関係性をみる。

表13. ベトナム語指示詞と同形の文末詞の出現数

文末詞／話し手		母	父	娘	姪1	姪2	計	
近称	単独形	<i>đây</i>	0	0	0	0	0	
	修飾形	<i>này</i>	1	0	1	0	0	2
‘中称’	単独形	<i>đây</i>	40	18	1	0	1	60
		<i>đó</i>	0	0	0	0	0	0
	修飾形	<i>ấy</i>	1	0	1	0	0	2
		<i>ý</i>	24	7	17	0	6	54
遠称 ⁴¹	単独形	<i>kia</i>	2	0	0	0	0	2
	修飾形	<i>cơ</i>	7	4	1	0	0	12
計			75	29	21	0	7	132

4. 2. 2 直接経験に基づく判断を表す *đây*

第3章において述べたように、ベトナム語は3系列の距離(あるいは範囲)によって区分される指示詞を持つ。それらの主な機能は、聞き手の注意を指示対象に向けさせることである。そのうち、近称単独形 *đây* は基本的には話し手に近い空間的位置を指示するが、3.2.7で述べたように、時間的意味を表すために用いられることもある⁴²。ベトナム語には時制を表

⁴¹ 指示詞 *kia* は単独形と修飾形が同形であるため、文末詞 *kia* や *cơ* はどちらの形式に由来するのか、現時点では判然としない。

⁴² 指示詞の *đây* は、現在に近接する時間を表せるが(3.2.7参照)、その場合は、*trước đây* (前+ここ)「以前」や *gần đây* (近い+ここ)「最近」、*sau đây* (後+ここ)「この後」といったように、前置詞に後続する。一方、文末詞の *đây* は先行する前置詞がなくても文末において用いられる。

示する形式がなく、文脈情報がなければ、(53)(a)のように、文の表す事態と発話時との関係は不明である。しかしながら、(多くの場合、*đi*「行く」や*về*「帰る」といった移動動詞の後の)文末において*đây*が使われると、(53)(b)のように、話し手が即座に行動を取ろうとしていることが明らかとなる。この文は「ここに行く」という place deixis に関する意味を表さず、「発話時と行動の開始が近接していて、未実現である」という time deixis に関わる意味を表す。また、(53)(c)のように、発話時への時間的近接性をさらに強調するために、時を表す副詞*bây giờ*「今」を文末詞*đây*の前に挿入することができる。

(53) 作例

- (a) *Tôi đi.*
私 行く
「私は行く／行った。」
- (b) *Tôi đi đây.*
私 行く SFP [ここ]
「もう行くよ。」
- (c) *Tôi đi bây giờ đây.*
私 行く 今 SFP [ここ]
「もう今行くよ。」

Đây は、平叙文だけでなく、疑問文においても用いられる。(54)(a) に示すように、特に差し迫った状況にない場合は、文末に*đây*を用いる必要はない。一方、(54)(b)のように*đây*を用いると、時間的近接性だけでなく、話し手の切迫感や不安感、その疑問に即座に答えがほしいといった感情が表される。

(54) 作例

- (a) (2か月後の夏休みの予定を考えながら)
Tôi nên làm gì?
私 べき する 何
「何をすべきだろう？」
- (b) (恋人に突然別れを切り出された時)
Tôi nên làm gì đây?
私 べき する 何 SFP [ここ]
「一体全体何をすべきだろう？」

(55) は話し手が、ある課題に取り組んでいる場面である。この時、*đây* は、話し手の直接経験や実感に基づく主観的な評価を示している。

- (55) *Bài này khó đây.*
 課題 この 難しい SFP [ここ]
 「この課題は**私の実感として、とても**難しい。」

(Lê Thị Hoài Dương 2002: 60)

Đây は、常に発話時との近接性を表すわけではなく、(56) のように、話し手が発話の場において直接アクセス可能な証拠に基づいて、過去について推測する場合にも用いられる。

- (56) (話し手はある女性の写真を見て、推測する。)
Có này ngày trước xinh lắm đây.
 叔母 この 以前 かわいい とても SFP [ここ]
 「この女性は以前とてもかわいらしかった**ように見える**。」

(Trần 2009: 21)

(53)(b)(c) は聞き手の注意を引くための発話である可能性が高いが、(54)(b), (55), (56) は独り言として使うこともできる。また、(53)(b)(c) はある行動を開始する直前の文脈においてのみ、発せられる。このような特徴により、今回用いた場面転換の少ない対話データには、文末詞 *đây* は出現しなかったと考えられる。

また、三人称を主語とする文において、行動の開始を表すために話し手が *đây* を用いることは基本的にはできない。しかし、話し手がその人に同行している場合であれば、(57) のように、*đây* を用いることができる。なぜならば、話し手はそう述べるに足る証拠を持っていると考えられるためである。

- (57) 作例
 (話し手は彼の通訳として同行している。)
[?]*Anh ấy đi đây.*
 兄 その 行く SFP [ここ]
 「彼は**もう**行きます。」

このように、文末詞 *đây* の用法を記述するためには、時間的近接性による説明だけでは不十分であることが分かる。よって、話し手に近い位置を指差すという指示詞 *đây* の place

deixis に関わる意味は、発話の場における話し手の直接経験⁴³に基づく判断を表す非指示的意味へと拡張されていると言える。近称指示詞が直接経験を表す文末詞として用いられる現象は、2.6.2において見たように、Thai, Ambonese Malay, Malay, Bunaq, Abui などにおいても報告されている。

4. 2. 3 事物を列挙する *này*

指示詞の近称修飾形 *này* は話し手に近い指示対象を指し示すが、文末詞としては事物を列挙する場合に用いられる。(58) の例において、もしリンゴとバナナとマンゴーが発話の場に存在している場合は、それぞれの *này* は特定の指示対象を示していると捉えられる。一方、果物が発話の場にはない場合でも、*này* を用いることができ、その場合はまるで果物が眼前にあるかのように一つずつ数え上げるという機能を持つ。*này* のこの用法は、文末詞として分類できる。

(58) 作例

Tôi thích táo này, chuối này,
私 好きだ りんご SFP [この] バナナ SFP [この]
xoài này.
マンゴー SFP [この]

指示詞としての解釈：「私はこのリンゴと、このバナナと、このマンゴーが好きだ。」

文末詞としての解釈：「私はリンゴと、バナナと、マンゴーが好きだ (列挙)。」

⁴³ ベトナム語の文末詞のうち、*đây* の他に直接経験を表すものとして、様態を表す中称指示副詞と同形の *thế* がある。*thế* が形容詞に後続する時、発話の場において話し手が普通より程度の高い事態を経験したことによる驚きを表す。

(55)' 作例

(話し手はある課題に取り組んでいる。)

Bây này khó thế.
課題 この 難しい SFP [そう]
「この課題は**本当に**難しい**なあ**。」

(56)' (話し手はある女性の写真を見ている。)

Cô này ngày trước xinh thế.
叔母 この 以前 かわいい SFP [そう]
「この女性は以前**本当に**かわいかった**なあ**。」

この時、副詞 *lắm* 「とても」は文末詞 *thế* と共起できない。冗長な表現を避けるためであると考えられる。

一方、注 13 (§3.1.1)、及び注 29 (§3.2.2) において言及した、もう一つの指示副詞 *vậy* は、平叙文において直接経験を表す文末詞としての用法を持たない。疑問文における文末詞 *thế* と *vậy* の用法は 4.2.4 注 48 を参照のこと。

また、(59) のように、名詞句だけでなく節も *này* を用いて列挙されうる。(58) と (59) のどちらにおいても *này* の使用は任意であるが、*này* を付加することによって、それぞれの項目を敢えて個別化して際立たせることができる。情報を数えることのできる個別の実体のように扱っているという点で、この用法は指示詞修飾形の用法に近いと言える。また、3.1.1 で挙げた (23) の “*Này là A, này là B.*” 「これは A で、これは B である。」という構文も事物の列挙を表すことができ、文末詞の用法と関連があると思われる。

(59) 辞書の例

Anh *ấy* *đẹp trai* *này,*
兄 その カッコいい SFP [この]
thông minh *này,* *có* *tiền* *này.*
頭がいい SFP [この] 持つ お金 SFP [この]
「彼はカッコよくて、頭がよくて、お金持ちだ。」

(Nguyễn Như Ý (1999): 1168)

文末詞 *này* が自然談話データ中に出現したのは、2 例のみであった。(60) における娘 (D) の発話では数え始めのブラウニー (*bánh brownie*) には文末詞が付随しているが、2 行目の月餅 (*bánh trung thu*) には文末詞が後続していない。これは 3 行目において、月餅の味の種類の説明を始めたからだと考えられる⁴⁴。なお、本章では、自然談話データ中のそれぞれのエピソードに、エピソード名と行番号を付けて示す。また、例文の末尾に、巻末の付録における頁数とデータ番号を併記する。

(60) 『学園祭の模擬店の商品』

- 1 D: *Có* *bánh* *brownie* *này.*
 ある 菓子 ブラウニー SFP [この]
 「ブラウニーに、」
- 2 D: *Bánh* *trung thu.*
 菓子 中秋
 「月餅。」
- 3 D: *Mấy* *vị* *việc* *y*⁴⁵.
 いくつか 味 SFP [その]
 「いくつか味があるじゃない？」

[付録 p.169–170, 140904_21:37]

⁴⁴ 文末詞 *này* を含む自然談話の例 2 例中のもう 1 つの例においても、話し手 (= 母親) が事柄 (= 筆者の仕事) を 2 つ挙げる際、初めの節 (= 日本語教育) にのみ *này* が用いられていた (付録 p.135–136、データ番号 140828_25:48 参照)。

⁴⁵ ‘中称’ 修飾形 *ấy* の文末詞としての用法について詳しくは、4.2.6 を参照のこと。

4. 2. 4 情報共有を志向する *đáy*

‘中称’の単独形及び修飾形として用いられる指示詞 *đáy* は、距離に拘わらず広い範囲を指示する。一方、文末詞としての *đáy* は話し手が聞き手に新情報を提示する時に使われる。聞き手の位置や知識の状態は、指示詞の使い分けにおいて必ず参照される基準とはならないが、文末詞 *đáy* を用いる時は、常に聞き手の知識の状態が念頭に置かれる。

娘 (D) とその母親 (M) は、(61) において、娘の学校生活について話している。娘の通う学校では、試験の成績によってクラスが決められる。母親は、クラスメートのフォンがクラスを変更させられたことについて娘はまだ知らないと考えているので、新情報を表すために2行目の文末において *đáy* を用いている。3行目の反応から、娘はその情報に興味を示していることが分かる。娘はフォンがその前の週に成績優秀者のクラスに進級したばかりだったのに、すぐにまた成績がよくない方のクラスに戻されたことを知り、5行目において皮肉めかして笑っている。

(61) 『クラス変更』

- 1 M: *Á.*
INTJ
「ああ」
- 2 M: *Em Hương, nó bị chuyển lớp đáy.*
妹 フオン 彼女 PASS 移す クラス SFP [そこ]
「フォンちゃん、彼女は（テストの成績が良くなかったから）クラスを変えられたんだよ⁴⁶。」
- 3 D: *Vào lớp nào?*
入る クラス どの
「どのクラスに？」
- 4 M: *Lớp B.*
クラス B
「B クラス（＝成績がよくない方のクラス）。」
- 5 D: *hahahaha*
[笑い]
「はははは」

[付録 p.135, 140828_21:07]

⁴⁶ 村上雄太郎 (2003) は、文脈との関連付けを明示する日本語の「のだ」とベトナム語の文末詞 *đáy* との関連性を指摘している。

ある日、娘は学校で手を火傷してしまい、保健室で薬を塗ってもらう。(62)に示すように、帰宅後も手を気にする娘を心配した母親は、薬をさらに塗るよう言う。この時、母親は、娘が自宅に火傷の薬があることを知らないと思っているので、1行目において *đáy* を用いている。父親 (F) も、自宅に火傷の薬が何種類かあることを知っているが、文末詞としての使用は任意であるため、*đáy* を用いてはいない。母親は薬を塗るように説得したものの、4行目における娘の返事はその気のないものである。よって、7行目において母親は、再度 *đáy* を用いて畳み掛ける。

(62) 『火傷の薬』

- | | | | | | | | |
|---|----|--------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 1 | M: | <i>Nhà</i> | <i>mình</i> | <i>có</i> | <i>thuốc</i> | <i>bỏng</i> | <i>đáy.</i> |
| | | 家 | 私たち [自分] | 持つ | 薬 | 火傷をする | SFP [そこ] |
| | | 「うちには火傷の薬があるよ。」 | | | | | |
| 2 | M: | <i>Con</i> | | <i>phải</i> | | <i>bôi</i> | |
| | | あなた [子ども] | | しなければならない | | 塗る | |
| 3 | | <i>thêm</i> | <i>nhá.</i> | | | | |
| | | 加える | SFP [促し] | | | | |
| | | 「もっと塗らないといけないからね。」 | | | | | |
| 4 | D: | <i>Con</i> | | <i>bôi</i> | <i>rồi.</i> | | |
| | | 私 [子ども] | | 塗る | もう | | |
| | | 「もう (学校で) 塗った。」 | | | | | |
| 5 | F: | <i>Máy</i> | | <i>loại.</i> | | | |
| | | いくつか | | 種類 | | | |
| | | 「何種類か (ある)。」 | | | | | |
| 6 | M: | <i>Uhm.</i> | | | | | |
| | | INTJ | | | | | |
| | | 「うん。」 | | | | | |
| 7 | M: | <i>Máy</i> | | <i>loại</i> | <i>đáy.</i> | | |
| | | いくつか | | 種類 | SFP [そこ] | | |
| | | 「何種類かあるよ。」 | | | | | |

[付録 p.132, 140825_6:13]

次の例は母親が自宅での夕食中に、職場のネズミにまつわる話を思い出した場面の例である。父親は母親の職場で何が起こったかをまだ知らないなので、母親は3行目において *đáy* を用いてこの話題を共有しようとしている。それを聞いた父親は、4行目において軽く相槌を打ち、話題が共有されたことを確認している。

(63) 『母の職場のネズミ』

- 1 M: *Này*.⁴⁷
INTJ
「ねえ。」
- 2 M: *Hôm nay ở cơ quan em, thằng Khánh*
今日 で 職場 私 [妹] 若い男性 カイン
- 3 *đánh một con chuột chết đấy.*
叩く 1 CLF [生物] ネズミ 死ぬ SFP [そこ]
「今日私の職場でカインくん (=母親の同僚) がネズミを 1 匹叩き殺したのよ。」
- 4 F: *Thế à?*
そのよう SFP [軽い驚き]
「そうなの？」 [付録 p.148, 140904_45:23]

Đáy は疑問文の末尾において、聞き手に対する話し手の関心を表す文末詞として用いられることもある。この家族は普段自宅で一緒に昼食をとっているが、次の木曜日は両親が外出する予定なので、娘は一人で昼食をとらなければならない。(64) の 1 行目の *đáy* は、母親は娘が昼に何を食えばいいかについてまだ見当が付いていないものの、娘の食事に関心を持っていることを示している。一方、4 行目の *đáy* は、娘がまだ知らない新情報を提示している。文末詞 *đáy* を用いた質問に対して、聞き手は現在自分が知り得ている範囲の情報を答えればよい。4.2.2 の (54)(b) における *đáy* と比較すると、*đáy* を用いた質問は切迫感がなく、聞き手にとって答えやすいものであると言える⁴⁸。

⁴⁷ *Này, đáy, đó, ấy* や *kia* といったベトナム語の指示詞は、感動詞としても用いられる。詳しくは第5章を参照。

⁴⁸ (64) のように話し手が質問の答えを全く知らないと考えられる場合だけでなく、話し手が発話の場の状況から質問の答えを予想できるような場合にも *đáy* が用いられることがある。例えば、ベトナムでは、道で偶然知り合いに出会った時、会話の冒頭で “*Đi đâu đáy?*” (行く+どこ+SFP [それ]) 「どこに行くの？」や “*Làm gì đáy?*” (する+何+SFP [それ]) 「何をしているの？」という表現が用いられることがある。この時重要なのは、質問をすることによって得られる新情報ではなく、聞き手に声を掛ける行為自体である。つまり、*đáy* はベトナム語の社交的な挨拶の一部に組み込まれていると言える。3.2.5 (45)(c) も同様の例である。

また、*đáy* に加えて、様態を表す指示副詞に由来する文末詞 *thế, vậy* も、聞き手について尋ねる疑問文の末尾で用いられることがある。先に述べたように、*đáy* を用いた質問は必ずしも聞き手の明確な回答を想定したものではないが、*thế, vậy* を用いて質問する場合は聞き手は知り得ている情報を話し手に対して具体的に回答することが求められる。3.2.1 注 24 において挙げた *vậy* を含む (31) や、注 25 において挙げた *thế* を含む (33) も同様の例である。

作例
Anh làm gì { đáy / thế / vậy} ?
 あなた [兄] する 何 SFP [それ] SFP [そう] SFP [そう]
 「何をしている {の [質問/挨拶] / の [質問] / の [質問] ?}」

なお、(64) の 1 行目の *đáy* も *thế* あるいは *vậy* と交換可能であるが、以上で説明したように、*thế* あるいは

(64) 『一人の昼ごはん』

- 1 M: *Thế trưa thứ năm Bích ăn gì đấy*
 それで 昼 木曜日 ビック 食べる 何 SFP [そこ]
- 2 *nhỏ?*
 SFP [回答の要求]
 「それじゃあ、木曜の昼、ビック (=娘) は何を食べるのかな?」
- 3 D: *Ăn pizza đi.*
 食べる ピザ SFP [促し]
 「ピザを食べよう。」
- 4 M: *Có một mình con đấy.*
 持つ 1 自分 あなた [子ども] SFP [そこ]
 「(私はお父さんと出掛けるから、その日は家に) あなた一人しかいないんだよ。」

[付録 p.132, 140825_45:25]

以上のように、文末詞 *đấy* は話し手が聞き手に対して新情報を提供する時や、聞き手に関して質問をする時など話し手と聞き手の知識量の違いが生じている場合に、その状態を解消することを目的として使用されている。Nguyễn Đình-Hòa (1997: 166) は、文末詞 *đấy* を “personal touch” particle と呼んでいるが、そのような一体感や親密性は、このセクションにおいて示した情報共有の志向から生じると考えられる。例えば、(64) の母親の最初の発話は、1行目の *đấy* を用いなくても文法的だと判断されるが、用いた場合と比べてぞんざいな印象を与える。表 13 における母親の *đấy* の使用数の多さは、母親の知識量が多いことと、その知識を積極的に家族と共有しようとしていることと関連していると思われる。

4. 2. 5 知識差を明示する *kialcơ*

遠称指示詞の *kia* は、話し手から離れた位置にある、直接認識可能な指示対象を指し示す。一方、文末詞の *kia* とその音声的縮約形 *cơ* は、聞き手が抱いている想定を量的・質的に修正するような情報を提示する際に用いられる。この用法は、3.2.1 において述べた、指示詞 *kia* の対比の意味と関連があると思われる。本章の調査データ中において、文末詞としての *kia* は2例しか現れなかったが、縮約形 *cơ* は12例出現した(表 13 参照)。

は *vậy* を用いた方が *đấy* を用いるよりも、話し手が聞き手に対して具体的な回答を求めていることが明らかとなる。

⁴⁹ この家族にとってピザは、家族が集まった時に食べるものである。よって、(64)3行目の発言から、娘は木曜日に自分が置かれる状況について、まだよく把握できていないことが予想される。そのため4行目において母親は、木曜日の昼食は家族が揃わないことを娘に対して告げている。

(65) は文末詞 *cơ* の例である。この場面において、父親と母親は共通の知人夫妻の息子について話している。彼はもうすぐニューヨークに行く予定である。母親は、自分が知り得ている情報、つまり、「友人（息子の母親）が買った航空券の価格は聞き手である父親（自分の夫）が考えているよりもずっと高いこと」を示すために、7行目の文末において *cơ* を使用している。4.2.4 で扱った、情報共有を志向する文末詞 *đáy* は好意的なコノテーションを持つが、それと比較すると *kia* には、聞き手の知識不足を批判するようなニュアンスがある。言い換えるならば、どちらの文末詞も情報を提供する際に用いることができるが、*đáy* は新情報の提示に、*kia* は旧情報の訂正に重きが置かれる。

(65) 『航空券』

- 1 M: *Bố nó đặt.*
父 彼 予約する
「(最初) 父親は (息子のために安い航空券を) 予約した。」
- 2 M: *Mẹ nó thương.*
母 彼 不憫に思う
「母親は (息子のことを) 不憫に思った。」
- 3 M: *Mẹ nó bảo là “Anh mua*
母 彼 言う COMP あなた [兄] 買う
4 *cái loại đắt đắt một tý”.*
CLF [物] 種類 高い 高い ちょっと
「母親は (父親に) 『もうちょっと高い種類の (航空券) を買ってあげて。』
と言った。」
- 5 F: *Uhm.*
INTJ
「うん。」
- 6 M: *Cái kia⁵⁰ đắt lắm.*
CLF [物] あの 高い とても
「(実際、) もう一方の (買い直した方の航空券) はとても高かった。」
- 7 M: *Những hai nghìn mấy cơ.*
多数の 2 千 いくつか SFP [あそこ]
「2千何百 (ドル) もしたんだよ。」
- 8 F: *Uhm.*
INTJ
「うん。」 [付録 p.125, 140828_34:14]

⁵⁰ (65) の例における、*cái kia* (母親が息子のために買ってあげた高い航空券) 中の遠称指示詞修飾形 *kia* は、先に父親が息子のために買った安い航空券との対比の意味を持つ (3.2.1 参照)。

次の例は (65) と類似する例である。ある日、娘のクラスメートである男子学生タインは同級生を殴って中学校を1週間停学になってしまった。娘は5行目において *cơ* を用いることによって、当初タインは退学させられてもおかしくないような状況にあり、母親が考えているよりも事態は相当深刻であったことを伝えようとしている。それを聞いた母親は、「初めから停学程度で済んでいたのだろう」という想定を覆され、8行目においてかなり驚いている。

(66) 『停学』

- 1 D: *Uhm.*
INTJ
「うーん。」
- 2 D: *Thành bị đình chỉ một tuần.*
タイン PASS 停学にする 1 週
「タインが1週間停学になった。」
- 3 M: *Ồi giờ ời.*
INTJ
「まさか。」
- 4 M: *Thế à?*
そのよう SFP [軽い驚き]
「そうなの？」
- 5 D: *Định đuổi học cơ.*
予定である 退学させる SFP [あそこ]
「(最初は) 退学になる予定だったんだよ。」
- 6 D: *Nhưng mà chả biết xin xỏ thế nào*
しかし NEG 知る 嘆願する どのように
- 7 *đình chỉ.*
停学させる
「でもどういう風に頼み込んだら停学になったのか、全然分からない。」
- 8 M: *Chết!*
INTJ
「ええっ！」 [付録 p.129–131, 140904_47:42]

上記の (65) と (66) の例では、聞き手の想定は談話の中ではっきりとは述べられてはいないが、話し手は聞き手の立場に立って考え、聞き手が自らの想定を書き換えるような情報を提示されたら驚くだろうと仮定している。

逆に、*cơ* は聞き手の発言を受けて、考えていたよりも甚だしい事態に対する話し手の驚

きを表すために用いられることもある。(67)において、母親と父親は知人の隣人について話している。父親はその人が広大な土地を所有しており、かなり裕福であることを知りとても驚き、3,4行目において *cơ* を2度使用している。

(67) 『不動産』

- | | | | | | | | | | |
|---|----|--|-------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|
| 1 | M: | <i>Nó</i> | <i>bảo</i> | <i>cái</i> | | <i>ông</i> | <i>ở</i> | <i>gần</i> | <i>nhà</i> |
| | | 彼女 | 言う | CLF [物] | | 祖父 | に | 近い | 家 |
| 2 | | <i>nó</i> | <i>còn</i> | <i>một</i> | <i>trăm</i> | <i>hai</i> | <i>mươi</i> | <i>tỷ</i> . | |
| | | 彼女 | 残る | 1 | 百 | 2 | 十 | 十億 | |
| | | 「彼女は、彼女の家の近所に住んでいるお爺さんは、あと1,200億(ベトナムドン=約6億円)持っていると言っていた。」 | | | | | | | |
| 3 | F: | <i>Kinh</i> | <i>thế</i> | | <i>cơ</i> | | <i>á?</i> | | |
| | | 恐れる | そのよう | | SFP [あそこ] | | SFP [強い驚き] | | |
| | | 「そんなに恐ろしいほど(お金持ち)なの?」 | | | | | | | |
| 4 | F: | <i>Đất</i> | <i>rộng</i> | <i>thế</i> | | <i>cơ</i> | | <i>á?</i> | |
| | | 土地 | 広い | そのよう | | SFP [あそこ] | | SFP [強い驚き] | |
| | | 「そんなに土地が広いの?」 [付録 p.127-129, 140904_18:44] | | | | | | | |

以上のように、遠称単独形及び修飾形と同形の文末詞 *kia* の縮約形である *cơ* は、聞き手が先行する文脈に基づいて抱いている想定を修正するような情報を提示したり、逆に、話し手が自分の想定を書き換えられるような情報を受け取ったりする時に、話し手と聞き手の間にかかなりの知識差があることを示す。また、(68)に示すように、知識の差を表す *kia/cơ* と知識の共有を志向する *đây* は、文末において組み合わせられて複合形になることができる。

(68) 作例

- | | | | | | |
|------------|----------------------------|------------|------------|----------------|--------------|
| <i>Bài</i> | <i>này</i> | <i>khó</i> | <i>kia</i> | (/ <i>cơ</i>) | <i>đây</i> . |
| 課題 | この | 難しい | SFP [あそこ] | | SFP [そこ] |
| | [この課題は(あなたが思っているよりも)難しいよ。] | | | | |

4. 2. 6 共有知識を確認する *áy/y*

‘中称’の修飾形 *áy* とその縮約形 *y* は、直示用法において話し手から遠い指示対象を広範囲に指し示し、照応用法においては前の談話における先行詞を承ける。文末詞としての *áy* と *y* は、主に聞き手に既知の情報を思い出させるために用いられ、指示詞の照応用法と関連があるように思われる。

(69) の例において、娘は次の学園祭で何を作って売ろうかと思案している。父親は2行目において *y* を用いながら、娘に去年寒天を作って売ったことを思い出させ、今年も作るよう説得している。4行目において娘は去年の出来事を思い出し、5行目において父親の提案に同意しかかるが、直後に寒天はもう他のクラスメートが買って用意していたことに思い当たり、6行目においてその提案を却下している。

(69) 『寒天』

- 1 F: *Con tại sao con không...*
あなた [子ども] なぜ あなた [子ども] NEG
「なんで (今回は作らないの) ?」
- 2 F: *Ngày xưa con làm thạch y.*
日 昔 あなた [子ども] 作る 寒天 SFP [その]
「昔 (=去年) 寒天を作ったでしょ⁵¹ ?」
- 3 F: *Làm thạch chuẩn con.*
作る 寒天 標準的 あなた [子ども]
「(学園祭と言えば) 寒天を作るのがスタンダードだよ。」
- 4 D: *À.*
INTJ
「ああ。」
- 5 D: *Đúng rồi...*
正しい もう
「そうだね…。」
- 6 D: *Không.*
いいえ
「いや (だめだ)。」
- 7 D: *Bọn nó mua thạch bút chì rồi.*
一団 彼 買う 寒天 鉛筆 もう
「彼ら (=他のクラスメートたち) が (学園祭で売るために) もう鉛筆型の寒天を買ってしまった (から、私は何か他のものを作らなければいけない)。」 [付録 p.170, 140904_24:17]

結局、娘のクラスは寒天の他にぜんざいを作って学園祭で売ることになった。娘は「冷めたぜんざいは美味しくない」という自分の意見に母親からの同意を求めるため、3行目において *y* を用い、その情報を母親も勿論知っているはずの知識として位置付けている。

⁵¹ (69) から (73) の例文中のベトナム語の文末詞 *y* には、上がり調子で念を押す「でしょ？」や「じゃない？」などの日本語訳が相当するが、ベトナム語の原文は疑問文ではない。

- (70) 『ぜんざい』
- 1 D: *Uhm.*
INTJ
「うん。」
- 2 D: *Kiểu đó ăn thì phải làm*
型 その 食べる たら なければならない 作る
- 3 *nóng ý.*
熱い SFP [その]
「そういうの (=ぜんざい) を食べるなら、熱くしなければいけない
でしょ?」
- 4 M: *Uhm.*
INTJ
「うん。」
- 5 D: *Không là nó nguội...*
NEG たら それ 冷める
「もし (そう) しなかったら、冷めてしまう…。」

[付録 p.169, 140904_21:08]

(71) において、父親はダイニングで夕食の準備をしており、娘に骨付き肉の骨を容れるためのお椀を棚から取ってくるように言い付けている。娘は棚の中にいくつかお椀があることは知っているはずであるものの、どの種類のお椀を取ってくればいいのかよく分からなくなるかもしれないので、父親は娘に正確な知識を同定させるため、お椀の特徴について詳しく述べている。よって、3行目の文末詞 *ý* は「陶器やプラスチックのお椀ではなく、厳密に言えば、鉄のお椀だ」という意味で使われている。

(71) 『鉄のお椀』

- 1 F: *Bích chạy ra lấy một cái bát*
ビック 走る 出る 取る 1 CLF [物] お椀
- 2 *đựng xương.*
容れる 骨
「ビック (=娘の名前)、(台所まで) 走って行って、骨を容れるお椀を
持ってきて。」
- 3 F: *Lấy hẳn cái bát sắt ý.*
取る まさに CLF お椀 鉄 SFP [その]
「(他の物ではなく) 鉄のお椀を取ってきてよ。」

[付録 p.150, 140820_6:27]

母親には、ハノイ市内に在住している2人の姪がいる。姪たちは叔母からお下りの鞆を譲り受けるために、この家庭を訪れた。母親がクローゼットに仕舞ってあった鞆を久しぶりに取り出し、姪1に渡す前に中身を確認しようとした途端、そこから蚊が飛び出してきた。不意を突かれた母親は(72)の2行目において *y* を使うことで、その時の驚きを姪1と分かち合おうとしている。なぜならば、この発話の直前に、母親だけでなくその場にいた姪1も、蚊が他でもなく鞆の内側から出て来た様子を目撃しているはずだからである。

(72) 『蚊』

- 1 M: *Từ trong này chui ra*
 から 中 この 潜り抜ける 出る
- 2 *y*.
 SFP [その]

「(蚊は**まさに**) この (バッグの) 中から、通り抜けて出てきた
でしょ?」

[付録 p.165, 140901_20:16]

(73)では、母親と父親は日本人観光客の間で人気のベトナム土産について話し合っている。母親は米の麺であるフォーについて *y* を用いて一言追加し、特に即席麺が人気であることを強調している。この夫婦には多数の日本人の友人がいるため、話し手である母親が言わんとしていることを、聞き手である父親は理解してくれるはずだと考えていることが、母親による2行目の文末の *y* の使用から読み取れる。この *y* が聞き手を話の流れに引き込み共通の基盤を固めたことによって、3行目において父親から肯定的な応答が引き出されている。

(73) 『ベトナム土産』

- 1 M: *Người Nhật thích ăn phở,*
 人 日本 好きだ 食べる フォー
- 2 *phở ăn liền y.*
 フォー 食べる 即席で SFP [その]
 「日本人はフォー、**正確には**インスタントフォーを食べるのが好き**じゃない?**」
- 3 F: *Ừ.*
 INTJ
 「うん。」

[付録 p.154, 140825_23:50]

(74) では、2人の姪が若い女性の写った写真を覗きこんでいる。姪1 (N1) は写真の中の女性は自分たちが日本語を指導してもらったことのある先生に似ていると考えている。しかしながら、その先生の名前をなかなか思い出せないので、*y* を利用して先生の特徴を詳しく述べ、その先生の名前を知っているはずの姪2 (N2) の知識に働きかけ、最終的には答えを引き出すことに成功している⁵²。

(74) 『日本語の先生の名前』

- 1 N1: *Ơ.*
INTJ
「あ。」
- 2 N1: *Giống cái cô gì y*
似ている CLF [物] 先生 [叔母] 何 SFP [その]
3 *nhỏ?*
SFP [回答の要求]
「似ているの何先生**だった**っけ？」
- 4 N1: *Mày cho xem y.*
あんた させる 見る SFP [その]
「あんたが (前に写真を) 見せてくれた**じゃない?**」
- 5 N2: *Uhm.*
INTJ
「うーん。」
- 6 N2: *Cái cô dạy tiếng Nhật y.*
CLF 先生 [叔母] 教える 語 日本 SFP [その]
「日本語の先生で**さ。**」
- 7 N1: *Của trường Việt Đức y.*
の 学校 ベトナム ドイツ SFP [その]
「ベトナム・ドイツ学校の**さ。**」
- 8 N2: *Á.*
INTJ
「ああ。」
- 9 N2: *Haha.*
[笑い]
「はは。」

⁵² この用法は3.2.5において述べた指示詞 *áy* の placeholder としての用法と、一時的に知識が引き出せなくなっている時に用いられるという点で共通している。しかしながら、placeholder は名詞や形容詞、動詞として文に組み込まれているため省略不可能であるが、文末詞としての *áy/y* は省略しても非文法的とはならないという違いがある。また、縮約形の *y* は placeholder として使えない。

10 N2: *Hông, Hông, Hông.*
 ホン ホン ホン

「ホン、ホン、ホン (=日本語の先生の名前)。」

[付録 p.164-165, 140901_14:39]

以下の3例は、これまで述べてきた例と異なり、聞き手が経験を共有していない場合に用いられる *y* の例である。(75) の例では、母親は父親に向かって、前日の夜に見に行った劇のあらすじについて話しているが、「上司」という単語が思い出せないでいる。父親はその日一緒に見に行かなかったので、母親がどういうことばを思い出そうとしているのかはまだ共有されていないはずである。しかし、たとえ父親にとっては新情報だったとしても、母親は文末詞の *y* を用いて、思い出すという行為に父親を巻き込んでいる。結局母親は4行目において、言いたかった「上司」という単語を思い出す。

(75) 『劇』

1 M: *Cái gì nhớ?*
 CLF 何 SFP [同意の要求]

「なんだっけ？」

2 M: *À.*
 INTJ

「あー。」

3 M: *Nhung cái ông nào mà cứ*
 でも CLF [物] 祖父 どの たら いつでも

4 *làm ... kiểu sếp ý.*
 する 型 上司 SFP [その]

「でも社会的に地位のある人が(あなたも知っているはずの) …上司みたいなもの? になったらいつでも、」

5 M: *Cứ lúc nào mà khó khăn thì*
 いつでも 時 どの REL 困難な たら

6 *không thấy mặt sếp.*
 NEG 見える 顔 上司

「厄介なことになった時はいつでも、(そこに) 上司の姿はない。」

[付録 p.156-158, 140828_17:07]

娘は母親にその日の授業中の様子について話そうとしているが、母親はその内容をまだ知らない。しかしながら、母親の職業は教員であり、また以前学生だった経験も持ち合わせているので、娘は母親が自分の学校生活がどのようなものであるか理解してくれるだろう

という前提で話し始める。(76) の4行目の文末の *y* は共通の基盤作りの標識として機能している。

(76) 『退屈な授業』

- 1 D: *Xong rồi...*
終わる てしまう
「それから…」
- 2 D: *Đáy.*
INTJ
「ほら。」
- 3 D: *Cả lớp ngồi chán quá mẹ à.*
全体 クラス 座る 飽きる とても 母 SFP [丁寧]
「クラス全体がとても退屈そうに座っていました。」
- 4 D: *Toàn nói chuyện ý.*
全て 話す 話 SFP [その]
「みんな話をする **じゃない?**」

[付録 p.158–159, 140828_24:06]

(77) の会話の録音日は、一日中雨が降っていた。6行目の最初の *y* は、その日の朝降った雨と夕立は同じくらい強く降ったこと、また、母親もその日の天候についての知識を共有していることを表している。母親が勤めに出ている間娘は在宅していたので、母親は娘がその日自宅で何をしていたか知らないはずである。しかしながら、13行目と16行目においても、娘は *y* を使い続ける。それは娘が母親は自分の日常生活がどのようなものかよく知っているので、自分の気持ちを理解してくれるだろうと考えていることによる。このように、話し手は文末詞 *y* を使うことによって、あたかも初めから経験を共有しているかのように振る舞って聞き手を話し手のペースに引き込み、聞き手の共感と同意を促すことができる。

(77) 『雨の日』

- 1 M: *Sao cho phép nghỉ?*
なぜ させる 許す 休む
「なんで (今日の午後は学校が) 休みになったの?」
- 2 D: *Cô bảo là cô gọi điện*
先生 [叔母] 言う COMP 先生 [叔母] 呼ぶ 電話

- 3 *cho Thúi.*
 に トゥイー
 「先生は（午後からの授業については、学級委員の）トゥイーに電話する
 って言った。」
- 4 M: *Uhm*
 INTJ
 「うん。」
- 5 D: *Báo là nếu mà chiều nay cứ mưa*
 言う COMP もし たら 午後 この 続いて 雨
- 6 *to như buổi sáng ý.*
 大きい ように CLF [時間帯] 朝 SFP [その]
 「(先生が) 言うには、もし雨がそのまま激しく降り続いたら、**ちょうど**
 今朝のように**ね**。」
- 7 M: *Uhm*
 INTJ
 「うん。」
- 8 D: *Thì là...*
 たら
 「そうしたら、」
- 9 M: *Nghi.*
 休む
 「休み。」
- 10 D: *Nghi.*
 休む
 「休み。」
- 11 M: *Uhm.*
 INTJ
 「うん。」
- 12 D: *Nhung mà lúc mà con nằm*
 しかし 時 REL 私 [子ども] 横たわる
- 13 *ngủ trưa ý.*
 寝る 昼 SFP [その]
 「でも、私が横になって昼寝をしている時に**ね**、」
- 14 M: *Uhm*
 INTJ
 「うん。」

- 15 D: *Là con nghe thấy mưa to là*
 たら 私 [子ども] 聞く 感じる 雨 大きい たら
- 16 *con đang sung sướng trong lòng ý.*
 私 [子ども] PROG 嬉しい 中 心 SFP [その]
 「そうしたら、激しい雨（の音）が聞こえて、心の中では嬉しかったんだよね。」

[付録 p.160-161, 140829_12:39]

以上のように、‘中称’の修飾形 *áy* の縮約形である *ý* は、聞き手に既知の情報を思い起こさせ、話し手はそれに関して詳細な情報を追加する用意があるという合図を送る。また、話し手が聞き手と共有していたはずの情報を一時的に引き出せなくなっている時、その情報を引き出すために聞き手の力を借りたいという合図としても用いられる。さらに、*ý* は聞き手にとって未知である新情報を、あたかも聞き手にとっても共有知識であるかのように仮定した上で提示し、話し手と聞き手の共通の場を作り出す道具としても用いられる。

4. 2. 7 ベトナム語指示詞と同形の文末詞のまとめ

本章では、ベトナム語指示詞と同形の文末詞の用法を、主に自然談話データの例を用いて示した。その結果を表 14 にまとめ、和訳を補記する。ベトナム語の会話の中では、話し手は自分と聞き手のどちらがより関連性のある情報を持っているか、発話の場の状況や直前の発話などの情報に基づいて、常にモニターしている。本章で取り扱った文末詞は、絶え間なく変わりゆく聞き手の知識の状態についての話し手による解釈と予測を反映していると言える。

以下に、各形式の特徴をまとめる。近称単独形と同形の文末詞 *đây* は、平叙文において発話の場における話し手の直接体験に基づく判断を示したり、疑問文において差し迫った問題に対して即座に答えを求める態度を表したりするために用いられる。聞き手の知識の多寡は、*đây* の使用に影響しない。よって、聞き手の知識が考慮されていないことを、表 14 中では、「？」と表記する。

‘中称’単独形 *đây* は話し手が聞き手に対して新情報を提供する場合に用いられる。また、話し手が聞き手についての情報を欠いている場合に、*đây* を用いて質問し、聞き手への関心を示すこともできる。よって、*đây* は話し手と聞き手の間の知識の不均衡を解消し、2人が情報を共有している関係性を志向する文末詞であるとまとめられる。

話し手が聞き手の抱えている想定を修正したい場合は遠称の *kia*、あるいはその縮約形の *co* を文末において用いて、話し手と聞き手の間の知識差を明示する。その時、話し手は聞き手の想定を書き換えるような強力な情報を持っていると考えられるため、表 14 中では、

話し手の情報を「++」、聞き手の想定を「+」で表す。*Kialco* は、話し手が予想を覆すような情報の提示を受けて驚いている時に疑問文の文末において用いられることがある。その時、より強力な情報「++」を持っているのは聞き手であり、平叙文の場合と知識の状態が反転していることが指摘できる。

‘中称’修飾形 *áy* とその縮約形 *y* は、文末詞として、聞き手の共有知識を活性化させたり、聞き手が正確に実体を同定できるように焦点を当てたりする時に用いられる。この時、話し手も聞き手も特定の知識を有していると考えられるので、表14では共に「+」で表す。また、*áy/y* はかつて共有していたはずの情報を、何らかの理由で一時的に思い出せなくなっている時、再び共有化するためにその情報について尋ねる場合にも用いられる。その状態を表14中では「(+)」と表す。加えて、実際は聞き手はまだその情報について知らないのに、あたかも聞き手にとっても既知の事実であるかのように扱い、聞き手を話し手の発話の流れに引き込む用法を「話し手+、聞き手(+)」と表すことにする。よって、指示詞‘中称’修飾形としての *áy, y, đáy, đó* は、3章において示したように、交換可能である場合が多いが、文末詞としての *áy/y* (共有知識の確認) と *đáy/đó* (情報共有の志向) は、どちらも共有知識には関連しているものの、その意味する所は異なる。

ここで再び表14を見ると、近称、遠称、‘中称’の順に、直接体験、知識差の明示、共有志向・共有知識の確認へと、次第に聞き手への配慮が高まっていることが分かる。この時、情報源が明示されているのは近称だけである。よって、これらの文末詞の使用においては、その情報をどうやって入手したのかということより、誰に向かって発信されているのか、つまり、話し手と聞き手の関係性の方が重視されていると言える。

表14. ベトナム語指示詞と同形の文末詞と話し手・聞き手の知識の状態

形式		近称単独形 <i>đây</i>		遠称単独形 ・修飾形 <i>kialco</i>		‘中称’単独形 <i>đáy</i>		‘中称’修飾形 <i>áy/y</i>	
文末詞の意味		直接経験		知識差の明示		情報共有の志向		共有知識の確認	
平叙文	話し手	+	本当に	++	~んだよ!!	+	~んだよ	+	~じゃない?
	聞き手	?	~よ	+		-		+ / (+)	
疑問文	話し手	-	~の??	+	~の!?	-	~の?	+ / (+)	~だった
	聞き手	?		++		+		+	っけ?

- 注：
- +
 -
 - (+)
 - ++
 - ?
- 知識を持っている
知識を欠いている
詳細な情報はまだ共有されていない
ある想定に対する、強力な対案を持っている
考慮されない

それでは、本章で用いたデータ中の家族の関係性は、文末詞の使用傾向にどのように反映されているのであろうか。表 15 に、聞き手による文末詞の使い分けを示す。登場人物中では母親の文末詞の使用数が最も多く、どの聞き手とも積極的にコミュニケーションを取ろうとしており、その意図を文末詞によって明示していることが伺える。Ý と áy の使用から見ると、母親は父親との間に、また、娘は母親との間に共有を確認し、共感を得たい情報が多くあるようである（それぞれ、21 例と 17 例）。一方父親は、共有知識を確認するよりも、đáy を用いて母親に対して情報を共有すべきものとして提供していることが多い（17 例）。よって、これらの文末詞の使用から、この家族の食事の時間には、母親が起点となって、父親や娘との間でやり取りをしているという情報の流れが垣間見える。この結果は筆者の観察とも一致する。

表15. ベトナム語指示詞と同形の文末詞の使い分けと聞き手

話し手	聞き手	<i>co</i>	<i>kia</i>	<i>đáy</i>	<i>y</i>	<i>áy</i>	計
M	F	3	0	11	20	1	35
	D	2	1	18(1)	2	0	23
	N1	1	1	5	2	0	9
	N2	1	0	6	0	0	7
	計	7	2	40	24	1	74

F	M	0	4(2)	17	3	0	24
	D	0	0	1	4	0	5
	N1	0	0	0	0	0	0
	N2	0	0	0	0	0	0
	計	0	4	18	7	0	29

D	F	0	0	0	0	0	0
	M	1	0	1	16	1	19
	N1	0	0	0	1	0	1
	N2	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	1	17	1	20

N1	F	0	0	0	0	0	0
	M	0	0	0	0	0	0
	D	0	0	0	0	0	0
	N2	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

N2	F	0	0	0	0	0	0
	M	0	0	0	2	0	2
	D	0	0	0	0	0	0
	N1	0	0	1	4(1)	0	5
	計	0	0	1	6	0	7

(疑問文中の文末詞の数を括弧内に示す。)

第5章 ベトナム語指示詞由来の感動詞

5. 1 ベトナム語の感動詞の機能・形式と分類

ベトナム語には、他の多くの言語と同様に、それ自体で独立した発話になることができる感動詞がある。一方、文末詞は単独で現れることはできない (2.3 及び 2.4.2 参照)。2.4.1 において言及した Ameka (2006: 744-745) の機能分類に従えば、ベトナム語にも次の3つの感動詞がある。

- **Emotive interjections** are vocal gestures that are indicative of the speaker's mental state.
- **Conative interjections** are those expressions that are directed at an auditor.
- A variety of conventional vocalizations that express a speaker's mental attitude toward the ongoing discourse [...] may be classified as **phatic [interjections]**.

以下はその一例である。Conative interjectionsには、ジェスチャーが付随しやすいようである。

Expressive interjections

驚き	<i>a, à, ô, ô, ơ, chà, ái chà, ái dà, ôi chà, úi chà, ủa</i> <i>chao, chao ôi, chao ơ, ôi chao ôi, ôi chao, ôi dào, dào ôi</i> <i>trời, trời ơi, ôi trời ơi, úi trời ơi, giời ơi, ôi giời ôi, mềng đéc ơi</i>
痛み	<i>á, ái, ôi</i>
不快	<i>eo, eo ôi</i>
失望	<i>chét, chét cha, chét nôi, chét rôi, chét thật, bỏ mẹ, ôi thôi</i>

Conative interjections

<i>suyt</i>	「静かに」
<i>òà</i>	聞き手を驚かす
<i>lêu, lêu lêu</i>	聞き手をからかう
<i>à ơ</i>	子どもを寝かしつける
<i>âu</i>	子どもをあやす
<i>êu êu</i>	犬を呼び寄せる
<i>riết</i>	牛に対して「ほら行け、まっすぐ行け」

Phatic interjections

<i>nào</i>	会話・行動の開始
<i>thôi</i>	会話・行動の終了
<i>ừm, uhm</i>	会話中のためらい

このうち、*ồ, éo, suýt*などは他の語類に分類されない **primary interjections** であり、*trời/giời* 「空、天、神」や *chết* 「死ぬ」、*nào* 「どの」、*thôi* 「止める」などは独立した語彙の意味を持つ **secondary interjections** であると考えられる。また、*ói chao oi* といった複数の要素からなる **complex interjections** や、*chết rồi* (死ぬ+てしまう) 「しまった」という **phrasal interjections** もある (2.4.1 参照)。

Ameka (2006: 743) は感動詞の機能の一つとして、“[to] express a speaker’s current mental state or reaction toward an element in the linguistic or extralinguistic context” を挙げている。第4章の文末詞の分析には、夕食時の談話データを用いた。しかし、このデータは話し手によるその日起こった出来事の報告が大半であり (4.2.1参照)、発話の場の変化に乏しく、それに対する反応を表すような感動詞はあまり出現しなかった。よって、以下では戯曲の例や作例を用いて、指示詞と同形の感動詞について記述する。

5. 2 ベトナム語指示詞と同形の感動詞

このセクションでは、ベトナム語指示詞と同形の感動詞 *kia, đâý, áy, này, đâý/đó* について考察する。遠称単独形・修飾形の *kia* は、感動詞としての用法を持たない。

先行研究として、小説のデータを用いた Bui (2014) が挙げられる。Bui (2014) は、本稿 5.1 において再確認した感動詞の3分類に、2.4.1 において言及した **cognitive interjections** (‘I think something’, ‘I know something’) を加えて、ベトナム語の **demonstrative interjections** を以下のように整理している。

- Conative interjections

đây ‘I want you to calm down’ (p.190–192)

này (nè⁵³) ‘I want your attention’ (p.192–194)

áy ‘I want to dissuade you from doing something’ (p.198–200)

- Phatic interjections

đây: hedging expression ‘you see’, to maintain the hearer’s attention (p.194–197)

- Cognitive interjections

đây: ‘I now remember’ (p.197–198)

- Expressive interjections

kia ‘I am surprised!’/‘I am shocked!’ (p.197–198)

以下の説明は、Bui (2014) の **expressive interjections** と **conative interjections** の分類と概ね一致するが、**phatic interjections** の分類に修正を加える。

⁵³ *Nè* は *này* の自由変異 (方言) 形である。3.1.1 注 12 を参照のこと。

5. 2. 1 状況変化に対する驚きを表す *kia!*

遠称単独形及び修飾形の *kia* とは声調が異なる *kia* という形式は、指示詞の複合形 *kia kia* 「(他ではなく) あれ」の後部要素として用いられるだけでなく (§3.1.3)、*hôm kia* 「一昨々日」や *ngày kia* 「明々後日」など発話時から離れた時間を表す表現において使用される (§3.2.7)。*Kia* は単独形としても修飾形としても *place deixis* においては使われないため、基本的な指示詞には含まれない。感動詞としての *kia* は、話し手が気付いたばかりの発話の場における変化に対する驚きを表す⁵⁴。この時 *kia* は、話し手と状況変化が発生した場所との距離が遠いことを表さず、遠近に拘わらず用いられる。例えば、(78) において、感動詞 *kia* は近称指示詞 *đây* と共起している。

(78) 作例

<i>Kia,</i>	<i>xuân</i>	<i>đã</i>	<i>đến</i>	<u><i>đây</i></u>	<i>rồi.</i>
INTJ [さらに遠い]	春	既に	来る	ここ	もう

「あっ、春がもうここまで来ている。」

Kia は文頭だけでなく、(78)'のように、文末に出現することもある。文頭の *kia* は話し手の驚きを強調するが、文末の *kia* は単に話し手の驚きを表すだけでなく、話し手が気付いた発話の場の変化を聞き手に知らせているという意味合いが出る。しかしながら、その出現位置によって話し手の驚きを表すという基本的な意味は変化しないため、ここでは文末の *kia* を文末詞としては分析しない。なお、(78)'の場合は、文末と文頭に共起することも可能である。

(78)'	(<i>Kia,</i>)	<i>xuân</i>	<i>đã</i>	<i>đến</i>	<u><i>đây</i></u>	<i>rồi</i>
	INTJ [さらに遠い]	春	既に	来る	ここ	もう

kia.

INTJ [さらに遠い]

「(あっ、) 春がもうここまで来ている、ほら。」

(79) では、驚きを表す感動詞 σ の後に *kia* が置かれ、まだ帰ってこないだろうと思っていた娘オアインの登場に対する母親の驚きを表している。この時、 σ や *kia* のみを用いることも可能である。この *kia* もオアインが母親から離れた所にいることを示しているわけではない。

⁵⁴ ベトナム語の *kia* だけでなく、2.6.3 において述べた日本語の遠称「あれ」や韓国語の遠称 *celen* 「あんな；あら、まあ」など、驚きを表す感動詞の一部が非近称指示詞と関連することは興味深い。

(79) 戯曲

オアイン：(バイクで実家に帰省する。)

Mẹ!

母

「お母さん！」

オアインの母：

{ <i>Ơ</i>	<i>kìa</i>	/ <i>Ơ</i>	/ <i>Kìa</i> }
INTJ [驚き]	INTJ [さらに遠い]	INTJ [驚き]	INTJ [さらに遠い]
<i>mày đi</i>	<i>đường nào</i>	<i>tôi đây?</i>	
お前 行く	道 どの	着く	ここ

「あらまあ、お前、どの道を通ってここまで(帰って)来たの？」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

以下の2例では、*kìa*を用いることによって、聞き手の意外な発言に対する話し手の驚きと非難が表現されている。(79)(80)(81)は、話し手が聞き手に発話の場の変化を知らせていると言うよりも、話し手が直前の聞き手の発言について強く驚いているという場面であるため、*kìa*は文末においては用いられない。

(80) 戯曲

夫：*Minh không tin tôi ư?*
お前 NEG 信じる 私 SFP [疑問]

「お前、私を信じないのか？」

妻：*Kìa! Sao mình lại nói thế.*
INTJ [さらに遠い] なぜ あなた また 言う そのような

「まあ！なんでまたそんなこと言うの？」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

(81) 戯曲

息子：*Không... không phải... Mẹ tôi khác kia!*
NEG NEG 正しい 母 私 違う SFP [知識差の明示]

「いや…、違う…、私の母は別の人だ！」

女性： *Ơ* *kìa!* *Chính* *mẹ* *là*
 INTJ [驚き] INTJ [さらに遠い] まさに 私 [母] COP
người *đẻ* *ra* *con* *đây!*
 人 産む 出す あなた [子ども] SFP [直接経験]
 「あらまあ (なんてこと) !この私があなただのよ！」
 [Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

5. 2. 2 話し手の状況に注意を向けさせ、聞き手の行動を制止する *đây!*

近称単独形の *đây* は、指示詞として話し手に近い範囲を表わし (§3.3)、文末詞として話し手の直接経験に基づく判断を表す (§4.2.2)。Bui (2014: 191) は、赤ん坊が泣いている時、母親がその子をあやすために、2回以上 *đây* を反復⁵⁵して使うことがあると指摘している。(82)の初めの2つの *đây* は感動詞、最後の *đây* は出現を表す述語としての指示詞であると分析できる (3.1.2 参照)。

(82) *Đây,* *đây,* *mẹ* *đây.*
 INTJ [ここ] INTJ [ここ] 母 ここ
 「ほら、ほら、お母さんはここだよ。」

(83) において、聞き手は話し手の家の呼び鈴を鳴らしている。話し手はそれをやめさせようとして、*đây* を3回繰り返して以下のように言う。

(83) 小説

(話し手が玄関に出て叫ぶ。)

Đây *đây* *đây!!* *Đừng* *bấm* *nữa!!*
 INTJ [ここ] INTJ [ここ] INTJ [ここ] PROH 押す さらに
 「こらこらこら!!もう (呼び鈴のボタンを) 押さないで!!」

[My_love_is_blue 2014]

(84) は、ミンがかねがねある女性と知り合いになりたいと思っていた所、友人チャンがふいにその人の SNS 上のハンドルネームを思い出すという場面である。なぜもっと早く教えてくれなかったのかと怒り出すミンを、チャンは *đây* を2度繰り返すことによって制止し、それより早く SNS にサインインして、その女性のアカウンドを探そうと提案する。

⁵⁵ 本章で扱っている感動詞 *kìa, đây, ấy, này, đấy, đó* は、いずれも反復して使用することができる。その際、基本的な意味は変化しない。

(84) ブログ

- チャン： *A tao nhớ ra rồi!*
 INTJ 俺 思い出す もう
Tao có nick nó!!!
 俺 持っている ニックネーム 彼女
 「あ、思い出した!!!俺、彼女のハンドルネーム知ってるよ!!!」
- ミン： *Giờ ơi, sao mà không báo tao sớm?*
 INTJ なぜ お前 NEG 言う 俺 早く
 「おいおい、なんで早く言わなかったんだ？」
- チャン： *Quên bém mắt, đây đây,*
 忘れる すっかり 失う INTJ [ここ] INTJ
chờ tao sign in đã...
 待つ 俺 サインイン SFP [先に]
 「すっかり忘れてた、**ほらほら**、先にサインインするから待って…。」

[Nguyễn Hiền 2013]

以上の (82) から (84) の例において、話し手は *đây* を用いて聞き手の注意を話し手の現況に向けさせ、その現状と照らし合わせることによって、聞き手が現在行っている行動を止めるように言っている。

(82)' お母さんがそばにるので、赤ちゃんに泣き止んでほしい。

(83)' 話し手が玄関まで出てきたので、それ以上呼び鈴を押さないでほしい。

(84)' 話し手が彼女のアカウントを探すから、もう怒らないでほしい。

この時、*đây* は話し手の願望を聞き手に伝えているという点では Ameka (2006) の言う *conative interjections* として捉えられるが、聞き手の注意を話し手の現況に向けさせているという意味では、指示詞の用法と重なる部分がある。よって、これはその中間的な用法であると言えるだろう。(82) において、文末の *đây* は位置を表す指示詞として分析できることもそれを裏付けている。なお、文頭で *đây* を反復することには、(82)'' 話し手が赤ん坊のそばに駆け寄ったり、(83)'' 玄関まで出て行ったり、(84)'' SNS のアカウントにサインインしたりするなどの、話し手の意図する行動を達成するまでの時間を稼ぐ効果があると考えられる。

5. 2. 3 共通の規範と照らし合わせ、聞き手の行動・発言を制止する *áy!*

‘中称’修飾形の *áy* は指示詞として話し手から遠い範囲を指示したり (§3.3)、文末詞として聞き手に共有知識を思い出させたりするために使われる (§4.2.6)。一方、感動詞としての *áy* は、聞き手が何か行動を起こそうとしている時に、それを制止するために用いられる。この時、*áy* は高く短く発音され、女性的なイメージを喚起する。(85) と (86) の話し手も女性である。また、感動詞としての *áy* は縮約形 *y* と交換できない。5.2.2 で見た *dây* と比較すると、*áy* は聞き手の注意を話し手の状態には向けさせず、むしろ話し手の意見をあたかも互いの共通認識や行動規範であるかのように提示する。(85) では、客であるギエム(男性)がわざわざ靴を脱いで家に入ろうとするのを見たオアインの母が驚き、*áy* を用いてギエムに靴を脱ぐのをやめるよう言っている。この時、特別な客は家に土足で上がっても構わないという共通の認識が想定される。

(85) 戯曲

オアインの母：

(家に入る前に、靴を脱ごうとしているギエムに対して)

<i>Áy,</i>	<i>cứ</i>	<i>đi</i>	<i>cả</i>	<i>giày</i>	<i>vào,</i>	
INTJ	そのまま	行く	全部	靴	入る	
<i>rồi</i>	<i>bác</i>	<i>lại</i>	<i>lau</i>	<i>lo</i>	<i>gi.</i>	
それから	私 [伯母]	また	拭く	心配する	何	

「ちょっとちょっと、靴のまま入って。あとで私がまた(床を)拭くから、気兼ねすることはないのに。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

(86) において、マイ(女性)はトゥエット(女性)と電話している。マイは今すぐ出掛けようとするトゥエットに、*áy* を用いて、焦らずにもう少し自分の話を聞くよう諭す。

(86) 戯曲

マイ：	<i>Aló!</i>	(中略)	<i>Tuyết</i>	<i>đấy</i>	<i>hà?</i>	<i>Chuẩn bị</i>
	もしもし		トゥエット	そこ	SFP [疑問]	準備
	<i>xong</i>	<i>chưa?</i>	<i>Sẵn sàng</i>	<i>rồi</i>	<i>chứ?</i>	<i>Tốt.</i>
	終わる	まだ	準備万端	もう	SFP [確信]	よい
	<i>Hôm nay không</i>	<i>có</i>	<i>khách...</i>	<i>Áy,</i>	<i>đừng</i>	<i>vội.</i>
	今日	NEG	いる	客	INTJ [その]	PROH 急ぐ

<i>Khách</i>	<i>không</i>	<i>tới,</i>	<i>các</i>	<i>cậu</i>	<i>giúp</i>	<i>mình</i>
客	NEG	来る	PL	あなた [叔父]	助ける	私 [自分]
<i>một</i>	<i>tay...</i>					
1	手					

「もしもし？そこにいるのはトゥエット？準備は終わった？もう準備万端でしょ？上出来。今日は客がいない…。**ちょっと**、焦らないで。客が来ないから、あなたたち、私のために一つ手を貸してほしいの…。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

なお、感動詞 *áy* は文末においては用いられない。*áy* が文末において用いられた場合、(85)' のように、共有知識を確認する文末詞として捉えられる。この時、聞き手を制止する意味は持たない。またその場合、文末の *áy* は縮約形の *y* と交換可能である。一方、文頭の *áy* は *y* と交換不可能である。なお、*áy* あるいは *y* が文末に位置する (86)' は非文となる。

(85)' *Cứ đi cá giày vào {áy}*
 そのまま 行く 全部 靴 入る SFP [共有知識の確認]
/y }.
 SFP [共有知識の確認]

「(みんな) 靴のまま入っている **じゃない**? (だから、靴のまま入ってもいいよ。)」

(86)' **Đừng vội {áy}* */y* }.
 PROH 急ぐ SFP [共有知識の確認] SFP [共有知識の確認]

「*焦らないで **じゃない**?」

また、*áy* は聞き手による質問に対してこれから長く説明するつもりがある時に、話し手はその説明を始める前に使う談話標識としての用法も持つ。これも、話し手が話している間、聞き手が話し始めることを制止していると捉えられる。この用法は、(87) のオアインの母や (88) のランアインの夫のような、年配の人によく用いられる。またこの時 *áy* は、低く長く発音される。(87) において、オアインの母はギエムの質問に対して同意も反対しないまま、出し抜けに自分の置かれている状況についての説明を始めている。その前に発せられている *áy* は、オアインの母がこれから長めのターンを取ることを予告している。よって、この標識の存在により、オアインの母は聞き手であるギエムに、自分の置かれている状況の説明をよく聞いて、その話に共感してほしいと考えていることが分かる。

(87) 戯曲

ギエム : Sao *bác* *không* *dọn* *đến* *nhà*
 なぜ あなた [伯母] NEG 引っ越す 来る 家
anh *chị* ở *cho* *vui.*
 兄 姉 に住む ため 楽しい
 「なぜ気晴らしに (娘) 夫婦の住む家に引っ越さないんですか？」

オアインの母 :

Áy, *chúng* *nó* *cũng* *đỡ* *ngon* *đỡ*
 INTJ [その] たち 彼 も あやす 美味しい あやす
ngọt *tôi* *suốt* *đấy.* *Nhưng mà*
 甘い 私 ずっと SFP [情報共有の志向] しかし
dại *gì.* *Tôi* *hưu,* *tôi* *có* *tiêu chuẩn,*
 愚か 何 私 退職する 私 持っている 年金
việc *gì* *phải* *bám* *vào* *ai,*
 こと 何 しなければならない くつつく に 誰
sống *mà* *phải* *lụy* *dù*
 生きる でも しなければならない 頼る だとしても
là *con* *cháu* *cũng* *nhục* *lắm,* *cậu* *ạ.*
 COP 子ども 孫 も 不名誉 とても あなた [叔父] SFP [丁寧]

「あのねえ、彼らもずっと美味しいものや甘いもので私をあやそうとする (=私に耳触りのいいことばかり言って同居を説得しようとする) のよ。でも (娘夫婦と同居するなんて) どれほど愚かなことか。私は退職して、年金をもらっているのに、(そんなことをしたら) 何をするにも誰かにくつついて、下の世代の出来がかなり悪かろうが生きるために頼らなければいけないんですよ。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

(88) も (87) と同様の例である。ランアインの夫はトゥーフオン (女性) の質問に答えるためというよりもむしろ、自分の言いたいことを長く話すために、文頭において *áy* を用いている。

(88) 戯曲

(ランアインはかなり年上の夫と結婚している。ランアインの同世代の友人であるトゥーフオンはランアインの夫に家に招き入れられ、椅子に座るよう勧められる。)

トゥーフオン：

Đạ, Lan Anh không có nhà, há
 はい ランアイン NEG ある 家 SFP [疑問]
bác?
 あなた [伯父]
 「はい、ランアインは家にいないんですか？おじさん。」

ランアインの夫：

Áy, nhà tôi vừa chạy đi mua
 SFP [その] 家内 私 ばかり 走る 行く 買う
vài thứ đồ nhấm nháp, chả là
 2,3 の 種類 物 味わう (=つまみ) なぜならば COP
tối nay vợ chồng tôi đi xem cái lương
 夜 この 妻 夫 私 行く 見る 歌謡劇
Nam kỳ, cái tích - Lã bố hí Diêu thuyền,
 南部 CLF [物] 話 呂布 戯 貂蟬
vui đáo để. Chắc cô cũng đi xem.
 楽しい 極端な おそらく あなた [叔母] も 行く 見る

「あのねえ、うちの家内はつまみをいくつか買いに行ったばかりだ。どうしてかって、今夜私たち夫婦は（ベトナム）南部の劇を見に行くから。『呂布と貂蟬』の話、とても面白いよ。多分あなたも見に行くんでしょ（だから、うちに来たんでしょ）。」
 [Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

陆镜光 (2005: 91-92) によれば、中国語のいくつかの方言の中に見られる指示機能を持つ感動詞 (2.6.3 参照) は、まもなく現れる発話が、比較的長い (一文以上の) 比較的整った発話 (一般に冒頭—中間—末尾のような構造をとる) であること前もって示す (预示即将出现的话语・将会是一段较长(超过一句)和较完整的话(一般有“开头——中间——结束”这样的结构)) ために用いられることがある。また、英語の *okay* も同様の目的 (“to adumbrate that the speaker will take an extended turn, during which the interlocutor will orient to a long speech and therefore maintain a long period of listenership”) で使用されることがある (O’Neal 2013: 117-118)。ベトナム語の *áy* もこれらの標識と類似した機能を持つと言える。

5. 2. 4 直後の話し手の発話に注意を向けさせる *này!*

近称修飾形 *này* は、指示詞としては聞き手に近い対象を指し示し (§3.3)、文末詞としては事物の列挙に用いられる (§4.2.3)。一方、感動詞としての *này* は、これから話し手が述べる新情報に聞き手の注意を向けさせるために用いられる。(89) から (91) のいずれの例においても、話し手は感動詞 *này* を用いて話し手の近くにいる聞き手に呼びかけており、*này* の持つ「近」の性質は保持されていると考えられる。また、3.2.2 において示したように、指示詞の近称は後方照応も可能であり、この点においても感動詞の用法と関連があると思われる。以下の (89) で、老人は妻を探して叫びながら歩いているが、なかなか見つからない。そこで、老人は *này chị ơi*⁵⁶ という表現を用いて偶然通りかかったマイを呼び留め、質問する。

(89) 戯曲

(妻を探して、歩きながら叫んでいる。)

老人: *Minh ơi! Minh!*

お前 INTJ お前

「お前—！お前—！」

(マイ (女性) が通りかかる。)

老人: *Này chị ơi, chị có biết*

INTJ [この] あなた [姉] INTJ あなた Q 知っている

nhà tôi ở đâu không?

家内 私 にいる どこ Q

「ねえお姉さん、私の家内がどこにいるか知ませんか？」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

また、*này* は、会話の冒頭部だけでなく、会話の途中においても用いられる。(90) はオアインの母が、娘の友人であるギエムに、娘がオアインが帰宅するまで夕食を食べて待っているよう説得している場面である。オアインの母が *này* を使用していることから、その直後に述べられる今夕食をとるべき理由 (=娘が帰ってくるまで引き留める口実) を、ギエムに

⁵⁶ *Ơi* は *này* と同じく、人に呼びかける時に用いられる感動詞である。*Ơi* は呼びかけられた側が応答するときにも使うことができるが、*này* は応答表現としては使えない。(89) においては、*này chị ơi* の他にも *chị ơi* ということもできる。*Ơi chị ơi* という表現は、呼び止めるというよりも、助けを求めている時に使う。その他、*này chị* や単独の *này* も用いられるが、これらは見知らぬ人を呼び止めるためには不躰な表現となる。さらに、*chị này* あるいは *này chị này* は親しい間柄において、話題を転換する際に用いられる。よって、見知らぬ二人の会話の冒頭である (89) の場合には使用できない。なお、**chị ơi này* と言うことはできない。

注意して聞いてもらいたいと考えていることが分かる。なお、ベトナム文化において、自宅で客に食事を振る舞うことは最大の歓待であり、客がそれを無下に断わることは礼儀にかなっていないと考えられる。

(90) 戯曲

(オアインの母は、娘オアインの帰りを待つ間、ギエムに夕食を食べよう勧める。)

ギエム：

*Áy*⁵⁷ *bác,* *cháu* *vừa* *ăn* *xong.*
 INTJ [制止] あなた [伯母] 私 [甥] ばかり 食べる 終わる
 「いやいやおばさん、私は (もう他で) 食べてきたばかりです。(だから、そろそろお暇します。)」

オアインの母：

<i>Cháu</i>	<i>sắp</i>	<i>đi</i>	<i>tây,</i>	<i>khinh</i>	<i>mẹ</i>		
あなた [甥]	もうすぐ	行く	ヨーロッパ	軽視する	母		
<i>con</i>	<i>bác</i>	<i>sao?</i>	<i>Này,</i>	<i>sang</i>	<i>bên</i>		
子ども	私 [伯母]	SFP [疑問]	INTJ [この]	渡る	側		
<i>ấy</i>	<i>muốn</i>	<i>ăn</i>	<i>những</i>	<i>thứ</i>	<i>này</i>	<i>cũng</i>	<i>không</i>
その	ほしい	食べる	PL	種類	この	も	NEG
<i>có</i>	<i>đâu.</i>	<i>Cứ</i>	<i>ngồi</i>	<i>đấy.</i>			
ある	SFP [強い否定]	そのまま	座る	そこ			

「あなたはもうすぐヨーロッパへ行ってしまうのに、私たち親子のことを軽視するの (=次にいつ会えるかわからないのに、娘に会っていかないの) ? **ねえ** (聞いて)、あちらへ行ったらこういう物 (=ベトナム料理) が食べたくなくても、全然 (食べられ) ないわよ。そこに座りなさい。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

また、(91) は、オアインの母がギエムから手土産を受け取る場面である。ベトナムには、日本と同様に、誰かの家を訪ねる時に手土産を持参する習慣がある。オアインの母は「贈り物をもらったから態度を変えたのではない」ということをギエムに理解してほしいため、そう述べる前に *này* を用いている。ベトナム人にとって本心を吐露することは一般的には恥ずかしいことと考えられるが、「大事なことなので敢えて言いたい」というオアインの母の思いが *này* の使用から読み取れる。

⁵⁷ 制止を表す感動詞 *áy* については、5.2.3 を参照のこと。

(91) 戯曲

オアインの母：

<i>Của</i>	<i>ai</i>	<i>chứ</i>	<i>của</i>	<i>cậu</i>	<i>tôi</i>	<i>nhận.</i>	
から	誰	他にない	から	あなた [叔父]	私	受け取る	
<i>Cảm</i>	<i>ơn.</i>	<i>Này,</i>	<i>không</i>	<i>phải</i>	<i>cậu</i>	<i>cho</i>	<i>quà</i>
感じる	恩	INTJ [この]	NEG	正しい	あなた	与える	贈り物
<i>mà</i>	<i>tôi</i>	<i>nịnh</i>	<i>đâu</i>		<i>nhé,</i>		
たら	私	おもねる	SFP [強い否定]		SFP [同意の期待]		
<i>tôi</i>	<i>là</i>	<i>tôi</i>	<i>quý</i>	<i>cậu</i>	<i>lắm</i>		
私	COP	私	大事に思う	あなた	とても		
<i>đáy.</i>							
SFP [情報共有の志向]							

「あなたから受け取らなかったら、他の誰から受け取りましょうか (=あなたからの手土産だから受け取ったんですよ)。ありがとう。ねえ (よく聞いて)、あなたが贈り物をくれたから、あなたにへつらっているわけでは全くないからね、私はあなたのことをとても大事に思っているのよ。」

以上の (89)(90)(91) における *này* は、文頭のみでしか使用できない。

5. 2. 5 話し手の先行する発言の正当性を確認する *đáy/đó!*

‘中称’単独形及び修飾形の *đáy/đó* は、指示詞として話し手から遠い範囲を指し示し (§3.3)、また、情報共有を志向する文末詞として (§4.2.4)、話し手が聞き手に対して新情報を提供したり、聞き手から新情報を引き出したりする時に用いられる。一方、感動詞としての *đáy/đó* は、話し手の以前の発言や忠告を聞き手に思い出させ、発話の場の現在の状況と照らし合わせてその想定が正しかったことを確認し、その想定にそぐわない過去における聞き手の好ましくない行動や態度を非難するために用いられる。これは田窪・金水 (1997) による感動詞の分類に当てはめるならば、日本語の「ほら」「そら」「それ」のような、すでに登録済みの情報を聞き手に「気付かせ」たり「思い出させ」たりする機能を持つ指示詞だと言えるだろう (2.4.1 参照)。 *Đáy/đó* の例として、1.1 で挙げた例を (1)'として再掲する。(1)'(92)(93) の例では、文頭において *đáy/đó* どちらも使うことができる。(1)'におけるの文末の *đáy/đó* は、聞き手の注意を先行する談話に向ける機能はなく、また、批判的な意味も持たない。一方、照応用法における指示詞 *đáy/đó* は聞き手の注意を先行する談話に向けることができるが、批判的な意味は持たない。よって、(1) において共起する3つの *đáy/đó* は、前から順に感動

詞、指示詞、文末詞⁵⁸として区別できる。

(1) 作例

{ *Đáy* / *Đó* }! { *Đáy* / *Đó* } là sự thật
 INTJ [そちら] INTJ [そちら] それ それ COP 事実
 { *đáy* / *đó* }.
 SFP [情報共有の志向] SFP [情報共有の志向]
 「ほら (見たことか) ! それは事実だよ!」

[解釈：話し手は以前聞き手に対して「それは事実である」と言ったが、その時聞き手は信じなかった。そして今「それは事実である」ことが明らかとなった。そこで、話し手は *đáy* を用いて聞き手の意識を前の文脈に向け、話し手の意見を受け入れなかった聞き手の態度を批判している。]

(92) 辞書の例

{ *Đáy* / *Đó* }, *tôi* *đã* *nói* *trước* *mà*
 INTJ [そちら] INTJ [そちら] 私 既に 言う 前 しかし
không *nghe*; *cẩn thận* *không* *thì* *vỡ* *đáy*.
 NEG 聞く 慎重な NEG たら 割れる SFP [情報共有の志向]
 「ほら (見たことか)、前に言ったのに (ちゃんと) 聞いていなかった;
 気を付けないと割れるよ。」

[Lac Việt 2016]

[解釈：話し手は以前聞き手に対して「気を付けないと割れる」と忠告していたが、今また聞き手が「気を付けてないので割れそう」な事態が起こっている。そこで、話し手は *đáy* を用いて聞き手の意識を前の文脈に向け、話し手の忠告を心に留めていなかった聞き手の態度を批判している。]

⁵⁸ (92)において文頭の感動詞 *đáy/đó* と文末詞 *đáy/đó* は共起可能だが、(93)の文末に *đáy/đó* を用いることはできない。否定辞 *có~đâu* 「全く～ない」と共起しにくいためだと考えられる。

(92)' { *Đáy* / *Đó* }, *tôi* *đã* *nói* *trước*
 INTJ [そちら] INTJ [そちら] 私 既に 言う 前
mà không nghe { *đáy* / *đó* }.
 しかし NEG 聞く SFP [情報共有の志向] SFP [情報共有の志向]
 「ほら、前に言ったのに聞いていなかったんだよ。」

(93)' { *Đáy* / *Đó* }, *tao* *nói* *có* *sai*
 INTJ [そちら] INTJ [そちら] あたし 言う [強意] 間違う
đâu { **đáy* / **đó* }.
 NEG SFP [情報共有の志向] SFP [情報共有の志向]
 「*ほら、あたしは全然間違ったことを言っていないんだよ。」

(93) 戯曲

(オアインは、昔の恋人ギエムが社長になったと母から聞かされる。)

オアイン：

<i>Ngoài</i>	<i>ra,</i>	<i>anh</i>	<i>ấy</i>	<i>có</i>	<i>nói</i>	<i>gì</i>	<i>về</i>	<i>nhà</i>
外	出る	兄	その	Q	言う	何	ついて	家 (=夫)
<i>con</i>		<i>không?</i>						
私 [子ども]		Q						

「他に、彼 (=ギエム) は私の夫 (=オアインはギエムではない人と結婚し、新しい家庭を築いている) のことについて何か言ってなかった？」

オアインの母：

<i>Nói</i>	<i>gì?</i>	<i>Mày</i>	<i>làm sao</i>	<i>thế?</i>	<i>Lại</i>	<i>tiếc</i>		
言う	何	お前	どうして	そのよう	また	惜しい		
<i>hả?</i>		{ <i>Đấy</i>	/ <i>Đó</i> },	<i>tao</i>	<i>nói</i>	<i>có</i>		
SFP [疑問]		INTJ [そちら]	INTJ [そちら]	あたし	言う	[強意]		
<i>sai</i>	<i>đâu,</i>	<i>cá</i>	<i>không</i>	<i>ăn</i>	<i>muối,</i>	<i>cá</i>	<i>ươn...</i>	<i>bây giờ</i>
間違う	NEG	魚	NEG	食べる	塩	魚	腐る	今
<i>người ta</i>	<i>quyền</i>	<i>cao,</i>	<i>chức</i>	<i>trọng</i>	<i>mới</i>	<i>thấy...</i>		
人	権力	高い	職	重い	やっと	分かる		

「言うって何を？お前は どうして そうなの？（昔の恋人と別れたことが）惜しくなってきたの？**ほら**（見たことか）、あたしは全然間違っただことを言ってなかった（=昔、ギエムと結婚すればいいと言っていた）、塩漬けにしない魚は腐る（=親の言うことを聞かない子どもはその結果を被る）、今あの人（=ギエム）が権力を持って、重役に就いて、ようやく（ギエムと結婚すべきだったと）分かったのか…。」

[Nguyễn Sỹ Hanh 2009]

[解釈：オアインの母は以前、娘オアインに対して「ギエムと結婚するべきだ」と忠告していたが、オアインは聞き入れなかった。そして今、ギエムが重役についたことから、「ギエムと結婚するべきだ」という忠告が正しかったことが明らかとなった。そこで母親は、*đấy* を用いて娘に過去の出来事を思い出させ、忠告を受け入れなかった娘のことを批判している。]

5. 2. 6 ベトナム語指示詞と同形の感動詞のまとめ

ベトナム語の指示詞と同形の感動詞は、発話の場における状況変化や、聞き手の直前の行動や発言に対する話し手の驚きなどの表出的な意味 (*kia*) を表す expressive interjections だ

けでなく、聞き手の行動を制止する対人的な機能 (*đây, áy*) を持つ *conative interjections* や、聞き手の注意を話し手がこれからする発言 (*này*) や以前なされた発言 (*đây/đó*) に向けさせたり、ターンを保持したりする (*áy*) という談話上の機能を持つ *phatic interjections* として分類できる。本章の議論を表 16 にまとめ、和訳を併記する。指示詞の遠近と比較すれば、*kia* の使用においては距離の対立が中和しているが、*đây* は話し手の現状を、*áy* は2人の間の共有知識を聞き手に照合させるという区別がある。談話標識として使用される際は、*này* と *đây/đó* は談話の前後の方向を区別する。3つ目の談話標識 *áy* は、前の文脈における質問を受けて、これから説明を始める時に使われるため、両方向に注意を向けていると解釈できる。5.2において先行研究として挙げた Bui (2014) の分類と本稿の分類の主な違いは、本稿は *đây* だけでなく、*này* と *áy* にも *phatic* な機能があると指摘したことである。

また、2.6.3 において言及したように、日本語や韓国語、中国語の指示詞と同形の感動詞は、ことばに詰まった時のためらいを表すことができるが、ベトナム語の指示詞と同形の感動詞はそのような機能を持たない。ベトナム語においてことばが続かない時は、5.1 において指摘したように、*ừm* や *uhm* など、他の感動詞が使われる。

表 16. ベトナム語指示詞と同形の感動詞の機能

形式／機能	Expressive	Conative	Phatic
さらに 遠い <i>kia</i>	状況変化、直前の 聞き手の行動や 発言に対する驚き 「あらまあ」		—
近称 単独形 <i>đây</i>	—	話し手の現状と照合して、 聞き手の行動を制止する 「ほらほら、こらこら」	—
‘中称’ 修飾形 <i>áy</i>	—	共通認識と照合して、 聞き手の行動を制止する 「ちょっとちょっと」	話し手が直後から長い ターンをとることを示す 「あのねえ」
近称 修飾形 <i>này</i>	—	—	聞き手の注意を直後の 話し手の発話に向ける 「ねえ (聞いて)」
‘中称’ 単独形 ・修飾形 <i>đây/đó</i>	—	—	聞き手の注意を話し手の 以前の発話に向ける 「ほら (見たことか)」

第6章 おわりに：ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞への文法化

本章では、これまでに述べてきたベトナム語における同形の指示詞・文末詞・感動詞の機能の特徴をまとめ、話し手の事態の認識に対する聞き手の関与度について検討した後、各系列の共通点を指摘する。また、残された課題と今後の展望について述べる。

6. 1 これまでの議論のまとめ

本稿では、他言語における先行研究を概観した後、ベトナム語の指示詞及びそれと同形の文末詞、感動詞の機能について考察した。これまで述べてきたことを表17にまとめ、以下において再確認する。

6. 1. 1 ベトナム語指示詞についてのまとめ

第3章ではベトナム語指示詞の各用法について記述した。3系列あるベトナム語指示詞の単独形と修飾形は、直示用法において、基本的には話し手と指示対象の距離によって使い分けられる。つまり、近称単独形 *dây* と修飾形 *này* は話し手の周囲を、遠称単独形・修飾形 *kia* は近称より広い、話し手が指示対象を直接認識できる範囲を、そして‘中称’単独形 *đây, đó*、修飾形 *ây, ý, đây, đó* は遠称よりさらに広い（直接認識しにくい範囲を含む）範囲を指し示す。この時、聞き手に近い位置は、話し手の主観的な判断により、近称・遠称・‘中称’のいずれによっても指示される可能性がある。よって、中距離を表すのではなく、距離に中立的であることを示すために、本稿では3.2.2以降、‘中称’という表記を採用した。また、指示対象が既に談話に導入済みであるかどうか、使い分けの決定的な基準とならない。遠称 *kia* は近称 *dây* と対になって対比の意味を表すことがあるが、指示対象が2つある時に必ず近称と遠称が選択されるわけではない。

照応用法においては‘中称’が用いられ、不特定の対象を指したり、連動的解釈を持つ先行詞を承けたりすることができる。近称は直示用法と照応用法の間である *textual deixis* として、前方あるいは後方にある言語的テキストを指し示すことができる。遠称は照応用法においては用いられないが、先行詞を伴わない記憶指示用法において‘中称’と共に用いられる。「誰か」や「どこか」などの曖昧な対象を表す場合は、疑問詞の後に‘中称’ *đây* あるいは *đó* が置かれる。近称が曖昧な対象を指示するのは場所表現に限られる。特定の単語が思い出せない時に使う *placeholder* としては、‘中称’修飾形 *ây* が単独形のように用いられる。修飾形が親族名称の後に置かれ三人称を表す時は、‘中称’ *ây* は中立的な意味を表すが、遠称 *kia* を用いると話し手がその人に対して好ましくないイメージを持っていることが示唆される。近称単独形 *dây* が‘中称’単独形 *đây, đó* と対になってそれぞれ話し手と聞き手を

表すことがあるが、この用法は文学作品の中に限られる。

表 17. ベトナム語指示詞とそれと同形の文末詞・感動詞の機能

形式		指示詞											
		直示						照応	記憶指示	曖昧	Place-holder	人称	時間
話し手と指示対象の距離	可視性	聞き手と指示対象との距離	聞き手の指示対象への気付き	複合形	その他								
単独形	<i>đây</i>	近い	○	近/遠	○/×	<i>đây này</i>	—	textual deixis (前方・後方)	—	場所のみ	—	<i>đây/đó</i> と対になって話し手	発話時、 NP+ <i>này</i> 「今」、 NP+ <i>này</i> 「さっき」
修飾形	<i>này</i>					<i>này này, này đây</i>	単独形として扱われる時は列挙					三人称(直示)	
単独形・修飾形	<i>kia</i>	近称より遠い	○	近/遠	○/×	<i>kia kia</i>	近称と対になって対比	—	○	—	—	好ましくない三人称(直示、記憶指示)	発話時から離れた時間、 <i>hôm kia</i> 「一昨日」、 <i>ngày kia</i> 「明後日」
修飾形(・単独形)	<i>kia</i>	—	—	—	—	<i>kia kia</i> の後部要素	—	—	—	—	—	<i>kia</i> よりも遠い時間、 <i>hôm kia</i> 「一昨日」、 <i>ngày kia</i> 「明々後日」	
単独形	<i>đây/đó</i>	遠称より遠い	○/×	近/遠	○/×	<i>đây đây, đó đó</i>	—	前方・後方照応不定の対象、連動的解釈(専用指示詞 <i>này</i>)	○	疑問詞+ <i>đây/đó</i>	—	<i>đây</i> と対になって聞き手	照応
修飾形	<i>ây/y</i>					<i>âyây, y'y</i>	話し手がよく知らない、抽象的、単独形として扱われる時は照応					<i>ây</i> のみ	

系列	形式		文末詞		感動詞
			話し手の知識	聞き手の知識	聞き手の注意を向けさせる方向
近称	単独形	<i>đây</i>	直接経験に基づく判断 - 話し手が即座に行動をとる時 - 疑問に対して即座に答えがほしい時、切迫感 - 発話の場にある証拠に基づいて推測する時	考慮されない	話し手の現状 聞き手の行動 → 制止
	修飾形	<i>này</i>	列挙 眼前 個別化	考慮されない	話し手が直後に話す新情報
遠称	単独形・修飾形	<i>kia</i>	<i>kia/cơ</i> 量や程度についての甚だしい認識差の解消 - 話し手による聞き手の想定 of 修正 - 話し手が修正情報を受け取った時の驚き 批判的	考慮される	—
	修飾形(・単独形)	<i>kia</i>	—	—	発話の場の状況変化 直前の聞き手の行動や発言 → 話し手の驚き
* 中称 *	単独形	<i>đây/đó</i>	情報共有の志向、知識差の解消 - 話し手による新情報の提示 - 話し手による新情報の要求 聞き手への興味関心、友好的	考慮される	話し手が以前した発言 発話の場の現在の状況 → 批判
	修飾形	<i>ây/y</i>	既知の情報の思い出させ - 聞き手に思い出させる時 - 話し手が思い出せない時	考慮される	共有する規範 聞き手の行動 → 制止、 話し手の直後の長い発言

遠称 *kia* と声調の異なる *kia* という形式は、*place deixis* を表すためには使用されないが、*kia kia* という対比的焦点を表す指示詞の複合形の後部要素になったり、*hôm kia* 「一昨日」や *ngày kia* 「明々後日」という語彙化された時間表現の中で、発話時から離れた時を表したりする。

Kia を含む時間表現は、遠称 *kia* を含む表現 *hôm kia* 「一昨日」や *ngày kia* 「明後日」と比較して、発話時からさらに離れた時を表している。近称は発話時に近い時間を表し、‘中称’は照応的に時を指し示す。以上のように、指示詞は主に話し手の空間的・談話的・時間的位置を使い分けの基準とし、聞き手の位置はあまり考慮されない。

6. 1. 2 ベトナム語指示詞と同形の文末詞についてのまとめ

第4章において述べたように、ベトナム語指示詞と同形の文末詞は、話し手が発話時における聞き手の知識の状態を把握しておかなければ正しく選択することができない。‘中称’単独形 *đây* あるいは *đó* は話し手が聞き手に新情報を提示する時、あるいは話し手が聞き手に対して新情報を求める際に使われ、情報量の不均衡の解消を図る。遠称 *kia* はある情報の量や質について話し手と聞き手との間に甚だしい認識差がある場合に用いられ、話し手が聞き手の想定を修正したり、話し手が自身の想定を覆されるような情報を聞き手から受け取った時の驚きを表したりする。文末詞 *kia* は縮約形の *cơ* という形でも使われる。*Cơ* は指示詞や感動詞としては用いられない。遠称 *kia*, *cơ* には聞き手を批判するようなニュアンスがあるが、‘中称’ *đây* は聞き手との親密さを表示する。‘中称’修飾形の *ây* あるいは *ý* は、既に共有しているはずの情報を聞き手に思い出させるために使われる。話し手はその情報を覚えているが聞き手がまだ思い出せていない時には、話し手は *ý* を用いてその詳細を述べる。逆に、話し手が情報を一時的に思い出せなくなっている時には *ý* を用いて聞き手に情報の詳細を提供するよう促す。

近称単独形 *đây* は話し手の発話の場での直接経験に基づく判断を表す。*đây* が用いられる典型的な場面としては、話し手が即座に行動を起こそうとしている時、抱いている疑問に即座に答えがほしい時、発話の場にある証拠に基づいて判断する時などが挙げられる。近称修飾形 *này* は話し手がある情報についての例を列挙する時に用いられる。近称の *đây* や *này* を使用する時に、聞き手の知識の状態は考慮されない。また、*kia* には文末詞としての用法はない。

6. 1. 3 ベトナム語文末詞と同形の感動詞についてのまとめ

第5章では、ベトナム語指示詞は同形の文末詞だけでなく、同形の感動詞も持つことを指摘した。指示詞と同形の感動詞は、話し手が聞き手の注意を向けさせたいと考えている、発話の場における方向、あるいは談話上の方向を表す。まず、*kia* は発話の場の状況変化や直前の聞き手の行動や発言に注意を向けさせる。同時に、その変化に対する話し手の驚きを表す。*Kia* の使用は、話し手と状況変化が起こった場所の距離に左右されない。近称単独形の *đây* は話し手の現在の状況に聞き手の注意を向けさせ、聞き手が行おうとしている行動を制止する。‘中称’修飾形 *ây* は聞き手が発話の場においてしている、あるいはしようとしている行動の制止、たしなめを表す。聞き手の行動は話し手と共有する規範に照らし合わせて意外な行動であることが多く、話し手の驚きも同時に表される。また、*ây* は話し手が長く話し始める前に、聞き手にターンを譲るよう要請する標識としても用いられる。近称修飾形 *này* は話し手がこれから述べる発言に聞き手の注意を向けさせる。一方、‘中称’単独形 *đây* あるいは *đó* は、聞き手の注意を話し手が以前行った発言に向けさせ、それまで話し手が文脈の中で抱いていた思惑と発話の場の状況と照らし合わせて、話し手の正当性を確認する。遠称 *kia* は感動詞としての用法を持たない。

6. 2 ベトナム語指示詞・文末詞・感動詞と聞き手

6.1のまとめから言えることは、ベトナム語の指示詞とそれと同形の文末詞・感動詞は全て、聞き手の注意を方向付ける機能を持つということである。ベトナム語指示詞は、聞き手と指示対象との相対的な位置関係や聞き手がその対象に既に注意を向けているかどうかは使用基準にはならない。一方、指示詞と同形の文末詞は聞き手の注意を命題の内容と、発話時点でのその命題に対する話し手の知識と聞き手の知識の量的・質的差に向けさせる。感動詞は聞き手の注意を話し手の談話の一部あるいは発話の場の状況に向けさせるよう働きかけ、話し手の心理状態も同時に伝える。よって、ベトナム語指示詞は、聞き手を物理的位置の目印として系列の使い分けの基準に組み込んではいないが、指示詞と同形の文末詞と感動詞は認知する主体としての聞き手の存在を使い分けの前提としている。空間的・時間的に位置付けられる人と、認知的な主体としての人を二分することを Mühlhäusler and Harré (1990: 88) は“double location”と呼んでいるが、ベトナム語指示詞の聞き手についてもこれは当てはまる。

6.3 ベトナム語指示詞の文法化とその傾向

6.2 で述べたように、指し示すという対人的な機能を元々持っていたベトナム語指示詞は、文末詞や感動詞へと変化する際に、遠称に由来する文末詞 *co* 以外は形式を縮小させないまま、一つの談話のまとまりを超えて話し手や聞き手が持っている体験・情報と発話の場をつなぐという語用論的機能が強化されている。このような現象は伝統的な文法化という概念、つまり語彙的要素から機能的要素へと変化するという定義から逸脱しているように見える。このような問題に対して、作用域の拡大（節の中で作用していた要素が文と文をつなぐようになるなど、より大きな作用域の中で機能するようになること（小野寺典子 2014: 5）を含む変化も定義を拡大して文法化に含めるとする立場もあれば（Brinton 2001）、“pragmaticization” という新たな用語を用いる研究者もいる。Hayashi and Yoon (2010: 58) によれば、pragmaticization とは、“the process whereby grammatical items evolve into pragmatic markers that serve specific discourse functions to such an extent that they display a number of phonological, morpho-syntactic, and/or semantic characteristics that diverge crucially from their original usages as grammatical items” のことである。

いずれの名称で呼ぶにしても、ベトナム語指示詞は同形の文末詞・感動詞へと変化することにより、一つの形式が多種多様の機能を持つに至っている。表 17 に示したようにその機能はあまりにも多岐に渡るため、place deixis を端緒とする discourse deixis への直線的な変化の過程を仮定することは困難である⁵⁹。しかし、たとえそうであっても、近称・遠称・‘中称’の各系列について、指示詞・文末詞・感動詞を結ぶ、いくつかの傾向を指摘することができる。

近称単独形 *đây* は指示詞として話し手や発話時から近い、確定している対象を指示する。文末詞としての *đây* は発話の場における話し手の直接経験に基づく情報を表示する。感動詞としては、聞き手の注意を話し手に引き付ける。指示詞近称修飾形の *này* も話し手に近い対象を表すが、単独形のように扱われてコンピュータの主語となることがあり、その場合は列挙を表す。文末詞としての *này* も列挙を表すため、指示詞と文末詞の関連が示唆される。感動詞 *này* も話し手のコントロール下にある話し手の次の発言に注意するよう合図する。以上のように、近称 *đây* や *này* は話し手が直接的な手がかりをもって知り得ている情報を新たに聞き手に提示する時に用いられると言える。

‘中称’指示詞は、確定した対象も、不確定の対象も指すことができ、広範囲に用いられる。直示用法では直接認知できない対象を指すことができ、照応用法においても不確定の対象を指示したり、他にも曖昧な対象や思い出せない単語をあたかも確定しているかのように指示したりすることができる。‘中称’指示詞と同形の文末詞に共通する特徴は、聞き手

⁵⁹ Bui (2014: 233) は、‘中称’修飾形 *áy* について、共有知識を前提とする *recognitional use* からより主観的な文末詞へ、そして、“二人称+文末詞 *áy*” という形式で聞き手の注意を引くことができることから、その次に聞き手への反感を表す感動詞へ、という文法化の道筋を想定している。その他の形式 *đây*, *này*, *đây/đó*, *kia* の発展過程については触れられていない。

と情報を共有することを志向していることである。文末詞としての単独形は互いの知識の均衡を図るために用いられ、修飾形は共有知識を活性化するために用いられる。単独形は感動詞としても過去の共有知識を参照し、修飾形も共有知識を参照した上での判断を示す。特に、修飾形 *áy* については、指示詞としての *placeholder* 用法と疑問を表す文末詞としての用法の間には、一次的に引き出せなくなっている話し手の知識に関連するという共通項がある。感動詞としての‘中称’単独形は話し手の過去の発言の正当性を遡って確認し、‘中称’修飾形も聞き手に共有規範を思い出させようとする。

遠称は話し手から距離があるが、明らかな輪郭を持った情報を示す。指示詞としては直接認識できる対象の指示や、二項対立の場合に用いられ、文末詞としては話し手と聞き手の間に明らかに認識差がある時に用いられる。*Kia* も遠称 *kia* に関連する、発話時から離れた時間を指す機能を持つ。また、話し手と指示対象の距離に拘わらず用いられる感動詞として、発話の場に新たに出現した可視的な対象への注意喚起と、その変化への話し手の驚きの表現という機能を担っている。この用法は *kia* が元来指示詞として遠い場所を指す機能を持っていた痕跡だと推測される。

以上のことから、認知する主体としてのベトナム語話者は、指示詞や同形の文末詞、感動詞を用いて、情報を以下の図4のように振り分けていると考えられる。それは、A. 話し手が制御可能な情報、B. 制御はできないが、認識可能な情報、そしてC. 聞き手と共有するつもりのある情報である。この図は指示詞の距離区分を示した図3 (§3.2.1) と同じく同心円であるが、図3との違いは、話し手の対面に、同じく認知する主体としての聞き手を想定するかどうかである。指示詞・文末詞・感動詞が他の系列の形式と共起したり、交換可能であったりする事実を考え合わせれば、図3と同じく、包含を許容する区分を設定するべきであろう。

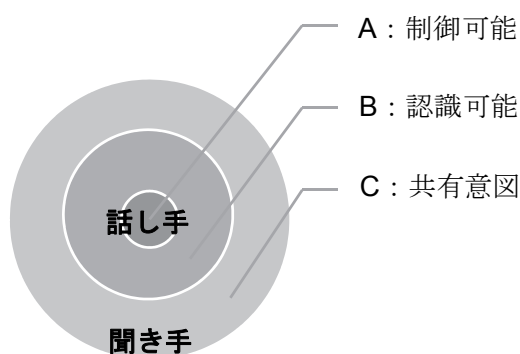


図4. ベトナム語における情報の特徴付け

6. 4 残された課題と今後の展望

本研究は、共時的なデータを用いて、ベトナム語指示詞と同形の文末詞、感動詞の各用法を記述し、各用法が共通点を持っていることを示した。その点を直線で繋ぐためには、通時的なデータを実証的に検証することも必要である。しかし、ベトナム語の書記体系は歴史的に漢語の影響を大きく受けているため (Edmondson 2006: 432)、歴史的資料を読み解く際には、ある形態論的・統語論的特徴が漢語由来のものであるか、ベトナム語固有のものであるのかを区別する際に、困難が予想される⁶⁰。そこで、ベトナム各地や在外ベトナム系コミュニティにおいて調査を行い、今回主に扱ったベトナム語北部方言との方言差や言語変種の差を比較することも、変化の過程を探る有効な手段であると考えられる。特に、言語が接触している状況において文法化の過程は非常に生産的で、早く進むとされる (Wischer 2006: 134)。今後ベトナム語指示詞の多義性の成り立ちを解明する上で、本研究は基礎的資料となりえるだろう。

また、林徹 (2014: 13-15) は、2人組でレゴブロックを組み立てるという実験的な手法を用いた日本語指示詞の研究の例 (林・安達・神庭 2013) を挙げて、指示詞と感動詞及びジェスチャーが共起する場面について考察し、それらが緊密に結び付いて運用されていることを指摘している。よって、今後のベトナム語指示詞・文末詞・感動詞の研究の一つの方向性として、戯曲や小説といったテキストや、話題に制限を設けない自然談話の分析だけでなく、実験的な手法を適用し、各要素の使用条件について検討することも意義があると考えられる。

⁶⁰ 富田 (2000) によれば、ベトナムでは、「固有のことばを書き記すために、漢字をそのまま借りてヴェトナム語の音や意味・概念を表したり、あるいは漢字を複合させたり、加工したりして用いる試みがなされていた (pp.21-22)」。そのために使われた文字は「字 (チュウ)・喃 (ノム)」と呼ばれる。また、「その起源は、3世紀とも8世紀とも、さらにはもっとくだって10世紀ともいわれるが、[...] 爛熟期を迎えるのは、さらにくだって16~19世紀のことである (p.22)」。竹内 (1988) を参考にすれば、基本的な指示詞 *đây, này, đây, đó, ấy, kia* に対応するチュウノムの一例として、「低 (*đê*) (p.143)」、「尼 (*ni*) (p.340)」、「帝 (*đế*) (p.143)」、「妬 (*đố*) (p.152)」、「意 (*ý*) (p.5)」、「箕 (*kỳ*) (p.259)」が挙げられる。よって、指示詞のそれぞれの音声形式は、*đây* と *đây* の声調の違いなどの細かい点を含めて、チュウノムでもある程度書き分けられていたと考えられる。

引用したデータ

- Lạc Việt (2016) Từ điển Việt-Việt (越越辞典) . <http://tratu.coviet.vn/hoc-tieng-anh/tu-dien/lac-viet/V-V/dây.html> [2016年3月アクセス] .
- My_love_is_blue (2014) Tiểu yêu của anh (僕の小悪魔) . <http://sstruyen.com/doc-truyen/truyen-teen/tieu-yeu-cua-anh/chuong-3/500380.html> [2016年3月アクセス] .
- Nguyễn, Hiền (2013) Vận chuyển Minh Thành (ミンタイン運送) . <http://minhthanh.blogspot.jp/2013/09/giay-bup-be-hong-va-tang-0-thang-may.html> [2016年3月アクセス] .
- Nguyễn, Nhật Ánh (2005) *Kính vạn hoa* (万華鏡) . 1. Hà Nội: Nhà xuất bản Kim Đồng.
- Nguyễn, Sỹ Hanh (2009) *Kịch Sỹ Hanh* (シー・ハインの劇) . Hà Nội: Nhà xuất bản Sân khấu.
- Trịnh, Lâm Ngân (1969) Cảm ơn (ありがとう) . http://lyric.tkaraoke.com/34689/cam_on.html [2016年3月アクセス] .
- Yoshimoto, Banana (2007) Vũ Hoa (trans.) *Vĩnh biệt Tugumi* (つぐみとの別れ) . Đà Nẵng: Nhà xuất bản Đà Nẵng.
- 石康 (2007) 《奋斗》南昌：百花洲文艺出版社.

参考文献

- Adachi, Mayumi (2008) Từ chỉ vị trí trong tiếng Nhật và tiếng Việt (日本語とベトナム語の指示詞) . In: *Proceedings of the 3rd International Conference on Vietnamese Studies*, 5–14. Hanoi: Vietnam National University, Hanoi.
- Adachi, Mayumi (2011a) Vietnamese demonstratives *đây, đó, kia*. In: Sophana Srichampa, Paul Sidwell and Kenneth Gregerson (eds.) *Austroasiatic studies: Papers from ICAAL 4. 2*. Mon-Khmer Studies Journal, Special issue 3, 1–8. Canberra: Pacific Linguistics, Salaya: Mahidol University, Dallas: SIL International.
- Adachi, Mayumi (2011b) On Vietnamese demonstratives. In: Mitsuaki Endo (ed.) *Papers in Austroasiatic and Austronesian linguistics*, 80–89. Tokyo: Linguistic Circle for the Study of Eastern Eurasian Languages.
- Adachi, Mayumi (2012) Tiêu từ tình thái cuối câu và thán từ cùng hình thái với từ chỉ vị trí trong tiếng Việt (ベトナム語における指示詞と同形の文末モダリティ小詞と感動詞) . Oral presentation at the 4th International Conference on Vietnamese Studies. Vietnam National Conference Center, 27 November 2012.
- Adachi, Mayumi (2013a) Interjections isomorphic with demonstratives in Vietnamese. Poster presentation at the 13th International Pragmatics Conference. The Indian Institute of Technology, 12 September 2013.
- Adachi, Mayumi (2013b) Sentence-final use of Vietnamese demonstratives. Oral presentation at the Linguistic Society of Hong Kong, 2013 Annual Research Forum. The Hong Kong Polytechnic University, 30 November 2013.
- Ameka, Felix K. (2006) Interjections. In: Brown (2006), 743–746.
- Anderson, Stephen R. and Edward L. Keenan (1985) Deixis. In: Timothy Shopen (ed.) *Language typology and syntactic description: Grammatical categories and the lexicon*, 259–308. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brinton, Laurel J. (2001) From matrix clause to pragmatic marker: The history of *look*-forms. *Journal of Historical Pragmatics* 2(2): 177–199.
- Brown, Keith (ed.) (2006) *Encyclopedia of language and linguistics*. Second edition. Amsterdam, Tokyo: Elsevier.
- Bui, Linh Thuy (2014) Vietnamese demonstratives: A spatially-based polysemy network. Doctoral dissertation, The University of Queensland.
- Chafe, Wallace (ed.) (1980) *The pear stories: Cognitive, cultural, and linguistic aspects of narrative production*. Norwood, New Jersey: Ablex.
- Cleary-Kemp, Jessica (2007) Universal uses of demonstratives: Evidence from four Malayo-Polynesian languages. *Oceanic Linguistics* 46(2): 325–347.

- Cooke, Joseph R. (1968) *Pronominal reference in Thai, Burmese, and Vietnamese*. Berkeley, Los Angeles: University of California Press.
- Crisfield, Arthur. G. (1974) Lao final particles. In: Nguyen Dang Liem (ed.) *South-east Asian Linguistic Studies*. 1, 41–45. Canberra: Pacific Linguistics.
- Deepadung, Sujaritlak and Suriya Ratanakul (1997) Final particles in conversational Mal (Thin). *Mon-Khmer Studies* 27: 81–89.
- Diessel, Holger (1999) *Demonstratives: Form, function and grammaticalization*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Diessel, Holger (2006) Demonstratives. In: Brown (2006), 430–435.
- Dixon, Robert M. W. (2003) Demonstratives: A cross-linguistic typology. *Studies in Language* 27: 61–112.
- Đoàn, Thiện Thuật, Nguyễn Khánh Hà and Phạm Như Quỳnh (eds.) (2005) *Thực hành tiếng Việt, trình độ C: Sách dùng cho người nước ngoài* (ベトナム語の実践、レベルC : 外国人用教本) . Hà Nội: Nhà xuất bản Thế giới.
- Edmondson, Jerold A. (2006) Vietnamese. In: Brown (2006), 432–436.
- Emeneau, Murray B. (1951) *Studies in Vietnamese (Annamese) grammar*. Berkeley, Los Angeles: University of California Press.
- Fillmore, Charles. J. (1982) Towards a descriptive framework for spatial deixis. In: Robert J. Jarvella and Wolfgang Klein (eds.) *Speech, place and action: Studies in deixis and related topics*, 31–59. Chichester [West Sussex]: Wiley & Sons.
- Fischer, Kerstin and Martina Drescher (1996) Methods for the description of discourse particles: Contrastive analysis. *Language Sciences* 18(3–4): 853–861.
- Gupta, Anthea F. (1992) The pragmatic particles of Singapore colloquial English. *Journal of Pragmatics* 18(1): 31–57.
- Hagège, Claude (1993) *The language builder: An essay on the human signature in linguistic morphogenesis*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Hancil, Sylvie, Alexander Haselow and Margje Post (eds.) *Final particles*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Hancil, Sylvie, Margje Post and Alexander Haselow (2015) Introduction: Final particles from a typological perspective. In: Hancil, Haselow and Post (eds.) (2015), 3–36.
- Hayashi, Makoto and Kyung-Eun Yoon (2010) A cross-linguistic exploration of demonstratives in interaction: With particular reference to the context of word-formulation trouble. In: Nino Amiridze, Boyd H. Davis and Margaret Maclagan (eds.) *Fillers, pauses and placeholders*, Typological studies in language 93, 33–66. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Himmelmann, Nikolaus P. (1996) Demonstratives in narrative discourse: A taxonomy of universal uses. In: Barbara A. Fox (ed.) *Studies in anaphora*, Typological studies in language 33, 206–254. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.

- Hồ, Hải Thụy, Chu Khắc Thuật and Cao Xuân Phổ (eds.) (2007) *Từ điển Anh-Việt* (英越辞典). Thành Phố Hồ Chí Minh: Nhà xuất bản Thành Phố Hồ Chí Minh.
- Hopper, Paul J. and Elizabeth C. Traugott (1993) *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Iwasaki, Shoichi and Preeya Ingkaphirom (2005) *A Reference Grammar of Thai*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Iwasaki, Shoichi and Foong Ha Yap (2015) Stance-marking and stance-taking in Asian languages. *Journal of Pragmatics* 83: 1–9.
- Kamio, Akio (1994) The theory of territory of information: The case of Japanese. *Journal of Pragmatics* 21(1): 67–100.
- Kitagawa, Chisato (2006) Interjectional demonstratives are demonstratives. 鈴木右文・水野佳三・高見健一 (編) 『言語科学の真髄を求めて—中島平三教授還暦記念論文集』 79–100. 東京: ひつじ書房.
- Kratochvíl, František (2007). A grammar of Abui: A Papuan language of Alor. Doctoral dissertation, Leiden University.
- Kratochvíl, František (2011) Discourse-structuring functions of Abui demonstratives. In: Foong Ha Yap, Karen Grunow-Hårsta and Janick Wrona (eds.) *Nominalization in Asian languages: Diachronic and typological perspectives*, Typological studies in language 96, 757–788. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Le, Giang Ha (2015) Vietnamese sentence final particles. Master's thesis, University of Southern California.
- Lê, Thị Hoài Dương (2002) Tiêu từ tình thái cuối câu tiếng Việt và việc dạy tiêu từ tình thái cuối câu tiếng Việt cho người nước ngoài (ベトナム語の文末モダリティ小詞とベトナム語の文末モダリティ小詞の外国人への教授). Master's thesis, Vietnam National University, Hanoi.
- Lê, Thị Minh Hằng (2010) *Thế/vậy* dưới góc độ thực hành tiếng [言語実践の視点から見る *thế/vậy*]. *Ngôn ngữ* 248(1): 68–79.
- Lionett, Florian (2013) The typology of demonstratives clarified: Verbal demonstratives in Jul'hoan. Oral presentation at the Association for Linguistic Typology, 10th Biennial Conference. University of Leipzig, 17 August 2013.
- Luke, Kang Kwong (2002) On demonstrative interjections. Oral presentation at the 3rd Workshop on Cantonese: Deictic properties of Cantonese particles. Hong Kong University of Science and Technology, 13 April 2002.
- Lyons, John (1977) *Semantics*. Cambridge; New York: Cambridge University Press.
- Marmaridou, Sophia (2010) Deixis. In: Louise Cummings (ed.) *The pragmatics encyclopedia*, 101–105. London: Routledge.

- Matthews, Stephen and Virginia Yip (1994) *Cantonese: A comprehensive grammar*. London, New York: Routledge.
- Mühlhäusler, Peter and Rom Harré (1990) *Pronouns and people: The linguistic construction of social and personal identity*. Oxford, Cambridge: Blackwell.
- Nguyễn, Đình-Hòa (1997) *Vietnamese: Tiếng Việt không son phấn* (素顔のベトナム語). Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Nguyễn, Như Ý (ed.) (1999) *Đại từ điển tiếng Việt* (ベトナム語大辞典). Hà Nội: Nhà xuất bản Văn hóa - Thông tin.
- Nguyễn, Phú Phong (1992) Vietnamese demonstratives revisited. *Mon-Khmer Studies* 20: 127-136.
- Nguyễn, Phú Phong (2002) *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt: Loài từ và chỉ thị từ* (ベトナム語文法の諸問題: 類別詞と指示詞). Hà Nội: Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Nguyễn, Tài Cẩn (1996) *Ngữ pháp tiếng Việt: Tiếng—từ ghép—đoạn ngữ* (ベトナム語文法: 語一複合語一句). Hà Nội: Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Nguyen, Thi Ha Thuy (2014) 「ベトナム語指示詞について—日本語と韓国語との対照を基に一」『京都大学言語学研究』33, 167-195.
- Nguyen, Thi Ha Thuy (2015) 「ベトナム語における様態・性質の指示詞—現場指示・非現場指示をめぐって—」『京都大学言語学研究』34, 41-67.
- Nguyen, Tuong Hung (2004) The structure of the Vietnamese noun phrase. Doctoral dissertation, Boston University.
- Norricks, Neal R. (2009) Interjections as pragmatic markers. *Journal of Pragmatics* 41(5): 866-891.
- O’Neal, George C. (2013) Teleological & dolichological discourse marking in oral American media: The discourse markers “so” & “okay”. Doctoral dissertation, Niigata University.
- Paillard, Denis. (2015) A study of three particles in Khmer: *tiv, mɔək, coh*. In: Hancil, Haselow and Post (eds.) (2015), 305-329.
- Pham, Duy Tai (2014) 「ベトナム語の指示詞がモダリティとして疑問文文末に現れる現象について」修士論文, 一橋大学.
- Phạm, Văn Hào (ed.) (2009) *Từ điển phương ngữ tiếng Việt* (ベトナム語方言辞典). Hà Nội: Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.
- Phan, Mạnh Hùng (1985) Các kiểu tổ hợp tiểu từ tình thái tiếng Việt và vấn đề ranh giới từ (ベトナム語モダリティ小詞の複合パターンと語境界の問題). *Ngôn ngữ* 4: 47-49.
- Rhee, Seongha (2012) Context-induced reinterpretation and (inter)subjectification: The case of grammaticalization of sentence-final particles. *Language Sciences* 34(3): 284-300.
- Schapper, Antoinette and Lila San Roque (2011) Demonstratives and non-embedded nominalisations in three Papuan languages of the Timor-Alor-Pantar family. *Studies in Language* 35(2): 380-408.
- Schiffrin, Deborah (1987) *Discourse markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Schröder, Marc (2003) Experimental study of affect bursts. *Speech Communication* 40(1-2): 99-116.

- Taylor, Yuki (2015) The evolution of Japanese *toka* in utterance-final position. In: Hancil, Haselow and Post (eds.) (2015), 141–156.
- Thompson, Laurence C. (1965) *A Vietnamese reference grammar*. Seattle: University of Washington Press.
- Trần, Thị Nhân (2009) Ý nghĩa và chức năng của từ *đây* (*đây* という語の意味と機能) . *Ngôn ngữ* 245(10): 11–22.
- Traugott, Elizabeth C. (著)、福本広二 (訳) (2010) 「文法化と (間) 主観化」高田・椎名・小野寺 (2011), 59–70.
- Wierzbicka, Anna (1992) The semantics of interjection. *Journal of Pragmatics* 18(2–3): 159–192.
- Wilkins, David P. (1992) Interjections as deictics. *Journal of Pragmatics* 18(2–3): 119–158.
- Wischer, Ilse (2006) Grammaticalization. In: Brown (2006), 129–136.
- Wong, Jock (2004) The particles of Singapore English: A semantic and cultural interpretation. *Journal of Pragmatics* 36(4): 739–793.
- Yap, Foong Ha, Jiao Wang and Kazuhiro Sakurai (2010) On the grammaticalization of demonstratives: A crosslinguistic perspective. Oral presentation at the 2010 Seoul International Conference on Linguistics. Korea University, June 23 2010.
- 安達真弓 (2008) 「ベトナム語指示詞 *đây*, *đó*, *kia* の直示用法と照応用法—日本語指示詞との対象を基に一」『東京大学言語学論集』27: 207–215.
- 安達真弓 (2009) 「ベトナム語指示詞の直示用法における聞き手の位置と記憶指示用法の *kia* について」『東京大学言語学論集』28: 1–12.
- 安達真弓 (2010) 「ベトナム語の文末詞 *đây*, *này*, *đây*, *ấy*, *kia*」『東京大学言語学論集』30: 1–7.
- 安達真弓 (2012) 「ベトナム語の遠称指示詞 *kia* と *kia* について」『東京大学言語学論集』32: 1–9.
- 飯田真紀 (2005) 「広東語の文末助詞」博士論文, 東京大学.
- 小野寺典子 (2014) 「談話標識の文法化をめぐる議論と「周辺部」という考え方」金水敏・高田博行・椎名美智 (編)『歴史語用論の世界—文法化・待遇表現・発話行為』3–27. 東京: ひつじ書房.
- 外務省 (2015) 「ベトナム社会主義共和国基礎データ」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html> [2016年3月アクセス] .
- 春日淳 (2004) 「ベトナム語」川口裕司・森口恒一・斉藤純男 (編)『通言語音声研究 音声概説・韻律分析』, 言語情報学研究報告 4. 63–78. 東京: 21世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、東京外国語大学 (TUFS) 大学院地域文化研究科.
- 川本邦衛 (編) (2011) 『詳解ベトナム語辞典』東京: 大修館書店.
- 金善美 (2006) 「コ・ソ・アと i・ku・ce の感情的直示用法と問投詞的用法について」『言語文化』8(4): 761–790.

- 木村英樹 (2012)『中国語文法の意味とカタチ—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』東京：白帝社.
- 金水敏・岡崎友子・曹美庚 (2002)「指示詞の歴史的・対照言語学的研究—日本語・韓国語・トルコ語」217-247. 生越直樹 (編)『対照言語学』東京：東京大学出版会.
- 五味政信 (2015)『五味版学習者用ベトナム語辞典』東京：武蔵野大学出版会.
- 朱德熙 (著)、杉村博文・木村英樹 (訳) (1995)『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説』東京：白帝社.
- 高田博行・椎名美智・小野寺典子 (編著) (2011)『歴史語用論入門—過去のコミュニケーションを復元する』東京：大修館書店.
- 高田博行・椎名美智・小野寺典子 (2011)「歴史語用論の基礎知識」高田・椎名・小野寺 (2011), 5-44.
- 田窪行則・金水敏 (1997)「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会 (編)『文法と音声』257-279. 東京：くろしお出版.
- 田窪行則 (2010)『日本語の構造—推論と知識管理』東京：くろしお出版.
- 竹内与之助 (編) (1986)『越日小辞典』東京：大学書林.
- 竹内与之助 (1988)『字喃字典』東京：大学書林.
- 富田健次 (1988)『ベトナム語の基礎知識』東京：大学書林.
- 富田健次 (2000)『ヴェトナム語の世界—ヴェトナム語基本文典』東京：大学書林.
- 西岡いずみ (2004)「カザフ語の指示詞」林徹・梅谷博之 (編)『チュルク系諸言語における接触と変容のメカニズム—研究調査報告』17-33. 東京：東京大学人文社会系研究科・文学部言語学研究室.
- 林徹 (2008)「トルコ語指示詞 *şu* の特徴」『東京大学言語学論集』27: 217-232.
- 林徹・安達真弓・神庭真理子 (2013)「レゴ組み立て課題を通して見る日本語の指示詞コトソ」『東京大学言語学論集』34: 275-290.
- 林徹 (2014)「心と言葉への問い—言葉を心につなぐもの」唐沢かおり・林徹 (編)『心と言葉の迷宮』, 人文知 1. 1-24. 東京：東京大学出版会.
- 林範彦 (2007)「チノ語の疑問文末に現れる3つの助詞について」『言語研究』131: 45-76.
- 深津周太 (2009)「日本語指示詞の感動化—その異例としての「アレ」—」高橋亨 (編)『日本語テキストの歴史的軌跡：解釈・再コンテキスト化・布置—グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第8回国際研究集会報告書』: 1-18.
- 深津周太 (2010)「近世初期における指示詞「これ」の感動詞化」『日本語の研究』6(2): 1-15.
- 深津周太 (2013)「動作を促す感動詞「ソレ／ソレソレ」の成立について」青木博史・小柳智一・高山善行 (編)『日本語文法史研究』2. 107-129. 東京：ひつじ書房.
- ボロターノワ, ヌルザット (2014)「現代キルギス語における指示詞—Aldagi は指示詞か—」修士論文, 東京大学.

- マシューズ, スティーブン、ヴァージニア・イップ (著)、千島英一・片岡新 (訳) (2000)
『広東語文法』東京：東方書店.
- 村上雄太郎 (レー・バン・クー) (2003) 「ベトナム語における関連づけ—日本語との対照を試みて—」『神戸外国語大学外国語研究』58: 45-57.
- レー, バン・クー (1995) 「ベトナム語の CŨNG (も) の意味と用法」つくば言語文化フォーラム (編) 『「も」の言語学』 115-152. 東京：ひつじ書房.
- 朱德熙 (1981) 《语法讲义》北京：商务印书馆.
- 陆镜光 (2005) 〈汉语方言中的指示叹词〉《语言科学》4(6): 88-95.

付録：自然談話のデータ

第4章で用いた自然談話のデータを、*co/kia, đáy, ý/áy* のいずれの文末詞を含むかにより発話のまとまりごとに分類し、日本語による意識を併記する。なお、以下のデータ中において使用した記号は以下の通りである。俳優、作家、筆者を除いて、人名は全て仮名である。データ中には、ベトナム語の母語話者ではない筆者の発話が含まれている箇所があるが、その部分は本文中の分析には使用していない。

データ番号	例	140822_29:40			
		2014年8月22日に録音したデータのうち、			
		録音開始後29分40秒から始まる発話			
発話者	F	父			
	M	母			
	D	娘	=	Bích	ビック
	N1	姪1	=	Tâm	タム
	N2	姪2	=	Thu	トゥー
	A	筆者	=	Adachi	安達
その他	XX	聞き取れなかった箇所			

I. cơ / kia

140820_25:54

M: đâu?

(その靴の修理屋は) どこ?

M: ở chỗ...

場所に...

M: còn một chỗ nữa nổi tiếng

まだもう一つ有名な場所がある

M: ở đâu Lò Đúc mới cả phố gì ở phía trên ý

ロードウック (通り) の始まり、それから上側にある何とか通りだよ

F: đấy

そうそう

M: Phan Chu Trinh mới lại...

ファンチューチン (通り)、それから...

F: đấy

そうそう

M: ở trong ngõ tí tí tí tí tí

チッチッチッチ (と角をたくさん曲がった) 路地の中にある

F: à

ああ

M: ngoằn ngoèo cơ

(その路地はものすごく) くねくね曲がっているんだよ

F: trong ngõ đấy không nói chuyện làm gì

その路地では (靴の修理を注文するのに) 何も話す必要がない

F: vào rồi

(その店に) 入ったことがある

F: anh vào rồi

私は入ったことがある

M: ờ

おお

M: nhà ấy, thẳng đấy đắt như quý ý

その店は、彼 (店員) は鬼みたいに高い (料金を取る) じゃない?

140825_9:47

M: mà có cả Shizuka đến cơ

それから、静香も来たよ

F: uhm

うん

140825_47:15

M: chảy hết cả nước mắt kia

(安達は風邪を引いて、鼻水と) 涙が全部流れ切ったんだよ

F: cúm đấy

インフルエンザだよ

M: cúm mà

インフルエンザに決まっている

M: cái này cúm

これはインフルエンザ

F: cúm đấy

インフルエンザだよ

140828_34:14

[本文 p.78 (65) 『航空券』]

M: bố nó đặt

(最初) 父親は(息子のために安い航空券を) 予約した

M: mẹ nó thương

母親は(息子のことを) 不憫に思った

M: mẹ nó bảo là “anh mua cái loại đắt đắt một tý”

母親は(父親に)「もうちょっと高い種類の(航空券)を買ってあげて」と言った

F: uhm

うん

M: cái kia đắt lắm

(実際、) もう一方の(買い直した方の航空券) はとても高かった

M: những hai nghìn mấy cơ

2千何百(ドル)もしたんだよ

F: uhm

うん

140901_2:58

M: sao tưởng

なんで（そういう風に）思ったの

M: cô đấy đi Nhật cơ mà

その（日本語の）先生は（今）日本に行ってるじゃない

140901_3:58

M: cái Tâm cơ mà

タムに決まってるじゃない

140901_7:41

M: con khai từ lần trước cơ mà

あなたは前回（誓約書を）書いたじゃない

M: lần con nói chuyện với An ý

アンと話した時だよ

140901_11:47

M: không

いいや

M: không phải cô Trang cô biết

私の知っているチャン先生じゃない

N1: thế à?

そうですか

M: cô Trang, cô biết dạy đại học cơ

チャン先生、彼女は（日本語を）大学で教えられるんだよ

140901_15:28

M: đây

これ

M: cái túi kia nữa kia

あの鞆もだよ

M: có mấy cái nữa đây
まだいくつかあるよ

140901_17:29

M: “em chả thích cái nào cả”
「私はどれも好きじゃない」

M: “em thích giống bạn cơ”
「私は友達と同じの（＝鞆）が好きなんだよ」

140904_18:44

[本文 p.80 (67) 『不動産』]

F: nhưng đây là nó đền bù tương đối đấy
でもこれは、彼女（＝知人）は比較的（土地の買い上げの）補償を受けた方だよ

F: nó, nó, nó...
彼女は、彼女は、彼女は…

M: ừ
うん

M: nhờ
（そうだ）ね

M: bỗng chốc là bỗng rất giàu
本当に突然とても裕福になった

F: đấy
でしょ？

F: thế nên nhiều nơi chết vì cái chỗ đấy đấy
それで、多くの場所でその場所（＝買い上げられた土地）のために死んでいる（人がいる）よ

M: uhm
うん

F: tự nhiên từ từ từ từ từ bé đến lớn, chưa bao giờ có tiền triệu chẳng hạn
勿論、小さい頃から、から、から、から、から大きくなるまで、例えば、今まで何百万ドン（≒何万円）というお金は持ったことがない

F: trong nhà bây giờ tự nhiên tiền tỷ, nó rơi vào trong nhà
家の中には今勿論何十億ドン（≒何千万円）というお金が、それが家の中に落ちてきた

F: ôi giờ ôi
あーあ

F: con cái oánh nhau chí tử

(相続を巡って) 子どもが死ぬまで殴り合う

M: nó bảo cái ông ở gần nhà nó còn một trăm hai mươi tỷ

彼女は、彼女の家の近所に住んでいるお爺さんは、あと 1,200 億 (ベトナムドン=約 6 億円) 持っていると言っていた

F: kinh thế cơ á?

そんなに恐ろしいほど (お金持ち) なの?

F: đất rộng thế cơ á?

そんなに土地が広いの?

M: ông ấy có bao nhiêu nghìn mét ý

彼は何千メートルも (の土地) を持っている

F: à

ああ

M: thế mà bây giờ nó lấy đi rồi

それなのに今それ (=国) が持って行ってしまった

M: ông ấy vẫn còn hai trăm mét ở đây ngay mặt đường luôn

彼はまだここに道に直接面して (土地を) 200 メートル持っている

M: nghĩa là lấy đi bao nhiêu nghìn mét rồi nhá

つまり、もう何千メートル (分) も持って行かれているということだからね

F: ừ

うん

M: vẫn còn hai trăm mét

まだ 200 メートルある

F: trong làng nhiều đất

村の中 (=ハノイ市郊外) にはたくさん土地がある

F: làng ngày xưa đất...

村は昔は土地が...

M: đất thế

高いなあ

F: đây cũng là lên đời đấy

これもまた成金だよ

F: hai trăm mét thì xây biệt thự thoải mái

200 メートルと言ったら、余裕で別荘が建てられる

F: vẫn còn tiền

まだお金が残る

M: uhm

うん

F: cho mỗi đứa một cái xe ô tô, chứ đừng nói là xe máy

一人ずつに自動車をあげる、勿論バイクではなくて

D: mẹ ơi, mẹ

お母さーん、お母さん

F: nhưng mà bây giờ nó đền bù phải công nhận là nó cũng cũng khá hơn ngày xưa đúng không?

でも今それ(=国)が(土地の)補償をしたということは、それは昔よりよくなったと認めなければいけないでしょう?

F: ngày xưa, ngày xưa gần như cướp không

昔、昔はほとんど何も見返りなしで(土地を)奪い取っていた

140904_24:57

M: thế nhờ Adachi làm món gì?

それで安達に何の料理を作るように頼むの?

M: Adachi nấu giỏi lắm

安達は料理が上手だよ

A: haha

はは

M: haha

はは

F: phải có...

いなければいけない...

F: uhm

うーん

F: Kasumi cơ

佳澄(がいなければいけない)

F: ở đây cơ

(料理上手の佳澄が)ここにいたんだよ

140904_47:42

D: uhm

うーん

D: thằng Thành bị đình chỉ một tuần

タインくんが1週間停学になった

M: ôi giờ ôi

まさか

M: thế à?

そうなの

D: định đuổi học cơ

(最初は) 退学になる予定だったんだよ

D: nhưng mà chả biết xin xỏ thế nào đình chỉ

でもどういう風に頼み込んだら停学になったのか、全然分からない

M: chết

あらまあ

M: thế thì hạnh kiểm thằng này là hạnh kiểm gì?

それじゃあ、彼の生活態度(の評点は)何になるの?

D: xong rồi cô Giang

それからザン先生は…

M: năm nay là năm đi thi

今年は受験の年だよ

M: ngu thế

馬鹿だなあ

D: xong rồi cô Giang, cô ý lên lớp

それからザン先生、彼女は教室に来た

D: cô ý nói

先生は言った

D: cô bảo

先生は告げた

D: uhm

うーん

D: uhm

うーん

D: may là đây là vụ đầu năm, chứ nếu mà vào cuối năm thì coi như hạnh kiểm trung bình luôn

運がよかったのは、これ(=娘の同級生が友達を殴ったこと)は年度初めの事件であって、もし年度末に入っていたら、そのまま内申評価が「平均」とみなされる(=内申を下げられてしまう)

M: uhm

うん

D: nên đầu năm thì kiểu còn nhiều cơ hội cho bạn ý...

だから、年度初めは彼のための機会がたくさんあるようなもの...

D: uhm

うーん

D: sửa ý

(生活態度を) 修正する (ための機会だよ)

M: uhm

うん

D: đấy

でしょ?

D: xong rồi cô bảo là con đó...

それから先生は言った、その子は...

D: nó như Chai en ý mẹ ạ

彼はジャイアンみたいなんだよ、お母さん

D: ngang lắm ý

とても手に負えないんだよ

D: chỉ có Huy Phong mới trị được nó thôi

フイ・フォン (=他の同級生男子) がいたらやっとな、彼を懲らしめることができる

M: sợ Huy Phong à?

フイ・フォンを怖がっているの?

D: ngồi cạnh mà

側に座っているじゃない

M: học giỏi không?

勉強はよくできる?

D: không

いいえ

D: người to như cái lu ấy

甕のように体が大きいんだよ

M: nói thế

そんなことを言って

M: nó nghe thấy

彼が聞いたら

M: nó lại nện cho một trận

彼はもう一発殴るよ

M: haha

はは

II. **đấy**

140822_29:40

M: cốc đẹp giấu đi **đấy**

きれいな (=客用の) コップは (使わずに) 隠して (=仕舞って) あるんだよ

140825_4:02

M: thế mà vợ mà nấu à?

(妻が料理をすれば夫は文句を言う) それなのに、妻 (=私) が料理をするの?

M: thì bắt đầu **đấy**

ほら始まった (=文句を言い始めた) よ

140825_6:13

[本文 p.75 (62) 『火傷の薬』]

M: nhà mình có thuốc bỏng **đấy**

うちには火傷の薬があるよ

M: con phải bôi thêm nhá

あなたはもっと薬を塗らなければいけないからね

D: con bôi rồi

私はもう (学校で) 塗った

F: mấy loại

何種類か (ある)

M: uhm

うん

M: mấy loại **đấy**

何種類かあるよ

140825_16:14

M: uhm

うん

M: nem này là rất ngon **đấy**

この春巻きはとても美味しいよ

140825_36:39

F: vợ nó lại là hiệu trưởng nhà
彼の妻はなんと校長だからね

F: thế mà mình không biết
それなのに私は知らなかった

F: năm ngoái thì mình mới biết vợ nó là hiệu trưởng, trường...
去年やっと私は彼の妻は校長だと知って、学校…

F: à
あー

F: trường của Bích **đấy**
ビクの学校だよ

F: trường mẫu giáo ý
幼稚園だよ

140825_38:13

M: nó bò lên ống chỗ rửa ý
それ（＝虫）は炊事場のパイプの上を這っていたんだよ

M: tối thứ bảy ở trên nhà bà ngoại về
土曜日の夜、母方の祖母の家（＝実家）に行って帰ってきた

M: nó to đúng bằng ngón út của em **đấy**
それはちょうど私の小指くらいの大きさだったんだよ

140825_45:25

[本文 p.77 (64) 『一人の昼ごはん』]

M: thế trưa thứ năm Bích ăn gì **đấy** nhờ?
それじゃあ、木曜日の昼、ビクは何を食べるのかな？

D: ăn pi za đi
ピザを食べよう

M: có một mình con **đấy**
（私はお父さんと出掛けるから、その日は家に）あなた一人しかいないんだよ

140825_47:15

M: chảy hết cả nước mắt kia
（安達は風邪を引いて、鼻水と）涙が全部流れ切ったんだよ

F: cúm **đấy**

インフルエンザだよ

M: cúm mà

インフルエンザに決まっている

M: cái này cúm

これはインフルエンザだ

F: cúm **đấy**

インフルエンザだよ

140825_48:19

F: hôm nay mình xem cái cây **nến** kia

今日あのろうそくを（店で）見た

F: một cây kia là hai trăm nghìn

あれは1本2,000ドン（≒10円）

M: bao nhiêu?

いくら？

F: hai trăm nghìn

2,000ドン

M: thật à?

本当に？

F: ở UMA

UMA（=店名）で

M: thế à?

そうなの？

M: nhưng UMA là **nến Việt Nam đấy**

でもUMAはベトナム（製）のろうそくなんだよ

F: ừ

うん

F: **đấy là nến Việt Nam đấy**

それはベトナムのろうそくなんだよ

F: chứ không phải là **nến Đức**

ドイツのろうそくじゃないよ

M: uhm

うん

M: bác Ohashi mua hai cái nền này
大橋さんがこのろうそくを買った

140828_21:07

[本文 p.74 (61) 『クラス変更』]

D: hôm nay giờ thể dục chán quá mẹ ạ
今日の体育の時間はとてもつまらなかったです、お母さん

M: sao?

どうして？

D: thể dục đầu năm có khác
年度初めの体育は（いつもと）違う

D: chưa học bài thể dục nào đấy
まだどの課もやっていない

M: à

ああ

M: em Hương, nó bị chuyển lớp đấy
フオンちゃん、彼女は（テストの成績が良くなかったから）クラスを変えられたんだよ

D: vào lớp nào?

どのクラスに？

M: lớp B

B クラス（＝成績がよくない方のクラス）

D: hahahaha

はははは

140828_23:32

F: mỹ gì?

「なんの麺？」

M: Chợ Lớn đấy

「チョロン（＝ホーチミン市の近くにある中華街）だよ」

140828_25:48

[本文 p.73 脚注 44]

（筆者の暮らしは自由気ままだと評する娘に対して）

M: dậy con này

（安達はベトナムに留学していた時）あなた（＝娘）に（日本語を）教えたし

M: cô tự có tiền để cô đi **đấy**

彼女はベトナムに行くために自分でお金を稼いでいるんだよ

140828_29:37

M: chắc là chị Lan

たぶんランさん

M: chị ý giới thiệu thầy ra **đấy đấy**

彼女が（英語の）先生をそこ（＝日本食レストラン）に行くように紹介したんだよ

M: biết **đấy**

（日本食レストランについてよく）知っているんだよ

M: chị Lan thì hay đến Kỳ Ý mà

ランさんはよく紀伊（＝日本食レストランの名前）に行くじゃない

A: uhm

うん

M: em Lan mà ở trung tâm ý

（英語）センターにいるランちゃんだよ

140828_30:06

M: thằng Long nó đang ở Harvard **đấy**

ロンくんは今ハーバード（大学）にいるんだよ

F: uhm?

へえ？

M: Harvard hẳn hoi chứ không phải là vớ vẩn

ハーバードはきちんとしていて、いい加減（な大学）じゃない

140828_30:43

M: cái suất **đấy** là suất của cháu bác Uyên nhà mình ý

その（研究）ポストはうちの（大学の）ウィエンさんの姪のポストだよ

M: nó đi năm trước

彼女は去年（在外研究のためにアメリカに）行った

M: nó về thì thằng Long đi kế **đấy**

彼女が（ベトナムに）帰ってきたら（今度は）ロンくんが引き継いで行くんだよ

140828_31:16

M: tính ra là mất phải đến ba ngày **đấy**

計算したら（飛行機でニューヨークに着くまでに）3日もかかってしまうんだよ

F: ôi

うわっ

M: khiếp

ひどい

M: nó tưởng cứ tính phác từ ngày nọ qua ngày kia **đấy**

彼（＝知人の息子）はその日（＝出発日）からもう一方の日（翌日）へと見積もっていたんだよ

F: uhm

うん

F: đi XX liên tục

連続して XX へ行く

M: cho nên phải dừng lại hai nơi không?

だから2つの場所に止まらないといけない？

F: uhm

うん

M: chuyển hai lần máy bay

飛行機を2回乗り継ぐ

140828_33:13

F: nghiêm ngặt

厳しい

F: **đấy**

ほら

F: à

あー

F: Ebola **đấy**

エボラだよ

F: mới Mỹ nó chữa được **đấy**

アメリカなら治療できるよ

F: hai thằng bác sĩ của Mỹ chữa khỏi **đấy**

アメリカの2人の医者が回復したよ

F: người khác thì chết rồi

他の人は死んでしまった

F: chết đừ rồi

完全に死んでしまった

F: bác sĩ Mỹ nó trở về

アメリカの医者、彼らは帰ってきた

F: cái nó chữa được ngay

彼らはすぐに回復した

F: đấy

ほら

140828_38:03

F: trên rừng bộ đội ngày xưa **đấy**

(マラリアに罹るのは) 森の中にいた昔の軍隊だよ

F: trên rừng ý

森の中だよ

140828_39:30

M: không

いや

M: có lẽ tráng miệng là những xoài **đấy**

多分デザートはマンゴーだよ

D: thật không?

本当に？

140828_41:16

M: kinh lắm

とても恐ろしい

M: phọt ra ngoài **đấy**

(中の水が) 外に噴き出るよ

M: cháy **đấy**

火傷だよ

M: cháy **đáy**

火傷だよ

D: không

いいえ

140829_14:44

F: trời mưa cả ngày

1 日中雨が降った

D: uhm

うん

D: cầu trời XX

XX を天に祈る

F: mai mưa **đáy**

明日雨が降るんだよ

F: thấy báo thể

(天気予報が) そう言っているのを聞いた

D: hai một giờ bốn lăm

21 時 45 分

140829_19:32

D: mẹ nghe

お母さん、聞いて

D: vấn đề này chắc chắn...

この問題 (=母親が太っていること) は確かに...

M: nào

ほら (と言って、お腹をへこませる)

D: hahaha

ははは

D: hơi lồm vậ

少しへこんだ

M: có đũa thấp hơn **đáy**

(私より) 背が低い人もいるよ

D: rung rung

ゆさゆさ

M: vừa béo vừa lùn **đầy**

(私は) 太っていて、ちびだよ

D: uhm

うん

F: không

いや

140829_21:54

M: bao giờ chẳng rách?

いつ (煮ている鶏の皮が) 破れないことがあるだろう (いや、毎回破れる)

F: lửa to quá

(コンロの) 火が強すぎる

F: rách thêm thế là may **đầy**

さらに破れてもこれなら幸運だよ

F: sáu giờ bắt đầu mới luộc **đầy**

6時から始めてやっと煮えた

F: muộn **đầy**

(もう夕食の時間にしては) 遅いよ

M: ngoài đường ai cũng vội vội vàng vàng

外の通りは誰もが忙しそう

M: uhm

うん

F: làm như là Tết đến nơi

もうすぐ旧正月が来るみたいになっている

M: như Tết ý

旧正月みたいじゃない?

F: uhm

うん

F: đúng rồi

その通り

F: người ta về quê mà

人々は故郷へ帰るんだから

F: nhiều người về quê

たくさんの人が故郷へ帰る

F: tranh thủ đi về quê

何とかして故郷へ帰る

F: nghỉ mấy ngày phải về

何日か休んだら（都会へ）帰らないといけない

140829_26:17

M: làm gì ở đây?

ここで何をしているの？

M: uhm?

うん？

M: uhm?

うん？

M: mẹ hỏi

お母さんが聞いているの

D: con đang bàn

私は（LINE で）話し合っているの

M: cái gì?

何を？

D: con đang bàn

私は話し合っているの

M: đang bàn là cái gì?

何を話し合っているの？

F: khó hiểu

よく分からない

F: Bích nói khó hiểu lắm

ビクの話し方はよく分からない

M: là cái gì?

何を？

B: con đang bàn

私は話し合っているの

M: bàn bàn cái gì?

何を話し合っているの？

B: bàn việc

（とある）事について話し合っているの

M: mà nói còn khó nghe hơn là người nước ngoài nói **đấy**

お前の話し方は外国人が話すよりも聞き取りづらいよ

F: uhm

うん

M: mệt thật **đấy**

本当に疲れるよ

M: nói chả

何も言わない

F: nói phải rõ ràng vào chứ?

話すのならばはっきりしなければいけないでしょ？

M: chả rõ gì cả

全然はっきりしない

M: Adachi nói còn dễ hiểu hơn

安達が話す方が分かりやすい

F: tối nghĩa

意味不明だ

140829_34:48

M: hôm qua đi xem kịch

昨日劇を見に行った

M: thâm thúy ra phết

とても奥が深かった

M: nó lỏng.., nó sáng tác lại cái bài hát

彼（＝俳優）は替え歌…、彼は歌を作り変えた

M: uhm

うーん

M: “Việt Nam không bao giờ đi bán lạc rang” ý

「ベトナムは決して煎りピーナッツを売りに行かない（＝替え歌の一節）」だよ

M: **đấy**

ほら

M: hùng tráng không?

勇壮でしょう？

M: kinh khủng

恐ろしい

M: hôm qua nó chửi bậy ra **đấy**

昨日彼はめちゃくちゃなことを言っていたんだよ

M: “Việt Nam đồng nát muôn năm”

「ベトナム廃品万歳 (= 「祖国ベトナム万歳」 をもじったもの)」

M: haha

はは

F: haha

はは

M: cái làng ấy đi bán đồng nát

(劇中の) その村 (の人たち) は廃品を売りに行く

F: uhm

うん

M: thằng Xuân Bắc, nó đóng buồn cười thật **đấy**

スアン・バックくん (=俳優名)、彼は本当に面白く演じるんだよ

140829_41:32

D: hôm nay cô hỏi con là “thế cái Hương nó chuyển sang lớp B rồi à?”

今日先生は私に「それで (クラスメートの) フオン、彼女はもう B クラスに移ったの？」と聞いた

M: uhm

うん

D: “vâng”

「はい」 (と答えた)

D: hôm nay con gặp Hương

今日私はフオンに会った

D: nó cũng kể thế mà

彼女もそう言ったから

M: uhm

うん

D: uhm

うん

D: lớp đấy nó nghịch lắm **đấy**

そのクラスはやんちゃなんだよ

D: sang bên lớp đấy là không tốt bằng lớp này đâu

そのクラスに移ったら、このクラスと同じくらい良いわけがない

M: uhm

うん

B: thể hóa ra lớp C lớp D năm nay mới là lớp chọn

それで、結局 C クラスと D クラスは今年初めて選抜クラスになった

M: uhm

うん

140901_12:37

M: toàn mới tinh **đầy**

(鞆は) 全部新品だよ

140901_13:10

M: cái **đầy** là học sinh cấp ba **đầy**

それ (=鞆) は高校生 (用) だよ

140901_14:00

M: cái này để giành cho em Bích đi học **đầy**

これ (=鞆) はビクちゃんが学校に行く用にとっておくよ

140901_14:28

M: cái màu của bộ đội này

この軍隊の色の (鞆)

M: thể cô thấy hợp với Thu **đầy**

そう (いう色) だとすると、私はトゥーに合うと思うよ

140901_15:28

M: **đây**

これ

M: cái túi kia nữa kia

あの鞆もだよ

M: có mấy cái nữa **đầy**

まだいくつかあるよ

140901_18:38

M: con Loan **đấy**

(それに当てはまるのは) ロアンだよ

M: mỗi phim nó thích một nghề **đấy**

どの映画 (を見て) も、彼女は (その映画のテーマとなっている) 仕事を好きになるんだよ

140901_19:06

M: cái của Tâm là cái xịn **đấy**

タムの (鞆) は本物だ (=コピー商品ではない) よ

140901_19:17

M: còn cái xanh kia là của Loan mua từ Pháp về **đấy**

それから、あの青いの (=鞆) はロアンがフランスで買ってきたのだよ

140901_19:56

M: ba lô của Hàn Quốc **đấy**

韓国のリュックだよ

140901_19:58

M: cô đi

私が出掛ける (時)

M: cô hay dùng cái này **đấy**

これ (=鞆) をよく使うよ

140901_20:17

N2: à

ああ

N2: có, có

(Wifi の電波が) ある、ある

N2: sign được **đấy**

サインイン出来たよ

140904_14:19

F: trung thu **đầy**

中秋だよ

140904_16:08

F: nhưng rằm trung thu là Nhật Bản cũng ăn **đầy**

でも中秋節は日本も祝うんだよ

140904_17:24

F: **đầy**

ほら

F: năm mươi nghìn thì chắc là là trung thu **đầy**

(町内会が集金に来た) 50,000 ドン (≒250 円) は、えっと、多分中秋 (の募金) だよ

M: cho người nghèo

貧しい人のために

140904_18:44

F: nhưng đây là nó đền bù tương đối **đầy**

でもこれは、彼女 (=知人) は比較的 (土地の買い上げの) 補償を受けた方だよ

F: nó, nó, nó...

彼女は、彼女は、彼女は...

M: ừ

うん

M: nhờ

(そうだ) ね

M: bỗng chốc là bỗng rất giàu

本当に突然とても裕福になった

F: **đầy**

ほら

F: thế nên nhiều nơi chết vì cái chỗ **đầy** **đầy**

それで、多くの場所でその場所 (=買い上げられた土地) のために死んでいる (人がいる) んだよ

M: uhm

うん

F: tự nhiên từ từ từ từ từ bé đến lớn, chưa bao giờ có tiền triệu chẳng hạn

勿論、小さい頃から、から、から、から、から大きくなるまで、例えば、今まで何百万ドン（≒何万円）というお金は持ったことがない

F: trong nhà bây giờ tự nhiên tiền tỷ, nó rơi vào trong nhà

家の中には今勿論何十億ドン（≒何千万円）というお金が、それが家の中に落ちてきた

F: ối giờ ối

あーあ

F: con cái oánh nhau chí tử

（相続を巡って）子どもが死ぬまで殴り合う

M: nó bảo cái ông ở gần nhà nó còn một trăm hai mươi tỷ

彼女は、彼女の家の近所に住んでいるお爺さんは、あと 1,200 億（ベトナムドン＝約 6 億円）持っていると言っていた

F: kinh thế cơ á?

そんなに恐ろしいほど（お金持ち）なの？

F: đất rộng thế cơ á?

そんなに土地が広いの？

M: ông ấy có bao nhiêu nghìn mét ý

彼は何千メートルも（の土地）を持っている

F: à

ああ

M: thế mà bây giờ nó lấy đi rồi

それなのに今それ（＝国）が持って行ってしまった

M: ông ấy vẫn còn hai trăm mét ở đây ngay mặt đường luôn

彼はまだここに道に直接面して（土地を）200 メートル持っている

F: ừ

うん

M: vẫn còn hai trăm mét

まだ 200 メートルある

F: trong làng nhiều đất

村の中（＝ハノイ市郊外）にはたくさん土地がある

F: làng ngày xưa đất...

村は昔は土地が...

M: đất thế

高いなあ

F: đây cũng là lên đời **đầy**

これもまた成金だよ

F: hai trăm mét thì xây biệt thự thoải mái

200メートルと言ったら、余裕で別荘が建てられる

F: vẫn còn tiền

まだお金が残る

M: uhm

うん

F: cho mỗi đứa một cái xe ô tô, chứ đừng nói là xe máy

勿論バイクではなくて、一人ずつに自動車をあげる

D: mẹ ơi, mẹ

お母さーん、お母さん

F: nhưng mà bây giờ nó đền bù phải công nhận là nó cũng cũng khá hơn ngày xưa đúng không?

でも今それ(=国)が(土地の)補償をしたということは、それは昔よりよくなったと認めなければいけないでしょう？

F: ngày xưa, ngày xưa gần như cướp không

昔、昔はほとんど何も見返りなしで(土地を)奪い取っていた

140904_45:23

[本文 p.76 (63) 『母の職場のネズミ』]

M: này

ねえ

M: hôm nay ở cơ quan em, thằng Khánh đánh một con chuột chết **đầy**

今日私の職場で、カインくん(=母親の同僚)がネズミを1匹叩き殺したのよ

F: thế à?

そうなの？

140904_52:08

M: bọn con trai sợ không?

男の子たちは怖がっているの？

D: nó sợ

彼らは怖がっている

D: co hết cả vòi

ホースが縮こまってしまっている

D: haha

はは

M: haha

はは

D: haha

はは

M: haha

はは

M: kinh thể

ひどいなあ

D: haha

はは

D: nó mà nghe thấy thì thật **đấy**

彼らに聞かれてしまったら、本当に（恥ずかしいよ）

III. ý / ấy

140820_6:27

[本文 p.82 (71) 『鉄のお椀』]

F: Bích chạy ra lấy một cái bát đựng xương

ビック、(台所まで) 走って行って、骨を容れる茶碗を持ってきて

F: lấy hẳn cái bát sắt ý

(他の物ではなく) 鉄の茶碗を取ってきて

140820_25:54

M: đâu?

(その靴の修理屋は) どこ?

M: ở chỗ...

場所に...

M: còn một chỗ nữa nổi tiếng

まだもう一つ有名な場所がある

M: ở đâu Lò Đúc mới cả phố gì ở phía trên ý

ロードウック (通り) の始まり、それから上側にある何とか通りだよ

F: đấy

そうそう

M: Phan Chu Trinh mới lại...

ファンチューチン (通り)、それから...

F: đấy

そうそう

M: ở trong ngõ tí tí tí tí

チッチッチッチ (と角をたくさん曲がった) 路地の中にある

F: à

ああ

M: ngoằn ngoèo cơ

(その路地はものすごく) くねくね曲がっているんだよ

F: trong ngõ đấy không nói chuyện làm gì

その路地では (靴の修理を注文するのに) 何も話す必要がない

F: vào rồi

(その店に) 入ったことがある

F: anh vào rồi

私は入ったことがある

M: ờ

おお

M: nhà ấy, thằng đầy đất như quỷ ý

その店は、彼（＝店員）は鬼のように高い（料金を取る）じゃない？

140822_29:28

M: ấy

ほら

M: bao nhiêu cốc này

たくさんのコップがあるよ

M: hôm qua bố cho uống bia thì cốc bé tý ý

昨日お父さんが（友達に）ビールを飲ませた時は小さいコップだったじゃない？

M: toàn là những thợ bia

みんなビール職人（＝ビールをよく飲む人）だった

140822_50:31

F: hoa này màu nghệ chứ không phải màu vàng

この花は黄色じゃなくて、ウコンの色だ

M: uhm

うん

M: đẹp

きれい

F: ơ

おお

F: rẻ

安い

M: cái này bự lắm nhỏ?

これは育ちがいい（＝花が大きい）よねえ？

F: ba mươi nghìn

3千ドン（≒15円）

M: thế à?

そうなの？

M: ba mươi nghìn một chục à?

1束3千ドンなの？

F: uhm

うん

F: đấy

ほら

F: cắm hai mươi nghìn hai lọ

2千ドン（分）を花瓶2つに挿した

F: cái này cắm bảy bông hoa

これは花を7本挿した

F: mười bông nhiều quá

10本は多すぎる

F: chật

（花瓶が）窮屈だ

F: năm bông nếu nó, nó thế này thì cắm năm bông thì đẹp

5本はもしそれ、それがこのよう（に育ちがいい）なら5本差してもきれいだ

M: uhm

うん

M: như thế này này thì vừa

こういうくらいがちょうどいい

M: thừa quá không được

（花瓶に隙間が）余り過ぎているのはよくない

F: thừa quá thì xấu

余り過ぎは美しくない

F: nhưng mà đầy quá xấu

でも満杯も美しくない

F: người mình cắm mười bông

私は10本挿した

M: mười bông thì đầy

10本は満杯だ

F: trông nó, nó, nó, bó, bó

（だから）それを見れば、それ、それは東ねて、東ねてある

F: do tại vì nhà mình nó bé

なぜならうちの家は小さい

F: to nhìn thoải mái

（家が）大きいとゆったり見られる

F: xoè ra to

（この花は）大きく開いている

F: quanh chậ

周りが窮屈だ（から、この花を束ねた）

F: hoa bây giờ đang rẻ nhỏ?

花は今安いねえ？

M: mình nhìn cái hoa này

私はこの花を見たら

M: mình cứ sợ hoa ướp lạnh

私は冷蔵された花じゃないかと（＝新鮮な花ではないと枯れやすいから）恐れてしまった

M: không dám mua

（この花を）敢えて買おうとは思わない

M: nhìn cái màu cứ lạ lạ

（なぜなら）色を見るとちょっと変わっている（と思う）

M: nó kiểu như là hoa dong giềng ý

それはカンナの花みたいじゃない？

M: đây

でしょ？

F: được thì chỉ chơi hai ngày

よくて2日しか持たない

M: hôm nay nó đã nở được nhi?

それは今日咲いたんだよねえ？

M: đẹp nhi?

きれいだよねえ？

F: hôm nay mới đẹp

今日やっときれいになった

M: uhm

うん

F: hôm nay đẹp

今日はきれいだ

F: hôm qua thì chúm chím

昨日は（まだ）ちょっとすぼんでいた

140825_7:27

M: anh ấy gặp cái Minh ý

彼はミンに会ったんだよ

F: uhm

うん

140825_23:50

[本文 p.83 (73) 『ベトナム土産』]

M: người Nhật thích ăn phở, phở ăn liền ý

日本人はフォー、(正確には) インスタントフォーを食べるのが好きじゃない?

F: ù

うん

140825_36:39

F: vợ nó lại là hiệu trưởng nhà

彼の妻はなんと校長だからね

F: thế mà mình không biết

それなのに私は知らなかった

F: năm ngoái thì mình mới biết vợ nó là hiệu trưởng, trường...

去年私はやっと彼の妻は校長だと知って、学校...

F: à

あー

F: trường của Bích đây

ビツクの学校だよ

F: trường mẫu giáo ý

幼稚園だよ

140825_38:13

M: nó bò lên ống chỗ rửa ý

それ (= 虫) は炊事場のパイプの上を這っていたんだよ

M: tối thứ bảy ở trên nhà bà ngoại về

土曜日の夜母方の祖母の家 (= 実家) に行って帰ってきた

M: nó to đúng bằng ngón út của em đây

それはちょうど私の小指くらいの大きさだったよ

140825_39:00

F: cho nên là là là làm sàn sáng ý

だから、えーっと、（虫が見えやすいように）床を明るい色にしたじゃない？

M: uhm

うん

140828_12:56

M: một bữa ý

ある日ね

140828_15:33

D: xong rồi đứng trên núi lửa

それから火山の上に立った

D: xem pháo hoa ý

花火を見たんだよ

D: bụp bụp bụp bụp

パーンパーンパーンパーン

D: haha

はは

140828_15:51

M: truyện tranh của Nhật ý

日本の漫画だよ

D: vâng

はい

M: Conan ý

コナンだよ

D: à

ああ

M: uhm

うん

140828_17:07

[本文 p.85 (75) 『劇』]

F: Adachi xem có nghe và hiểu không?

安達は（劇を）見て、聞いて分かった？

A: năm, năm mươi phần trăm thôi

5、50%だけ

A: haha

はは

F: uhm

うん

F: diễn kịch họ lại nói kiểu khác

演劇では彼らはまた違う言い方をする

M: cái này nó nói nhiều từ kiểu đòi thường ý

これ（＝劇）は普段の生活みたいなことばをたくさん話すじゃない？

F: uhm

うん

M: thế nên Adachi không hiểu được

だから安達は理解できない

F: xem vài lần mới hiểu

何回か見たらやっと理解できる（ようになる）

A: uhm

うん

M: chắc Adachi hiểu được sáu bảy mươi phần trăm

多分安達は6、70%は理解している

A: haha

はは

M: phải hiểu được sáu bảy mươi phần trăm nhi?

6、70%は理解できたでしょう？

A: uhm

うん

F: uhm

うん

D: XX XX XX XX XX XX XX

M: nó nói nhiều câu buồn cười ý

彼は面白い台詞をたくさん言うじゃない？

D: đu

ドゥー（娘は両親の会話に入らず、ふざけている）

M: kiêu kịch Lưu Quang Vũ ấy thật

いかにもリュウ・クワン・ヴー（＝劇作家名）の劇らしい感じだったよ

M: nói xã hội

社会について語る

M: à

あー

F: uhm

うん

M: không phải mình bố nói dối

（劇中の登場人物である）父親だけが嘘をつくんじゃないくて

M: uhm

うーん

M: cả cái đất nước này nói dối

この国全体が嘘をつく

M: thế rồi

それから

M: à

あー

A: haha

はは

M: cái gì nhỏ?

何だろうねえ？

M: à

あー

M: nhưng cái ông nào mà cứ làm..., kiêu sếp ý

でも社会的に地位のある人が上司？みたいなものになると

M: cứ lúc nào mà khó khăn thì không thấy mặt sếp

困難な時はいつでも（そこに）上司はいない

M: lúc nào vỗ tay thì thấy sếp

拍手される時はいつでも上司（の姿）が見える

M: nhưng mà khó khăn là không thấy sếp nào ở đây cả

厄介なことになった時はいつでも（そこに）上司の姿はない…

M: vắng mặt

不在だ

F: đi trước thời đại đấy

（この作家の劇は）時代の先を行っているよ

M: không biết

知らない

F: ngày xưa diễn kịch phải nói là người ta cứ vỗ tay âm âm

昔、演劇といえば、人々（＝観客）は温かい拍手をしていたと言わなければいけない

140828_22:50

D: hôm nay trời mưa mà

今日は雨が降ったじゃない

M: uhm

うん

D: còn có tiết thể dục ý

それから体育の時間があったんだよね

M: uhm

うん

D: vào tiết cuối

授業の終わり（の時間帯）に入ったら

D: thế là bọn con ở trên lớp chơi

そうしたら私たちはクラスに入って遊んだ

D: haha

はは

M: thế không được về à?

じゃあ帰れなかったの？

D: không được về

帰れない

D: sao lại được về?

何で帰れる（と思う）の？

F: XX

XX

M: không học thì được về chứ?

勉強しないなら帰れるでしょ？

140828_24:06

[本文 p.86 (76) 『退屈な授業』]

D: xong rồi

それから

D: **đầy**

ほら

D: **cả lớp ngồi chán quá mẹ ạ**

クラス全体がとても退屈そうに座っていた

D: **toàn nói chuyện ý**

みんな話をしているじゃない？

140828_28:03

M: **giống cháu ý**

孫みたいなものだよ

140828_29:37

M: **chắc là chị Lan chị ý giới thiệu thầy ra đây đây**

たぶんランさん、彼女が（英語の）先生をそこ（＝日本食レストラン）に行くように紹介したんだよ

M: **biết đây**

（日本食レストランについてよく）知ってるんだよ

M: **chị Lan thì hay đến Kỳ Ý mà**

ランさんはよく紀伊（＝日本食レストランの名前）に行くじゃない

A: **uhm**

うん

M: **em Lan mà ở trung tâm ý**

（英語）センターにいるランちゃんだよ

140828_30:43

M: **cái suất đây là suất của cháu bác Uyên nhà mình ý**

その（研究）ポストはうちの（大学の）ウィエンさんの姪のポストだよ

M: **nó đi năm trước**

彼女は去年（在外研究のためにアメリカに）行った

M: **nó về thi thăng Long đi kế đây**

彼女が（ベトナムに）帰ってきたら（今度は）ロンくんが引き継いで行くんだよ

140828_38:03

F: trên rừng bộ đội ngày xưa đây

(マラリアに罹るのは) 森の中にいた昔の軍隊だよ

F: trên rừng ý

森の中だよ

140829_12:39

[本文 p.86-88 (77) 『雨の日』]

M: sao cho phép nghỉ?

なんで (今日の午後は学校が) 休みになったの?

D: cô bảo là, cô gọi điện cho con Thúy

先生は (午後の授業については、学級委員の) トゥイーに電話するって言った

M: uhm

うん

D: bảo là nếu mà chiều nay cứ mưa to như buổi sáng ý

(先生が) 言うには、もし雨がそのまま激しく降り続いたら、ちょうど今朝のようにね

M: uhm

うん

D: thì là

そうしたら

M: nghỉ

休み

B: nghỉ

休み

M: uhm

うん

D: nhưng mà lúc mà con nằm ngủ trưa ý

でも、私が横になって昼寝をしている時にね

M: uhm

うん

D: là con nghe thấy mưa to là con đang sung sướng trong lòng ý

そうしたら、激しいの雨 (の音) が聞こえて、心の中で嬉しかったんだよね

D: thế

そうしたら

D: uhm

うーん

D: một lúc xong rồi

ちょっとしたら

D: à

あー

D: đến hai giờ hết mưa

2時になったら雨が止んだ

D: trời lại sáng

空がまた明るくなった

D: hà

はあ

D: uhm

うーん

D: lúc này không biết đi không thì...

この時行くかどうか知らなかったから...

M: ơ

ああ

M: hai giờ mưa to mà

2時に雨が激しく降ったじゃない

140829_21:54

M: bao giờ chẳng rách?

いつ（煮ている鶏の皮が）破れないことがあるだろう（いや、毎回破れる）

F: lửa to quá

（コンロの）火が強すぎる

F: rách thêm thế là may đấy

さらに破れてもこれなら幸運だよ

F: sáu giờ bắt đầu mới luộc đấy

6時から始めてやっと煮えた

F: muộn đấy

（もう夕食の時間にしては）遅いよ

M: ngoài đường ai cũng vội vội vàng vàng

外の道は誰もが忙しそう

M: uhm

うん

F: làm như là Tết đến nơi

もうすぐ旧正月が来るみたいになっている

M: như Tết ý

旧正月みたいじゃない？

F: uhm

うん

F: đúng rồi

その通り

F: người ta về quê mà

人々は故郷へ帰るんだから

F: nhiều người về quê

たくさんの人が故郷へ帰る

F: tranh thủ đi về quê

何とかして故郷へ帰る

F: nghỉ mấy ngày phải về

何日か休んだら（都会へ）帰らないといけない

140829_34:48

M: hôm qua đi xem kịch

昨日劇を見に行った

M: thâm thúy ra phết

とても奥が深かった

M: nó lỏng.., nó sáng tác lại cái bài hát

彼（＝俳優）は替え歌…、彼は歌を作り変えた

M: uhm

うーん

M: “Việt Nam không bao giờ đi bán lạc rang” ý

「ベトナムは決して煎りピーナッツを売りに行かない（＝替え歌の一節）」だよ

M: đây

ほら

M: hùng tráng không?

勇壮でしょう？

M: kinh khủng

恐ろしい

M: hôm qua nó chửi bậy ra đấy

昨日彼はめちゃくちゃなことを言っていたよ

M: “Việt Nam đồng nát muôn năm”

「ベトナム廃品万歳 (= 「祖国ベトナム万歳」 をもじったもの)」

M: haha

はは

F: haha

はは

M: cái làng ấy đi bán đồng nát

(劇中の) その村 (の人たち) は廃品を売りに行く

F: uhm

うん

M: thằng Xuân Bắc, nó đóng buồn cười thật đấy

スアン・バックくん (=俳優名)、彼は本当に面白く演じるんだよ

140901_7:41

M: con khai từ lần trước cơ mà

あなたは前回 (誓約書を) 書いたじゃない

M: lần con nói chuyện với An ý

アンと話した時だよ

140901_10:38

N2: có con bé lớp cháu ý

私のクラスに女の子がいるんだよね

N2: bố nó cho nó đứng tên quyền sử dụng đất ý

そのお父さんはその子を土地使用権の名義人にしたんだよね

N2: như kiểu bố nó kinh doanh đất đai thì bố nó cần nhiều người ký tên

お父さんが不動産屋を経営していると、お父さんはサインする人がたくさん必要、みたいな

M: uhm

うん

N2: thế là cho chị ý đi ký nợ ký kia

それで、彼女にこれにサインしたら、(次は) あれにサインする

N2: thế là chị ý chưa nghiên cứu chữ ký kỹ

それで、彼女はまだサインの字を注意深く研究しているとは言えない (=あまり上手くない)

N2: lúc ký đưa lên

上に上がってしまう時もある

N2: lúc ký đưa xuống

下に下がってしまう時もある

N2: thế là người ta bắt ký lại nhiều

それで何度もサインし直させられる

N2: nên nó bảo với cháu là “thôi, mày để yên, để tao ký, không mày nhảm giống tao, không ai giao cho mình công nhận”

だから彼女は私に「もう、あんたは静かにしといて。あたしにサイン（に集中）させて。そうしないと、あなたは私と同じように間違う（=あなたにつられて私もサインを間違ってしまう）。（そうすると）誰も私に承認（のサイン）を任せなくなる」と言った

N2: haha

はは

M: haha

はは

N1: thế à?

そうなの？

140901_14:39

[本文 p.84-85 (74) 『日本語の先生の名前』]

N2: σ

あれ

N2: giống cái cô gì ý nhờ?

似ているの何先生だったっけ？

N2: mày cho xem ý

あんたが（前に写真を）見せてくれたじゃない？

N2: uhm

うーん

N2: cái cô dạy tiếng Nhật ý

日本語の先生でさ

N2: của trường Việt Đức ý

ベトナム・ドイツ学校のさ

N1: à

ああ

N1: haha

はは

N1: Hồng, Hồng, Hồng

ホン、ホン、ホン（＝日本語の先生の名前）

140901_17:16

M: con ếch kia là của Loan ý

あのカエル（のイラストが描かれた鞆は）ロアンのだよ

140901_20:16

[本文 p.83 (72) 『蚊』]

M: từ trong này chui ra ý

（蚊はまさに）この（バッグの）中から、通り抜けて出てきたでしょ

140901_41:39

N1: cái gì nhỉ?

（写真を見ながら）何だっけ？

N1: quên

忘れた

N1: chị có gì em nhớ?

私は何を持っているんだっけ？

N1: có biết gì không?

何だか知ってる？

D: quả gì

何かの実

D: quả gì

何かの実

D: quả gì chua ý

酸っぱい何かの実だよ

140904_17:44

F: một năm chả Loan chả lên đọc danh sách ý

ある年、ロアンは（中秋節のイベントに参加したのに）全然名簿の名前を呼ばれなかったじゃない？

D: haha

はは

140904_18:44

F: nhưng đây là nó đền bù tương đối đấy

でもこれは、彼女（＝知人）は比較的（土地の買い上げの）補償を受けた方だよ

F: nó, nó, nó...

彼女は、彼女は、彼女は…

M: ừ

うん

M: nhờ

（そうだ）ね

M: bỗng chốc là bỗng rất giàu

本当に突然とても裕福になった

F: đấy

でしょ？

F: thế nên nhiều nơi chết vì cái chỗ đấy đấy

それで、多くの場所でその場所（＝買い上げられた土地）のために死んでいる（人がいる）よ

M: uhm

うん

F: tự nhiên từ từ từ từ từ bé đến lớn, chưa bao giờ có tiền triệu chẳng hạn

勿論、小さい頃から、から、から、から、から大きくなるまで、例えば、今まで何百万ドン（≒何万円）というお金は持ったことがない

F: trong nhà bây giờ tự nhiên tiền tỷ, nó rơi vào trong nhà

家の中には今勿論何十億ドン（≒何千万円）というお金が、それが家の中に落ちてきた

F: ối giờ ối

あーあ

F: con cái oánh nhau chí tử

（相続を巡って）子どもが死ぬまで殴り合う

M: nó bảo cái ông ở gần nhà nó còn một trăm hai mươi tỷ

彼女は、彼女の家の近所に住んでいるお爺さんは、あと 1,200 億（ベトナムドン＝約 6 億円）持っていると言っていた

F: kinh thế cơ á?

そんなに恐ろしいほど（お金持ち）なの？

F: đất rộng thế cơ á?

そんなに土地が広いの？

M: ông ấy có bao nhiêu nghìn mét ý

彼は何千メートルも（の土地）を持っているじゃない？

F: à

ああ

M: thế mà bây giờ nó lấy đi rồi

それなのに今それ（＝国）が持って行ってしまった

M: ông ấy vẫn còn hai trăm mét ở đây

彼はまだここに 200 メートル持っている

M: ngay mặt đường luôn

道に直接面して

M: nghĩa là lấy đi bao nhiêu nghìn mét rồi nhá

つまり、もう何千メートル（分）も持って行かれているということだからね

F: ừ

うん

M: vẫn còn hai trăm mét

まだ 200 メートルある

F: trong làng nhiều đất

村の中（＝ハノイ市郊外）にはたくさん土地がある

F: làng ngày xưa đất...

村は昔は土地が...

M: đất thế

高いなあ

F: đây cũng là lên đời đấy

これもまた成金だよ

F: hai trăm mét thì xây biệt thự thoải mái

200 メートルと言ったら、余裕で別荘が建てられる

F: vẫn còn tiền

まだお金が残る

M: uhm

うん

F: cho mỗi đứa một cái xe ô tô, chứ đừng nói là xe máy

一人ずつに自動車をあげる、勿論バイクではなくて

D: mẹ ơi, mẹ

お母さーん、お母さん

F: nhưng mà bây giờ nó đền bù phải công nhận là nó cũng cũng khá hơn ngày xưa đúng không?

でも今それ（＝国）が（土地の）補償をしたということは、それは昔よりよくなったと認めなければいけないでしょう？

F: ngày xưa, ngày xưa gần như cướp không

昔、昔はほとんど何も見返りなしで（土地を）奪い取っていた

140904_19:33

D: mẹ ơi

お母さーん

M: uhm?

うん？

D: hôm nay có một anh kiều học xong

今日勉強し終わったような男の人（＝先輩）が（学校に）いたよ

D: học bài trung thu ý

中秋の学課だよ

M: uhm

うん

D: haha

はは

D: thằng Quốc nó cứ ngồi

（クラスメイトの）クオックくん、彼はそのまま座り続けた

D: nó hóng

彼はただ聞いているだけだった

F: Adachi uống cái này ăn cơm

安達、これ（＝酒）を飲みながらご飯を食べなさい

A: uhm

うん

D: nó cứ ngồi

彼はただ座っていた

D: nó hóng hót

彼は黙って聞いていた

D: xong rồi bọn con đang ngồi nghĩ xem còn món gì nữa ý

それから、私たちは他に何の料理があるか考えてみたんだよ

F: cho vào

（ごはんを茶碗に）入れて

F: đánh cơm lên con

ごはんをかき混ぜなさい

D: con đánh rồi

もうかき混ぜたよ

D: xong rồi

もうし終わったよ

F: thôi

もういい

F: vừa thôi

ちょうどいいところでいい

D: xong rồi thằng Thông nó bảo chú?

それから、トンくん、彼が（こういう風に）話し出すに決まってるでしょ？

140904_21:08

[本文 p.82 (70) 『ぜんざい』]

D: uhm

うーん

D: kiểu đó ăn thì phải làm nóng ý

そういうの（=ぜんざい）を食べるなら、熱くしないといけないでしょ

M: uhm

うん

D: không là nó nguội thế nên là

もし（そう）しなかったら、冷めてしまうから

140904_21:37

[本文 p.73 (60) 『学園祭の模擬店の商品』]

D: có bánh brownie này

ブラウニーがある

D: bánh trung thu

月餅

D: mấy vị viếc ý

いくつかの味があるじゃない？

M: uhm

うん

D: xong rồi...

それから

D: uhm

うーん

D: bọn nó làm phòng tôm

彼ら（＝クラスメート）はえびせんべいを作る

D: làm nước soda

ソーダを作る

D: uhm

うーん

D: uhm

うーん

D: bánh mì kẹp

サンドイッチ

D: cái gì nữa ý

他の何かもだよ

D: thế

そういう感じ

140904_24:17

[本文 p.81 (69) 『寒天』]

F: con, tại sao con không

なんで（今回は作らないの）？

F: ngày xưa con làm thạch ý

昔（＝去年）寒天を作ったでしょ？

F: làm thạch chuẩn, con

（学園祭と言えば）寒天を作るのがスタンダードだよ

D: à

ああ

D: đúng rồi...

そうだね...

D: không

いや（だめだ）

D: bọn nó mua thạch bút chì rồi

彼ら（＝他のクラスメートたち）が（学園祭で売るために）もう鉛筆型の寒天を買ってしまっている（から、私は何か他のものを作らなければいけない）

140904_26:22

D: thằng Hoàng Nam, thằng Quốc, nó nghĩ

ホアン・ナムくん、クオックくん、彼らは考えた

D: toàn nghĩ ra mấy chiêu trò để, mà, để hút khách

みんなで、えー、お客を呼び寄せるためのいくつかの看板を考え出した

D: haha

はは

D: ở đâu?

どこ？

D: haha

はは

D: để, kiểu so mấy đứa

(客の入りが) 何人か比べる、ために、みたいな

D: uhm

うーん

D: ngồi trong mấy cái góc sân B ý

校庭 B のいくつかの角に座るんだよ

D: còn bán trong sân B mà

それから (学園祭の模擬店は) 校庭 B の中で売るから

D: xong rồi ngồi nhóm lửa quạt chá

それからつくねを火で焼いてうちわで仰ぐグループが座る

D: haha

はは

D: để cho khói

煙を出すために

D: nó vào những hàng khác

それ (=煙) は他の店に入る

F: haha

D: riêng hàng mình không bị

私たちの店自体には (煙は入って来) ない

D: nên bọn nó cứ vào hàng mình mua

だから、彼ら (=客) は私たちの店に入って買う

D: haha

はは

D: buồn cười, quạt chá

面白い、つくねのうちわ

140904_47:42

D: uhm

うーん

D: thằng Thành bị đình chỉ một tuần

タインくんが1週間停学になった

M: ôi giờ ôi

まさか

M: thế à?

そうなの？

D: định đuổi học cơ

(最初は) 退学になる予定だったんだよ

D: nhưng mà chả biết xin xỏ thế nào đình chỉ

でもどういう風に頼み込んだら停学になったのか、全然分からない

M: chết

あらまあ

M: thế thì hạnh kiểm thằng này là hạnh kiểm gì?

それじゃあ、彼の生活態度(の評点は)何になるの？

D: xong rồi cô Giang

それからザン先生は…

M: năm nay là năm đi thi

今年を受験の年だよ

M: ngu thế

馬鹿だなあ

D: xong rồi cô Giang, cô ý lên lớp

それからザン先生は教室に来た

D: cô ý nói

先生は言った

D: cô báo

先生は告げた

D: uhm

うーん

D: uhm

うーん

D: may là đây là vụ đầu năm, chứ nếu mà vào cuối năm thì coi như hạnh kiểm trung bình luôn
運がよかったのは、これ（＝娘の同級生が友達を殴ったこと）は年度初めの事件であって、
もし年度末に入っていたら、そのまま内申評価が「平均」とみなされる（＝内申を下げられ
てしまう）

M: uhm

うん

D: nên đầu năm thì kiểu còn nhiều cơ hội cho bạn ý...

だから、年度初めは彼のための機会がたくさんあるようなもの...

D: uhm

うーん

D: sửa ý

（生活態度を）修正する（ための機会だよ）

M: uhm

うん

D: đấy

でしょ？

D: xong rồi cô bảo là con đó...

それから先生は言った、その子は...

D: nó như Chai en ý mẹ ạ

彼はジャイアンみたいなんだよ、お母さん

D: ngang lắm ý

とても手に負えないんだよ

D: chỉ có Huy Phong mới trị được nó thôi

フイ・フォン（＝他の同級生男子）がいたらやっとな、彼を懲らしめることができる

M: sợ Huy Phong à?

フイ・フォンを怖がっているの？

D: ngồi cạnh mà

側に座っているじゃない

M: học giỏi không?

勉強はよくできる？

D: không

いいえ

D: người to như cái lu ấy

甕みたいに体が大きいんだよ

M: nói thế

そんなことを言って

M: nó nghe thấy

彼が聞いたら

M: nó lại nện cho một trận

彼はもう一発殴るよ

M: haha

はは

140904_50:35

D: xong rồi cô lên lớp

それから、先生は教室に来た

D: cô nói nói một tý

先生はちょっと（お小言を）言った

D: cô tức

先生は怒った

D: cô bảo là “không còn có lỗ nào cho tôi chui xuống nữa”

先生は「私をもうどんな穴にも潜り込ませないで」と言った

D: xong rồi cứ này nọ

それからあれこれ（言った）

D: “sau vụ này là lớp 9B bị soi mói”

「この事件の後、9B クラス（9年生 B クラス）はあら探しをされる」

D: xong rồi

（言い）終わったら

M: đúng rồi

その通り

M: chắc chắn là mọi người sẽ để ý

絶対みんな気を付ける

D: xong

（言い）終わったら

D: cô, cô nói xong

先生、先生は言い終わったら

D: cô phải đi xuống ý

先生は（教室を）出て行かなければいけなかったんだよ

M: uhm

うん

D: xong rồi lúc tiết cuối cô lại lên

それから授業の終わりに先生はまた（クラスに）入ってきた

D: cô lại nói nói tiếp

先生はまたまた話し続けた

D: cô như cái loa rè

先生はガラガラ声のスピーカーみたい

140904_54:51

M: eo ơi

うわっ

M: nhiều tóc thế nhở?

（床に）髪の毛がたくさんある（落ちている）ねえ？

M: tóc nó cứ rơi xuống ý

髪の毛って勝手に落ちるじゃない？

140905_11:50

M: cái Minh Khang nó bảo là thằng Hiệp ở cái trường bên đây ý

ミンさんとカンさんの夫婦はヒエップくん（＝息子）があちら（＝アメリカ）の学校にいる
と言っていた

M: trường đẹp lắm

学校はとてもきれい

M: mà nhà ở đây kiểu nhà ở thị trấn nhỏ nhỏ ý

それでその建物はちょっと小さな街みたいなんだよ

F: uhm

うん